教学の理念

学長　黒坂　光

京都産業大学は1965年、学祖荒木俊馬によって創設された。戦後日本の精神文化の荒廃を憂慮された学祖は、「建学の精神」を根本理念として、国際社会で活躍できる人材の育成に心血を注ぎ、本学は極めて順調な発展を遂げた。この学祖による「建学の精神」は、その後も歴代の学長により力強く受け継がれ現在に至っている。

本学は創設以来、「建学の精神」に掲げる教育理念に基づく教育を行ってきた。その理念は、自らを厳しく律しつつ、創造力に富み、社会的な義務を怠ることなく、国内外を問わず活躍できる人材を育成することである。そのためには、日本固有の文化の特質や歴史的な意義を理解するとともに、世界各国の文化や文明に通暁し、世界で通用し得る見識と国際感覚を持つことが求められる。

急速に進展する国際化、情報化社会において、本学は、時代の変化に乗り遅れることなく、常に国際社会の動向に注視しながら、豊かな国際感覚と世界に雄飛する行動力のある人材育成のためのカリキュラム編成とその充実に取り組んでいる。今日の社会は、急速な科学技術の進歩や文化・文明の発展に伴い、新たな地球規模の問題に直面している。その解決に向けて、本学は一拠点総合大学の利点を最大限に生かし、体系化された共通教育と専門教育、学部間の壁を取り払ったカリキュラム編成、さらに特色のある大学院のカリキュラムの充実に意欲的に取り組んでいる。

本学が、特に重視するのは、幅広い教養知識と国際社会で活躍できる専門知識の修得に加えて、「建学の精神」に謳われている豊かな人間性と高い倫理観を持った人格形成の確立である。

外国語学部のポリシー

〔英語学科・ヨーロッパ言語学科・アジア言語学科〕

■教育研究上の目的

優れた外国語能力と豊かな教養を涵養し、各国、各地域の言語のみならず、その文化、社会、歴史に精通するとともに、広く国際社会への理解を深め、将来、グローバルな視野に立って各界で活躍できる人材を養成することを目的とします。

英語学科

世界で通用する高度な英語力の習得とともに、第２外国語の基本的運用能力を身につける。さらに英語学、英語圏の文学・文化、英語教育の分野の研究を深め、豊かな教養と柔軟な判断力を備えた真の国際人といえる人材の養成を目的とします。

ヨーロッパ言語学科

専攻する言語の高度な運用能力の習得とともに、英語の確かな運用能力を身につける。さらに専攻語圏およびヨーロッパの文化、社会、歴史、メディアについての研究を深め、豊かな教養と柔軟な判断力を備えた真の国際人といえる人材の養成を目的とします。

アジア言語学科

専攻する言語の高度な運用能力の習得とともに、英語の確かな運用能力を身につける。さらに専攻語圏およびアジアの文化、社会、歴史についての研究を深め、豊かな教養と柔軟な判断力を備えた真の国際人といえる人材の養成を目的とします。

■ディプロマ・ポリシー

次の素養を身につけるために、学部が定めるカリキュラム（教育課程）により学修し、学部が定める卒業要件を満たした者に卒業の認定および「学士（外国語学）」の学位を授与します。

（A）専門分野の知識と理解

a. 効果的な言語運用のために必要な言語知識を有している。
b. 異文化を理解すると同時に自国文化を相対化して理解している。
c. 学習言語そのものの構造や規則に関して体系的に理解している。
d. 世界の情勢と学習言語圏の文化・社会に関して体系的に理解している。

（B）技能

a. 専門的技能
・国際社会で要求される言語運用の土台となる言語スキルを身につけている。
・卒業後も自律的かつ効果的に外国語学習を行う技能を身につけている。
・学習言語を利用して多様な情報を収集し適切に評価する能力を身につけている。

b. 汎用的技能
・複雑な事象の中から、自ら課題を発見する能力を身につけている。
・課題を論理的に分析し、解決策を提示する基本的方法を身につけている。
・ICTを駆使して情報を収集し効果的に発表する方法を身につけている。

（C）態度・志向性

a. 異なる文化や多様な価値観を柔軟に理解しようとする積極性を持っている。
b. 習得した知識や技能を活用して、国際社会の中で主体的に活躍・貢献しようとする意志を持っている。

■カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる目標を達成するために、共通教育科目、専門教育科目等を体系的に編成し、幅広い教養と基礎的な専門知識を育むための講義、演習、実験、実習、実技等を適切に組み合わせた授業科目を開講しています。

カリキュラム（教育課程）については、ナンバリングやカリキュラム・マップ等を用いて、その体系性や構造を明示しています。また、毎学期末に全学部で実施している「学習成果実感調査」により把握する学生の自己成長実感度や、個々の授業とカリキュラム（教育課程）に対する学生からの意見等により、カリキュラム（教育課程）の検証を行います。本学が提供しているカリキュラム（教育課程）の教育成果を自己点検・評価することで、カリキュラム（教育課程）の適正化を図っています。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については、以下のように定めます。

１．教育内容

⑴ 共通教育科目

共通教育科目では、「人間科学教育科目」、「言語教育科目」、「体育教育科目」、「キャリア形成支援教育科目」に区分して授業を開講し、学生が自ら本学が目指す人材像に近づくために必要となる幅広い教養を身につけることを目的とする指導を行います。

⑵ 専門教育科目

英語学科、ヨーロッパ言語学科およびアジア言語学科においては、専門教育科目80単位以上の修得を卒業要件とします。英語学科の専門教育科目は、学部基幹科目、専攻科目および関連科目の３区分から構成され、ヨーロッパ言語学科およびアジア言語学科の専門教育科目は、学部基幹科目、専攻科目、英語科目および関連科目の４区分から構成されます。

＜英語学科＞

（ア）学部基幹科目

言語と文化の多様性や言語の仕組みの基礎を学ぶことで、異文化コミュニケーションのためのスキルや態度の基盤を形成する科目群や、第４次産業革命の時代を生きるために必要な基礎的知識・スキルを外国語学部生が学ぶ科目群が１～４年次に配当されています。

（イ）専攻科目

段階的に専門の英語の運用能力を高めるための「インテンシブ英語」が１～２年次に、卒業後の進路を見据えた専門テーマに関する英語での高度な対話力を育成する「英語専門セミナー」が３～４年次に配当されています。その他、専攻の導入科目としての「イングリッシュスタディーズ入門」「英語情報リテラシー」「基礎演習」が１年次に用意されており、２～４年次配当の講義科目「英語基幹科目」で各専門領域について詳しく学び、３～４年次配当の「英語研究演習」で各自の専門への関心を深く掘り下げることができるように配置されています。また、「英語海外実習」を１年次に置くことで留学して英語を実践する機会を提供しています。

（ウ）関連科目

専攻する専門領域だけでなく、広く専門的教養を身につけるために、他学科・他専攻の専門教育科目も関連科目として履修することができます。関連科目には、その他、教科教育法など教職課程の科目も含まれます。

＜ヨーロッパ言語学科およびアジア言語学科＞

（ア）学部基幹科目

言語と文化の多様性や言語の仕組みの基礎を学ぶことで、異文化コミュニケーションのためのスキルや態度の基盤を形成する科目群や、第４次産業革命の時代を生きるために必要な基礎的知識・スキルを外国語学部生が学ぶ科目群が１～４年次に配当されています。

（イ）専攻科目

それぞれの言語の基礎を学び、総合的なコミュニケーション能力を段階的に身につけていくための「専攻○○語」が１～２年次に、卒業後の進路を見据えたコンテンツベースの総合的な言語科目の「○○専門セミナー」が３～４年次に配当されています（メディア・コミュニケーションと日本語・コミュニケーションの両専攻では、それぞれの専門領域に関して個別のテーマ設定の下、講義＆演習形式で「○○専門セミナー」の授業を行う他、それぞれ「メディア・コミュニケーション・インターンシップ」と「日本語教育実習」を３～４年次に用意しています）。その他、専攻の導入科目としての「○○学入門」「基礎演習」が１年次、「○○語情報リテラシー」が２年次（メディア・コミュニケーション専攻では、「情報リテラシー」が１年次）に用意されており、１～４年次配当の講義科目「ヨーロッパ言語基幹科目」あるいは「アジア言語基幹科目」で各学科の圏域の基礎的専門知識を学び、２～４年次配当の講義科目「専攻基幹科目」で各専門領域について詳しく学び、３～４年次配当の「ヨーロッパ言語研究演習」あるいは「アジア言語研究演習」で各自の専門への関心を深く掘り下げること

ができるように配置されています。また、選択科目として「○○海外実習」を置くことで留学して専攻言語を実践する機会を提供しており、「検定○○語」では初級から上級までの検定試験対策を行います。ただし、メディア・コミュニケーションと日本語・コミュニケーションの両専攻においては、所属する学科の中で開講されている「専攻○○語」で各自が選択した外国語を学びつつ、同時にそれぞれの専攻領域の専門教育科目を学ぶ形を採っています。

(ウ) 英語科目

全ての学部生の英語の運用能力の向上にも力を注ぎます。具体的には、英語を副専攻と位置づけ、選択必修科目として「特別英語」を設置し４単位以上履修することにしています。さらに、２年次に必修科目「英語で学ぶ○○の社会」「英語で学ぶ○○の文化」を置いて、専攻語と英語と日本語を統合する形で、異文化コミュニケーションのスキルや態度を発展させることを目指します（メディア・コミュニケーション専攻では「英語で学ぶ情報社会」「英語で学ぶメディア文化」を置いています)。

(エ) 関連科目

専攻する専門領域だけでなく、広く専門的教養を身につけるために、他学科・他専攻の専門教育科目も関連科目として履修することができます。関連科目には、その他、教科教育法など教職課程の科目も含まれます。

２．教育方法

＜英語学科、ヨーロッパ言語学科およびアジア言語学科＞

語学科目においては、文法や読解指導だけに偏ることなく、現実の社会生活で活用できるコミュニケーションの手段としての外国語の運用能力の育成に主眼を置いており、それを実現するために、日本人教員とネイティブ・スピーカーの教員が緊密に連携して授業と履修指導を行う運営体制を採っています。また、外国語でのコミュニケーション能力、豊かな教養、問題解決能力、チャレンジ精神を持ったグローバル人材を育成することを目標にして、ディスカッションやディベート、プレゼンテーションなどの双方向授業を多くの科目で導入しています。また、その効果的な運用を可能にするために、外国語科目については１クラス30名以下、演習科目については１クラス20名以下の編成を原則としています。

高度な語学運用能力と幅広い専門的教養をバランスよく修得させるために、「専攻別科目」「学科共通科目」「学部共通科目」という３層からなる重層的専門教育を実施します。それぞれの専攻の専門領域を学ぶ「専攻別科目」だけでなく「ヨーロッパ言語基幹科目」「アジア言語基幹科目」を置くことで、特にヨーロッパ言語学科およびアジア言語学科では、それぞれ広くヨーロッパ言語圏あるいはアジア言語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・政治・経済等の知識を修得させます。そしてヨーロッパ言語学科およびアジア言語学科では「英語科目」を副専攻科目として位置付け、学部全体の英語力を向上させる他、「関連科目」として、他学科および他専攻の専門教育科目を選択して、幅広い専門的知識や技能を身につけることを可能にしています。

なお、各授業の時間内外等において学生－教員間、そして教員間や教職員間の対話を促進する取り組みを行い、学生の意見・状況等を反映した授業運営を実施します。

３．学修成果の評価

＜英語学科、ヨーロッパ言語学科およびアジア言語学科＞

各科目の学修成果の評価は、各科目のシラバスに定める成績評価方法により行います。

※入学者の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）については、本学HP⇒（教育情報）参照

外国語学部の教育目標

外国語学部では、建学の精神にのっとり、優れた語学力と高い教養を身につけ、国際社会で活躍できる人材を育成することを教育目標としています。

今日の国際社会は、ますます複雑・多様化の様相を呈しています。また、科学技術の進歩・発展によって世界は、物理的にますます小さくなっています。人的交流がこれまで以上に盛んになり、異文化理解と国際協力の必要性が増大しています。しかし、ことばの壁を乗り越えなければ、真の異文化理解も国際協力も望めません。

言語は、その言語を話す人々のものの見方・考え方、すなわち思考様式と密接な関係があると言われています。つまり、外国語を学ぶことは、その言語を話す国民や民族の立場にたってものを考えることができるようになることであり、その言語が用いられている国や地域の社会・文化について深く理解することを意味します。それが異文化理解や国際協力を推進するための原動力になることは言うまでもありません。

ひるがえって、外国語を学ぶことは、私たちの母語である日本語や日本の社会・文化を新しい視点から見つめ直す機会を与えてくれます。それは、何よりも私たちの思考方法や思考過程をより柔軟性のある豊かなものにしてくれます。これまで、とかく外国からの文化を吸収することに急であった日本が、今後、共生型の国際社会に生きてゆくためには、相手の考えを理解するだけではなく、自らの考えを相手に理解してもらうことが非常に必要となってきます。

外国語の学習を通じて、高い教養を身につけ、堂々と自己主張のできる、しかも日本人の心を失わない人間が、今後の国際社会に生きる日本に求められる人材といえます。外国語学部は、このような人材の育成をめざしています。

Contents ◆ 外国語学部 ◆

◆ 教学の理念

◆ 外国語学部のポリシー

◆ 教育目標

履修要項と履修要項別冊ガイド …… a-1
大学からの連絡事項 …… a-2
学生証 …… a-3

◆ 履修一般事項

セメスター制 …… a-6
　学年とセメスター制
　開講形式
　開講形態
授業科目と単位制 …… a-7
　授業科目
　単位制度
履修登録 …… a-8
　履修計画
　履修登録
　履修登録の流れ
　履修登録方法
　Web履修登録日程等
　履修登録単位数の制限（キャップ制）
　履修登録の注意事項
　履修ガイダンス
　履修中止（ドロップ）制度
授　業 …… a-13
　授業時間
　出席および準備学習の重要性
　休　講
　補　講
　オフィスアワー
試　験 …… a-15
　試験の種類
　定期試験
　追試験
　臨時試験
　試験に関する注意事項
　受験に際してのアドバイス
学業成績 …… a-18
　評価と点数
　成績発表
卒　業 …… a-20
　卒業要件
　卒業時期
　卒業の延期
　卒業見込証明書の発行（7・8セメスター生）

◆ 学　籍 …… a-21

◆ 単位互換制度 …… a-29

◆ 教育課程

履修方法

英語学科 …… b-3
ヨーロッパ言語学科 …… b-19
アジア言語学科 …… b-39

外国語検定試験合格等の単位認定制度 …… b-63

グローバルな学び（GET）

共通教育の必修英語科目 …… b-68
英語による科目 …… b-68
在学留学 …… b-71
海外インターンシップ …… b-76

教職課程 …… b-77

図書館司書課程
学芸員課程 …… b-81
学校図書館司書教諭課程

◆規　程

京都産業大学　学則（抜粋） …… c-3
京都産業大学　履修一般規程 …… c-12
京都産業大学　学籍に関する規程 …… c-14

履 修 要 項

履修要項は、大学での学修におけるルールや履修についての規則、卒業に必要な単位などを示しています。入学時にのみ配付され、卒業するまで使用しますので掲載内容を熟読のうえ、大切に保管し、活用してください。

なお、掲載事項に変更が生じた場合は、履修ガイダンスまたは電子掲示板POSTでお知らせします。

履修要項別冊ガイド

履修要項別冊ガイドは、当該年度に必要な学修における情報を提供することを目的に配付しています。

当該年度に開講される授業科目や履修登録手続など、学修に必要な詳細情報、年間のスケジュール等を掲載しています。

自らの充実した履修計画の策定に、入学時に配付された履修要項と併せて活用してください。

教職免許状取得希望者は、教職課程ガイダンスにおいて配付される「教職課程履修要項」も併せて活用してください。

大学からの連絡事項

1．電子掲示板ＰＯＳＴ

大学からの連絡事項は、電子掲示板POSTで伝達します。

パソコンやスマートフォン等から**1日に1回は必ずアクセスして**、必要な情報を逃さずに確認する習慣をつけてください。

〔主な伝達事項〕

- 緊急連絡事項
- 休講・補講・教室変更等の授業情報
- 定期試験・レポート試験の情報
- 各種行事の情報
- 呼出等、学生個人に向けた情報

〔電子掲示板POSTへのアクセス方法〕

① 本学のトップページを開く
② トップページの「在学生の方」をクリック
③「POSTへのLogin」をクリック
④ 本学発行の「ユーザID」と「パスワード」を入力

〈パソコン版〉

電子掲示板POST URL　：https://portal.kyoto-su.ac.jp/portal/
スマートフォン版URL　：https://portal.kyoto-su.ac.jp/portal/sptop.do

※学外からアクセスする場合は、多要素認証の設定が必要です。詳しくは、本学Webサイト「コンピュータ環境の使い方」をご覧ください。
※スマートフォン版では一部対応していない機能があるため、パソコン版の使用を推奨します。

【休講・補講情報、教室変更情報　検索】
休講・補講及び教室変更は、履修している科目だけではなくすべての情報を検索できます。
休講・補講情報は15分毎に１回更新します。

URL入力 → 認証画面 ID・パスワード入力 → メニュー画面 授業情報 → 授業掲示一覧

【試験情報　検索】
試験期間開始の10日前頃から情報を検索できます。

URL入力 → 認証画面 ID・パスワード入力 → メニュー画面 授業情報 → 定期試験検索 レポート試験検索

2．掲示板（紙掲示）

電子掲示板POST以外に、学内に設置されている掲示板（紙掲示）で大学からの連絡事項を伝達する場合もあります。

電子掲示板POSTでお知らせした内容は、周知されたものとみなします。
電子掲示板POSTを見なかったために生じる不利益は、学生本人の責任となります。
また、掲載後、内容が変更される場合もありますので、電子掲示板POSTを１日に１回はチェックする習慣および登校の際は必ず学内に設置されている掲示板（紙掲示）に目をとおす習慣をつけてください。

学生証

1．学生証

学生証は本学学生としての身分を証明する大切なものです。学内外を問わず常に携帯し、紛失や盗難等がないように注意してください。なお、学生証は、在籍期間中継続して使用しますので大切に扱ってください。

〈表面〉

〈裏面〉

卒業留年および休学等の事由により、在籍期間を延長する場合は、教学センターで必ず更新手続（磁気の書換え、延長する有効期間を記載したシールの取得）を行ってください。

〔学生証番号〕

本学に入学を許可された人に学籍番号を付与し、これを学生証番号とします。この学生証番号は在籍中も卒業後も変わりません。本学でのすべての事務手続はこの学生証番号で処理されますので、学生証番号を間違えないように注意してください。

〔学籍上の氏名〕

学籍上の氏名は、戸籍に記載されているものとします。ただし、外国籍の者は、在留カードに記載されている本名または通名とすることができます。

戸籍に記載されている氏名に外字（旧字体、異体字、俗字等）が使用されている場合は、JIS第一水準及び第二水準の範囲内の文字に変更または全角カタカナをもって充てるものとし、学生証および各種証明書等の氏名に用いるものとします。ただし、学位記の氏名表記はこの限りではありません。

〔顔写真〕

顔写真は本人確認に利用されます。第三者から見て本人確認が行えないと判断される場合は速やかに再交付の手続をとるようにしてください。特に定期試験の際は注意してください。

〔こんなときには学生証が必要です！〕

①授業に出席するとき
②試験を受験するとき
③各種書類等を提出または受け取るとき
④図書館で本を借りるとき
⑤学内施設を利用するとき
⑥通学定期券を購入するとき
⑦学割、各種証明書の発行を受けるとき
⑧本学教職員から提示を求められたとき

【注意】学生証の取り扱いについて

① 学生証を他人に貸与、譲渡してはいけません。
学生証は本人以外、使用できません。他人に貸したりして悪用されると、大きな被害を受けることになりますので他人に貸与、譲渡してはいけません。

② 学生証は、ICチップが搭載された磁気カードです。
磁気が消えてしまうことがありますので、磁気の強い携帯電話や鉄道などのICカード（定期券）と一緒に保管しないようにしてください。
また、学生証内のICチップが破損すると、建物への入館の際など、データが読み取れなくなります。
破損による再交付には1,000円の手数料が必要となります。

2．学生証の再交付および返還

〔学生証の再交付〕

学生証を紛失、破損又は汚損したときは、直ちに教学センターで再交付の手続をしてください。

再交付手続後、新しい学生証は、３日後に再交付します。再交付の手続には、手数料1,000円と証明写真（カラー、縦４cm×横３cm、上半身、無帽、正面向き、３カ月以内に撮影したもの）が必要です。

なお、氏名変更等により学生証の記載事項に変更が生じた場合は、現学生証と引換えに無料で再交付します。ただし、証明写真は必要としますので提出してください。

注意！　学生証を紛失（盗難等）した場合は、悪用される恐れがありますので、必ず最寄りの警察署に届け出てください。

〔学生証の返還〕

卒業、退学又は除籍により本学の学籍を離れるときは、学生証を必ず教学センターに返還してください。

なお、卒業時には、学位記授与の際に返還していただきます。

再交付を受けた学生で、後日、旧学生証がみつかったときは、旧学生証を教学センターに返還してください。

3．仮学生証

試験受験時には学生証が必要です。当日に学生証を忘れた場合は、５号館教員室（定期試験期間中のみ）または10号館教学センターで「仮学生証」の交付を受けてください。

仮学生証は、発行日当日に限り学内でのみ有効で、試験以外の目的で使用することはできません。

年間５回まで交付します。

なお、使用後の仮学生証は、教学センターに返却してください。

4．現住所等の登録および通学証明書

POST学内リンクから「現住所および通学区間申請」を選び、必要事項を入力してください。

通学定期券購入時には、本学発行の通学証明書が必要になります。通学区間等を入力後、Ａ４用紙にプリントアウトしたものを教学センター（10号館１階）へ持参し、通学証明書発行の手続を行ってください。

ただし、京都バスについては、本学発行の通学証明書は不要です。交通機関窓口に備付けの所定様式に記入し、通学定期券を購入してください。

注意！　通学区間の申請は自宅から大学までの合理的かつ効率的なルートに限ります。また、大学に届出ている現住所以外からの申請は認めません。
なお、通学区間等については、大学への交通アクセス対策の検討材料としても使用します。通学証明書の申請有無に関わらず、全員必ず登録してください。
現住所を変更した場合は、速やかにPOST「現住所および通学区間申請」から住所変更および交通手段・区間の変更手続をしてください。

履 修 一 般 事 項

セメスター制

1．学年とセメスター制

本学では、1つの学年を春学期と秋学期に分け、学期（1つのセメスター）ごとに単位を修得し、8セメスター（4年間）を積み重ねて卒業要件を満たす、セメスター制をとっています。

また、授業科目については、履修上「年次」を用いて配当しています。

「年次」は、単純に入学年度からの年数をカウントし、休学期間や修得単位数を考慮しません。これらの関係を図に示すと次のようになります。

春学期 第1セメスター	秋学期 第2セメスター	春学期 第3セメスター	秋学期 第4セメスター	春学期 第5セメスター	秋学期 第6セメスター	春学期 第7セメスター	秋学期 第8セメスター
1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	

注：休学等により在学しない期間は、年次は進みますがセメスターは進みません。
　　その年次に単位を修得しなければ上級年次に進級できないということはありません。

2．開講形式

各授業科目は、次の3つのうち、いずれかの開講形式をとっています。

学期完結	春学期もしくは秋学期の半年間で授業が完結される。 成績評価および単位認定は各学期ごとに行われる。
学期連結	春学期・秋学期を継続して授業が行われる。 春学期の成績評価は暫定点（中間点）として評価され、秋学期終了時に春学期・秋学期の成績を総合評価して単位認定が行われる。 春学期のみもしくは秋学期のみ休学や在学留学する場合は、成績評価および単位認定はされない。
通　　年	春学期・秋学期を継続して授業が行われる。 基本的に、春学期終了時での成績評価は行われず、春学期・秋学期の成績を総合評価して単位認定される。 ただし、暫定点（中間点）が公表される場合もある。 春学期のみもしくは秋学期のみ休学や在学留学する場合は、成績評価および単位認定はされない。

3．開講形態

通常、一つの講義は、週1回90分1時限で行われます。

また、授業を効果的に行うため、科目によっては次のように開講されるものがあります。

複数開講科目	1週間に同じ講義内容を複数回繰り返して行われる科目をいいます。 毎年、履修者数が多い科目を、多くの学生が履修できるように、週に数回開講しています。
連続講義科目	授業の効果をあげるため、同一曜日に連続した時限（〔例〕月3・4時限連続）で行われる場合と、異なる曜日（〔例〕月3・金2）で行われる場合があります。 該当する時限をすべて履修しなければなりません。
リレー講義科目	一つの講義を担当者が複数名で引き継いで行う科目をいいます。
集中講義科目	授業の効果をあげるため、一定期間に集中して行われる科目をいいます。

授業科目と単位制

1．授業科目

本学の授業科目は次のいずれかに指定され、各年次に配当されています。

必　修　科　目	【必ず修得しなければならない科目】 この科目の単位が未修得の場合は、卒業要件単位数を修得していても、卒業することができません。
選択必修科目	【特定されている科目の中から一定の単位数を必修とする科目】 この科目も、必修科目と同様に未修得の場合は、卒業要件単位数を修得していても、卒業することができません。
選　択　科　目	【特定されている科目の中から自由に選んで履修できる科目】
自由(随意)科目	【所属する学部の教育課程以外として取り扱われる科目】 単位修得があっても卒業要件単位に充当されません。

2．単位制度

大学における学修は、単位制で行われています。

〔単位制〕

単位制とは、修業年限（最低４年間）中に、卒業に必要な単位数を修得する制度です。

〔単位とは〕

すべての授業科目に、単位数を設定しています。

単位とは、科目を修得するために必要な学修量（時間）を数値で表したものです。

本学では、授業時間だけではなく、事前・事後学習等教室外での自主学修も含めた45時間の学修時間をもって１単位と定めています。事前・事後学習の内容については必ずシラバスで確認してください。

〔授業時間と単位〕

本学では、１時限90分の授業が年30週（春学期15週、秋学期15週）行われます。単位数は、90分（１時限）の授業時間を２時間相当の学修時間とみなし、事前・事後学習もあわせた時間で設定されています。

考え方（例）

２単位の講義・演習科目		
事前学習 2時間	週1回授業 2時間	事後学習 2時間
授業１：自主学修２		

… ６（時間／週）× 15（週間）＝ 90時間 ＝ ２単位

１単位の実験・実習科目	
週1回授業 2時間	事前・事後学習 1時間
授業２：自主学修１	

… ３（時間／週）× 15（週間）＝ 45時間 ＝ 1単位

※学期連結の開講形式をとる授業科目や連続講義科目については、上記の考え方を倍にして計算してください。

卒業論文・卒業研究・卒業制作等の授業科目

学修の成果を評価して、単位を授与することが適切と認められる場合に、これらに必要な学修を考慮のうえ単位が与えられます。

〔単位の認定〕

履修登録を行い、その授業科目を履修し、試験に合格（60点以上）することにより、単位が与えられます。

ただし、その授業科目が開講されている期間の学期末まで在学している必要があります。

履修登録

1．履修計画

大学における学修の特徴は、自ら学びたい領域や分野を決め、多くの授業科目から関連する科目を選択し、決定することにあります。

大学での学びを充実したものとするため、科目選択にあたっては、自分の好きな科目を何の関連もなく自由に選択するのではなく、入学した学部・学科の特色や特性、自分の将来の進路等を考慮し、自身の学びの向上に必要な科目を中心に履修計画を立てましょう。「１年次の自分は、どんな科目を履修するべきか」、「将来の目標を実現するためには、どのくらいのペースで履修するべきか」、「受講科目には、どれくらいの学習時間が必要なのか」等の目安を把握することで、系統的・段階的な学びが可能になります。

履修計画の作成にあたっては、履修要項やシラバス、科目ナンバリング一覧のほか、各学部で実施されるオリエンテーションや履修計画相談への参加で得られる情報が参考になります。必ず出席し、各学部・学科のカリキュラムの特徴を理解したうえで、履修登録を行うようにしましょう。

[履修計画の作成手順]

①オリエンテーションに参加し、履修要項（本冊子）で卒業に必要な単位（専門教育と共通教育、必修・選択必修の区分等）、１学期で履修可能な単位数、そのための学修時間を把握する。

②履修計画相談会等で、シラバス、科目ナンバリング一覧等を参照しながら、自身の興味関心や進路にあった履修計画を相談する。

③履修要項別冊ガイド、カリキュラムマップ等を参考に、各年次で履修できる科目を把握し、卒業までのプラン（履修計画）を描く。

2．履修登録

履修登録は、自らの履修計画に基づき、授業科目について履修（授業を受ける）の意思表示をすることであり、学修のスタート地点になります。履修要項別冊ガイド、時間割表等を活用して履修登録を行いましょう。

なお、履修登録を行っていない授業科目を受講することはできません。

また、履修登録を行わない場合には、修学意志がないものとして除籍（a-23ページ）となります。何らかの事情で履修登録ができない場合には、履修登録期間内に学部事務室の窓口で相談してください。

3．履修登録の流れ

履修計画の作成

履修要項、科目ナンバリング一覧、シラバス等を参考に、系統的・段階的な学びを意識した４年間の履修計画を策定する。

学部で実施される履修計画相談等を積極的に活用しましょう。

履修登録

シラバスで授業内容や事前･事後学習の内容を確認し、時間割表に照らし合わせて時間割を組む。

【Web履修登録】
（1）クラス指定科目(語学科目等)の曜日時限を確認
（2）①必修→②選択必修→③選択科目の優先順位で登録
　　※履修制限科目を含む
（3）履修制限科目の抽選結果を確認
（4）履修登録の確認・確定

※履修登録期間最終日までにWeb履修登録画面を必ず確認し、エラーがあれば修正してください。

［必ずチェック］
・履修要項
・Webシラバス
・科目ナンバリング一覧
・履修要項別冊ガイド
・時間割表
・Web履修登録エントリーガイド

大学での学修に慣れるまでの低年次は､しっかりと予習や復習する時間を考えて授業を登録しましょう。予習復習を十分に行うことで授業がしっかり理解でき､確実な単位修得につながります。

授業への出席

授業への出席は大変重要です｡必ず初回授業から出席してください。シラバスに掲載されている評価方法が期末テスト100%と書かれていても､授業回数の3分の2以上を出席しなければなりません。

履修計画の作成、履修登録にはシラバス、科目ナンバリング一覧を活用しましょう！

[シラバス]

大学での学修は、単に授業に対して受け身の姿勢で臨むのではなく、自ら履修計画を立て、自分の立てた計画の中で授業や準備学習（予習・復習）を位置づけ、授業の到達目標を達成していくことが重要です。それらを支え、手引書として機能するものがシラバスです。

シラバスには、各授業科目の「概要、方法等、内容・計画、準備学習等（事前・事後学習）、到達目標、身に付く力、履修上の注意、評価方法、教材」等が記載されています。

シラバスには大きくわけて２つの利用方法があり、１つは、履修計画の作成や履修登録の際、どのような授業を受けるかを決めるために活用するものです。シラバスに記載されている各科目の授業概要、準備学習（事前・事後学習）、身に付く力等に目をとおし、大学で特に学びを深めていきたい分野の科目、自身が伸ばしたい能力を身に付けられる科目、同時に学ぶことで学びの相乗効果につながる科目の選択等に活用してください。

２つめの活用方法は、日々の授業の予習・復習に役立てるものです。シラバスを活用することによって、「今回の授業が全体の位置づけではどうなっていたのか」、「次回はどういう内容で、どのような学習の準備が必要なのか」等を確認し、教科書や参考図書としてあげられているものに目をとおす等、予習・復習に役立てることができます。

シラバスは、大学ホームページで公開されています。
https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/

[科目ナンバリング]

科目ナンバリングは、各授業科目の分野やレベル等を特定の記号で分類することで、カリキュラムの体系性を明示するものです。

大学では、授業科目をつまみ食い的に（脈略もなく）履修しても、その学問分野の内容を深く理解することは困難です。科目ナンバリングを活用することで、体系的に学修していくためにはどの科目から学修していけばよいかがわかるようになり、順次性のある履修計画の作成が可能となります。

時間割を作成する段階においても、単に必修科目か選択科目かといった視点からだけではなく、自身が希望する進路や興味関心をもとにナンバリング一覧表から分野を選び、難易度を確認しながら科目を選択することで、無理なく学びを深めていくことができます。

さらに同じ分野・難易度に含まれる科目を同時に学ぶことで、学びの相乗効果も期待できます。例えば、専門用語の意味を理解しやすくなったり、ある授業科目ではわかりにくかった内容が、近接領域にある別の授業科目を学ぶことで新たな視点からの気付きがもたらされたりするからです。

科目ナンバリングの一覧は、大学ホームページで公開されています。
https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/

科目ナンバリングの見方（例：法学部）

JJ	bas	2	05
学部番号	科目の分野	科目の難易度	科目番号
JJ=法律学科	sem=総合演習	難易度5　高い	
JP=法政策学科	lng=外国語	難易度4 ↑	
	bas=基礎法学	難易度3	
	pub=公法学	難易度2	
	int=国際法学	難易度1　低い	
	scc=社会法学		
	cri=刑事法学		
	civ=民事法学		
	pol=政治学		
	oth=他分野融合		

4. 履修登録方法

履修登録する科目は、自ら決定し、登録してください。

履修登録は、春学期と秋学期の学期始めに年2回あり、定められた期間内にWeb上のシステム「Web履修登録システム」で行います。

ただし、以下の科目は、履修登録方法が異なりますので注意してください。該当する科目や具体的な登録方法については、「履修要項別冊ガイド」に記載、または電子掲示板POSTにて案内しますので、よく確認して登録を行ってください。

クラス指定科目	人数制限等の関係から、あらかじめ指定（曜日時限を指定）されたクラスで履修する科目
予備登録科目	演習科目等、あらかじめ募集を行い、書類選考等により履修登録者を決定する科目
履修制限科目	履修登録希望者が多く、人数制限の関係から、抽選等により登録を許可する科目

抽選結果やクラス指定の結果については、各自で各科目の指示に従って確認してください。

また、これらの結果発表後は、登録の変更ができない場合がありますので、よく検討したうえで登録するようにしてください。

なお、履修制限科目等で落選した場合のことも考えて時間割を組み立ててください。

5. Web履修登録日程等　※履修要項別冊ガイドで日程を確認!!

〔Web履修登録〕

履修登録を行うにあたっては、自分が修得しなければならない授業科目をよく理解し、事前にシラバスの内容（授業内容、事前・事後学習の内容、科目ナンバリング一覧）を確認のうえ、系統的・段階的な学びを意識して、自ら登録を行ってください。

Web履修登録期間

春学期：３月下旬～４月初旬　　秋学期：９月中旬～９月下旬

〔履修登録の確認〕

Web履修登録のトップページから「登録内容確認表」のボタンをクリックして表示される画面に記載されている科目が、実際に登録された履修科目です。

履修登録を行った科目がすべて正確に登録されているか確認してください。

（エラーメッセージのない科目も必ず確認してください。）

確認後は、Web履修登録「登録内容確認表」画面をプリントアウトし、登録内容を確認後、「登録内容確認表」は保管しておいてください。

6. 履修登録単位数の制限（キャップ制）

１学期間に履修登録できる単位数には、上限が設けられています。

これは、単位の過剰登録を防ぐことにより、履修登録した科目ごとに十分な学修時間（予習復習を含む１単位当たりに必要な学修時間）を確保し、履修登録した科目の学修効果を高めることが目的です。

「上限単位まで履修登録しなければならない」という意味ではありませんので、履修計画に基づき、しっかりと学修ができる量の科目を登録し、一つひとつの科目の理解をより深めてください。

7. 履修登録の注意事項

①登録期間を過ぎると、履修登録はできません。病気その他やむを得ない理由で、所定の期日までに登録手続ができない場合は、事前に学部事務室に申し出て、指示を受けてください。
②春学期の履修登録は、春学期開講科目、学期連結および通年開講科目が対象となります。春学期に秋学期開講科目を履修登録することはできません。
③秋学期の履修登録は、秋学期開講科目が対象となります。
④秋学期履修登録時に、春学期に登録した学期連結科目および通年開講科目を変更することはできません。
なお、秋学期休学や在学留学する場合、学期連結および通年開講科目の履修登録は削除されます。
⑤複数開講科目を重複して登録することはできません。
⑥修得済の授業科目を再度登録することはできません（科目名が変更された場合も同一科目扱いとなります）。
⑦単位互換科目を履修している学生は、単位互換科目と本学履修科目の授業曜日・時間帯が重複していないか、移動時間も考慮のうえ確認してください。
⑧その他、授業科目の詳細については、**「履修要項別冊ガイド」**でよく確認してください。

8. 履修ガイダンス

履修ガイダンスでは、履修登録およびその他の手続等重要な説明を行います。当日出席できないということがないよう、事前に日程を確認し、必ず出席してください。

9. 履修中止（ドロップ）制度

履修中止（ドロップ）制度とは、履修登録確定後に、下記理由により履修を放棄したい場合、授業期間の途中に履修を中止することができる制度です。
履修を中止した科目の代わりに、その単位数相当分の別の科目を登録することはできません。
また、履修を中止した科目は、いかなる理由があっても、その学期中の復活はできません。
ただし、履修を中止した科目を、次学期以降に改めて履修することは可能です。

〔履修中止が認められる理由〕

①授業を受けたものの、授業内容が勉強したいものと違っていた場合
②授業スピードについていけるだけの事前知識が不足していた場合
③健康上の理由から履修科目を減らしたい場合
④その他、本学が特にやむを得ないと認めた場合

〔履修中止の願い出ができないケース〕

次の場合は、履修中止の願い出を行うことができません。
①履修を中止することにより、履修登録科目のすべてがなくなる場合
②春学期に履修登録した学期連結科目及び通年科目について、秋学期の授業開始後に願い出る場合

〔履修中止の願い出ができない科目〕

次の科目は、履修中止の願い出ができません。
①単位互換科目（大学コンソーシアム京都 等）
②教育実習
③教職実践演習
④介護等体験
⑤博物館実習
⑥インターンシップ科目
⑦フィールドワーク科目

⑧共通教育科目の言語教育科目のうち、必修の科目
⑨共通教育科目のキャリア形成支援教育科目のうち、指定された科目
⑩経営学部、国際関係学部、外国語学部、文化学部、理学部の学生のみ、専門教育科目の必修科目

〔履修中止の願い出〕　※履修要項別冊ガイドで日程を確認!!

履修中止の願い出は、所定の期間にWebにて申請してください。願い出期間後の申請および履修中止を申請した科目の取消は一切認めません。

なお、履修中止の申請理由や申請者の修学状況により、学部事務室から内容の確認を行う場合があります。電子掲示板POSTの伝言または学部事務室からの電話により連絡しますので、対応できるようにしておいてください。確認に応じない場合には履修中止の願出を許可しません。

また、履修中止の願い出後、履修中止が許可された科目については、「Web履修登録システム」の「登録内容確認表」から削除されますので、必ず点検・確認してください。

履修中止願い出期間

春学期：5月下旬　　秋学期：11月上旬

授　業

1．授業時間

本学の授業は、90分を１時限として行います。授業の時間帯は下記のとおりです。

時　　限	時　　間　　帯
第１時限	9：00～10：30
第２時限	10：45～12：15
第３時限	13：15～14：45
第４時限	15：00～16：30
第５時限	16：45～18：15

2．出席および準備学習の重要性

大学での授業は高校までとは異なり、出席の確認が行われないものがあります。しかし、それは決して出席が自由という意味ではなく、出席することは大学での学修の前提、すなわち当たり前と考えているからです。また、授業への出席だけで満足せず、準備学習（事前・事後の学習）にも取り組んでください。大学生活では、そのような主体的・自律的な姿勢が強く求められます。

また、授業は、教員と学生が直接人間的なふれあいをとおして学問を教え学ぶ場であり、学生生活の基本になるものです。したがって、授業への出席は重要であり、自主的な学問への探究心なくしてその成果を期待することはできません。

なお、定められた理由により授業を欠席した場合は、公欠扱いとなります。公欠に該当しない欠席の場合も、オフィスアワー等を活用し、欠席分の学修を自ら補う努力をしてください。

〔公欠扱い〕

① 教職免許状取得に係る教育実習、介護等体験及び教職実践演習における研修校実習のため欠席した場合
　➢ ただし、介護等体験は、7日を限度とする。
　➢ 教職課程教育センターに申し出て、指示に従い手続をする。
② 博物館実習のため欠席した場合
　➢ 教学センターへ申し出て、指示に従い手続をする。

〔公欠の手続〕

公欠扱いの手続は、事前申請とします。
事後の受付はしませんので注意してください。

〔出席停止〕

以下のいずれかに該当する場合、授業に出席することはできません。主治医から出席可能の判断があるまでは大学に登校せず、病院または自宅で療養してください。ただし、公欠には該当しませんので、オフィスアワー等を活用し、欠席分の学修を補ってください。

① 学校保健安全法施行規則に定める感染症に罹患した場合
② 学校保健安全法施行規則に定める感染症罹患の疑いにより医療機関から出校停止の指示を受けた場合

※学校保健安全法施行規則に定める感染症

第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータ　コロナウイルス属　SARS コロナウイルスであるものに限る。）、中東呼吸器症候群（病原体がベータ　コロナウイルス属　MERS　コロナウイルスであるものに限る。）、特定鳥インフルエンザ（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に規定する特定鳥インフルエンザをいう。） ※上記の他、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症。
第二種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く。）、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しん、水痘（みずぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

〔その他〕

①３ヵ月以上欠席しなければならない場合
　➢ 学部事務室へ申し出て、「休学願」を提出する。（学籍「休学」を参照）
②授業への出席
　➢ 原則として、授業回数の３分の２以上出席しなければならない。
③準備学習
　➢ シラバス記載の準備学習に取り組まなければならない。

3. 休講

〔交通機関が不通・運転見合わせとなった場合の授業〕

交通機関が不通・運転見合わせとなった場合は、下記の通り取り扱います。

⑴京都市営バス、京都バス及び京都市営地下鉄が同時に不通（全面又は部分を問わない。ただし、一時的な運転見合わせを除く。）の場合

⑵JR西日本（京都発着の在来線）、阪急電鉄（京都河原町～大阪梅田間）、近畿日本鉄道（京都～大和西大寺間）、京阪電気鉄道（出町柳～淀屋橋間）の４交通機関のうち、３以上の交通機関が同時に不通（普通電車（各駅停車）のみ運転の場合を含む）（全面又は部分を問わない。ただし、一時的な運転見合わせを除く。）の場合

※該当交通機関での事故等による一時的な運転見合わせの際には、平常通り授業を実施しますので、ご注意ください。

〈⑴及び⑵共通〉

①午前５時までに開通した場合は、平常どおり行います。

②午前５時までに開通せず、午前９時までに開通した場合は、午前中を休講とし、午後は平常どおり行います。

③午前９時までに開通しない場合は、終日休講となります。

④午前９時以降に発生した場合は、発生時点に行われている次の授業から終日休講となります。

〔暴風警報等又は避難勧告等が発令された場合の授業〕

次表のいずれかの区域において同表に記載する暴風警報等又は、避難勧告等が発令された場合は、下記のとおり取り扱います。

①午前５時までに解除した場合は、平常どおり行います。

②午前５時までに解除せず、午前９時までに解除した場合は、午前中を休講とし、午後は平常どおり行います。

③午前９時までに解除しない場合は、終日休講となります。

④午前９時以後に発令された場合は、発令時点に行われている次の授業から終日休講とします。

なお、他の地区に警報が発令されて登校不能等が生じた場合は、速やかに担当教員に直接届け出てください。

また、教学センター長の判断により、警報発令前に休講とする場合もあります。その場合の連絡は電子掲示板POSTあるいは、大学のホームページにて行います。

発令内容	対象区域
暴風警報又は特別警報	京都府南部における次のいずれかの区域 ①京都・亀岡：京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町 ②山城中部：宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町
避難準備、避難勧告又は避難指示	京都市北区における次のいずれかの区域 ①柊野地域（避難所：柊野小学校） ②上賀茂地域（避難所：上賀茂小学校） ③大宮地域（避難所：大宮小学校）

4. 補講

休講となった授業は、補講が行われます。授業の進度又は公欠となった学生の不足の学修を補うため補講を行う場合もあります。補講については、直接担当教員が指示するほか電子掲示板POSTにより伝達します。

5. オフィスアワー

オフィスアワーとは、あらかじめ設定された時間帯に教員が研究室等で待機し、学生からの質問や相談を受けやすくするための制度です。ただし、非常勤講師の場合は、授業前後の時間帯やメール等により質問を受け付けています。

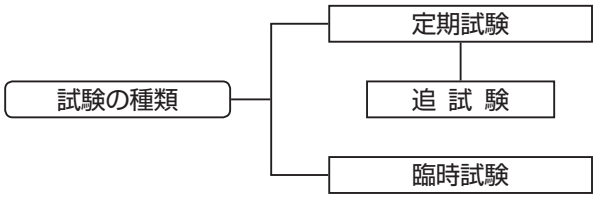
オフィスアワーでは、授業内容に関する質問や学修の進め方、今後の履修計画の相談の他、レポートや論文の書き方、就職や大学院進学等の進路に関する相談等、学生生活全般にわたって個人的な相談をすることができます。

予約は必要ありませんが、他の学生が訪問していることもありますので、確実にコンタクトしたい場合は、予約されるとよいでしょう。

各教員のオフィスアワーの時間・場所等は、POSTキャビネットにて公開されています。

試　験

1．試験の種類



※臨時試験は定期的に行われる小テストなどを含みます。

履修した授業科目については、試験が行われます。
試験の方法は、多くが筆記試験ですが、レポート試験、口頭試問、実技試験、ノート提出等により行われる場合もあります。

2．定期試験

定期試験には、定期筆記試験と定期レポート試験の２種類があり、春学期試験（春学期末）と秋学期試験（秋学期末）の２回実施されます。

定期筆記試験の時間割は、通常の授業曜日、時限と異なることがあり、土曜日や日曜日に試験が組まれることがあります。

なお、定期筆記試験の時間帯は次のとおりです。時間帯は通常の授業時間と異なります。

〔定期筆記試験時間帯〕

時　　限	時　　間　　帯
第１時限	9：30～10：30
第２時限	11：00～12：00
第３時限	13：00～14：00
第４時限	14：30～15：30
第５時限	16：00～17：00
第６時限	17：30～18：30

注：科目によっては、最長90分の試験時間となる場合もあります。

3．追試験

追試験は「チャンスが２度ある」といった意味の制度ではありません。

規定の理由により定期筆記試験を受験できなかった場合で、追試験期間中に受験が可能な場合、願い出の対象となります。

願い出後、許可されれば追試験の受験資格が与えられますが、許可されたからといってご自身に追試験を受験するかしないかの決定権が与えられたわけではありません。追試験が許可された方のためだけに特別に試験の機会を用意するもので、自分の都合で受験しないということは認められません。十分注意してください。不明な点がある場合は自分で判断せず、必ず教学センターに連絡・相談し、指示を仰いでください。

⑴定期筆記試験を次の理由により受験できなかった場合、願い出て許可されれば追試験を受験することができます。

①教育実習、介護等体験及び教職実践演習における研修校実習（教職課程教育センターが指定する証明書要。「授業」参照）

②博物館実習（教学センターが指定する証明書要）

③卒業後の進路に関する試験

・就職活動の場合は、進路・就職支援センターが指定する証明書（就職試験受験予定申請書および就職試験受験証明書要）

※試験前日までに同センターの指導を受けること

・卒業後の進路に関する試験、大学院等進学に係る試験の場合は、教学センターが指定する証明書（受験証明書要）

④裁判員候補者として呼出しを受けた場合または裁判員に選任された場合（公的証明書要）

⑤自己の責めによらない不慮の事故又は災害（公的証明書要）

⑥一親等・二親等の親族の死亡又は葬儀（公的証明書又は葬儀日程のわかるものが必要。原則２日間）

⑦病気又は負傷（診断書要）

※試験当日を含む安静が必要な期間が記載されている診断書に限る。（コピー不可）

〈診断書〉

「体の調子が悪くてずっと家で寝ていた」では第三者に対して証明することができません。

公的な証明を必要としますので、必ず当日中に医療機関で診察を受け診断書を取得しておいてください。

⑧交通機関の遅延（交通機関の遅延証明書及び状況書要）

⑨その他、本学が特にやむを得ないと認めた場合（教学センターが指定する証明書要）

⑵受験できる科目は、定期試験期間中に実施された定期レポート試験を除く全科目とします。

⑶追試験料は、１科目につき1,000円とします。ただし、教育実習、介護等体験、教職実践演習、博物館実習、裁判員候補者として呼出しを受けた場合または裁判員に選任された場合、及びその他本学が特にやむを得ないと認めた場合は、追試験料を免除します。

⑷**所定の手続期限までにWeb申請および必要書類を提出し、手続を完了させてください。手続期限、方法等については電子掲示板POSTを確認してください。**

⑸追試験を受験できなかった場合、再度の追試験は行いません。当日の出欠に関わらず、必要書類の提出と追試験料の支払いが必要となります。また、追試験を願い出ながら自分の都合で受験しない場合は以後、追試験の願い出を受理しないことがあります。

⑹春学期追試験は７～８月、秋学期追試験は１～２月の間に行います。

4. 臨時試験

臨時試験には、臨時筆記試験と臨時レポート試験の２種類があります。

授業科目によっては、平常授業時に臨時の試験が行われ、成績に加味されます。試験の内容については、教員の指示に従ってください。

追試験の対象にはなりません。

5. 試験に関する注意事項

〔定期試験に関する伝達〕

定期試験の時間割及び関連事項は、試験開始10日前頃に所定の電子掲示板POSTにより行います。

なお、発表した事項について、やむを得ない事情により変更する場合があるため、発表後も所定の電子掲示板POSTに注意してください。

電子掲示板POSTでの試験情報の確認方法については、本冊子（a-2ページ）を参照してください。

※追試験については、別途、願い出許可者に指示します。

〔定期筆記試験〕

⑴受験の心得

受験に際しては、次の点を遵守しなければなりません。

①試験開始10分前には前列から詰めて着席し、静粛を保たなければならない。
ただし、座席指定の場合は、指示に従って着席しなければならない。

②筆箱、下敷き及び持込許可物以外の物品は、試験開始前にかたづけなければならない。
クリアケースのカバンを持っている場合は、中身が見えないよう、椅子の下に置かなければならない。

③通信機能の有無に係わらず、スマートフォン、スマートウォッチ、携帯電話、タブレット、携帯音楽プレーヤーその他の情報端末（以下「スマートフォン等」という。）は、試験場内において必ず電源を切りカバンの中にかたづけなければならない。しまうカバンがない場合は、身に付けないで、電源を切ったスマートフォン等が監督者に見えるように机上に置かなければならない（時計としての使用は認めない）。万が一、試験中に着信音（マナーモード含む）等が鳴ったり、作動したり、画面が光ったりした場合は、勝手に自分で触れず、手を挙げて監督者の指示に従わなければならない。

④受験中は、必ず机上に学生証を提示しなければならない。（「学生証（a-3ページ）参照」）
学生証を忘れた場合は、定期試験実施本部又は教学センターで発行した仮学生証を提示しなければならない。なお、学生証再発行中に使用する仮カード（顔写真なし）は使用できない。写真による本人確認が行えないもの、顔写真が不鮮明なものも無効である。

⑤指定された日時及び試験場で受験しなければならない。

⑥解答用紙最下段の氏名欄等は、黒・濃紺色のペン又はボールペンで記入しなければならない。

⑦問題用紙及び解答用紙は提出しなければならない。ただし、問題用紙については、監督者が認めた場合は持ち帰ることができる。

⑧試験開始後40分経過するまでは退場できない。ただし、体調不良等の理由により、退場を認めることがある。その際は手を挙げて監督者の指示に従うこと。

⑨試験開始後40分経過後に監督者の指示があり退場する場合は、再入場は認められないため、問題用紙及び解答用紙を提出の上退場しなければならない。
⑩問題用紙及び解答用紙の提出は、監督者の指示に従い、すべての物を持って、監督者が指定する出口から退場しなければならない。

⑵受験中の禁止事項

受験中、次の禁止事項を行った者については不正行為とみなし、即時受験停止及び当該受験科目の無効となり、学則第50条により懲戒を受けます。

①持込許可物を貸借したとき。
②他人の答案を見たり、答えを教えてもらったとき。
③他人に答えを教えたり、カンニングの手助けをしたとき。
④私語を行ったとき。
⑤持込許可物以外の持込み又は参照したとき。
⑥スマートフォン等を指定場所以外に置いたとき又は監督者の許可なく触れたとき。
⑦本人との替え玉受験を行ったとき。
⑧机上等への書込みを行ったとき。
⑨解答用紙を試験場から持ち出したとき。
⑩監督者の指示に従わないとき。

⑶次のいずれかに該当する場合は、失格又は無効となります。

①履修登録をしていない科目を受験した場合
②試験開始後10分以上遅刻した場合
③休学又は停学中に受験した場合

〔定期レポート試験〕

⑴定期レポート試験が課される場合は、テーマ・様式・提出期限・提出先等を確認した上で、本人が提出しなければなりません。
⑵レポートは、完成させた状態で提出しなければなりません。
⑶レポート受付時間
①平日は、9時00分から16時30分までとする。
②土曜日は、9時00分から12時00分までとする。
⑷レポート提出後の差替え、変更、内容の加筆訂正等は認めません。
⑸期限（締切時刻）に遅れた場合又は指定された様式で提出しなかった場合は失格となり、追試験も認めません。

〔臨時筆記試験・臨時レポート試験〕

臨時筆記試験及び臨時レポート試験については、教員の指示に従うこと。

6. 受験に際してのアドバイス

例年よくある誤りについて例をあげて説明します。いずれも大事なことですので必ず認識しておいてください。

持込許可物での「自筆ノート」の解釈

“自筆ノート”とは、自分で書いたノートのことです。他人のノートをコピーしたもの・コピーを貼り付けたノート・『講義ノート』と称して売っている類のものではありません。

自分で書いたノート以外のノートの持ち込みは不正行為となり、処分の対象となりますので注意してください。

※パソコンなどで作成されたものも認められません。

持込許可物での「六法（判例の付いていないもの）」の解釈

六法全書は出版社によって判例の付いているものがあります。

条文のあと等に判例が書かれていないか、もう一度自分の六法を確認しておいてください。

「判例が付いていることを知らなかった」「判例が付いていても私は見ない」は通用しません。

レポート試験、筆記試験の両方を課される科目もあります

試験方法は一種類のみとは必ずしも限りません。なかには複数の試験が課される場合もあります。

「この科目はレポート試験だから、他は無いだろう」と安心せずに、必ず自分が履修登録している科目すべてについて確認してください。

学業成績

1．評価と点数

成績は、100点満点の60点以上を合格とし、授業が終了する当該学期末に科目所定の単位が与えられます。なお、その評価と点数の関係は、右記のとおりです。

一度修得した単位を取消すことはできません。

2021年度入学者

	評　価	点　　数
合　格	秀	100点　～　90点
	優	89点　～　80点
	良	79点　～　70点
	可	69点　～　60点
不合格	※	59点以下
	K	試験欠席・棄権
	／	出席日数不足

＊履修を中止した科目は、「W」と表示されます。
＊認定単位は、「N」と表示されます。
＊合格「P」、不合格「F」のみで評価する科目もあります。

〔GPAによる成績評価〕

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことで、各科目の評点（100点満点）をグレードポイントに換算しなおし、その合計を科目の総単位数で割り、１単位のグレードポイントの平均値を算出するものです。

高校まではすべての学生が同じ教科・科目を履修しますから、単純に成績を比較できました。ところが大学においては、学部・学科の専門教育科目や共通教育科目，教職科目など、個々の学生の所属や目標に応じて、履修する科目を選択する自由度が高く、異なる科目を修得した様々な学生を単純に比較することができません。多様な学習環境を持つ大学では「学ぶ量」だけではなく「学ぶ質」を端的に評価できる指標が必要であり、GPAはそれを提供する方法です。専門性や修学目標からくる履修状況の違いを吸収し、公平さを与えながら学業成績評価の指標として使われるものであるといえます。

GPAの算出にあたっては、合格科目だけではなく不合格科目も対象となりますので、真剣な履修登録、授業への取り組み姿勢の向上につながることが期待されています。また、５段階の成績評価をもとにGPAを算出し可視化することで、学修の到達度をより明確に示し、学生が自分自身の学修への努力の成果を把握しやすくすることも狙いとしています。

※GPAは、履修登録したすべての科目を対象に算出しますが、履修を中止した科目、合格「P」、不合格「F」のみで評価する科目、認定科目、卒業要件対象外の教職科目および自由（随意）科目は、算出対象から除きます。

※GPAは、単位互換科目（大学コンソーシアム京都など）の出願条件、在学留学や奨学金の選考、演習の選考等幅広い分野で活用されます。

評　点	グレードポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0
欠席または棄権 および出席日数不足	

$$\text{GPA} = \frac{(\text{科目のグレードポイント} \times \text{単位数})\ \text{の和}}{\text{科目の単位数の和}}$$

例えば、　コンピュータ基礎実習　（２単位）95点　４ポイント
　　歴史と人間　（２単位）88点　３ポイント
　　○○学講義　（４単位）92点　４ポイント
　　英語初級文法挑戦　（１単位）75点　２ポイント
　　○○●概論　（２単位）65点　１ポイント
　　△●◎特論　（２単位）欠席　０ポイント
　　単位互換科目　（２単位）認定　ポイント対象外
　　高等学校教育実習　（３単位）82点　ポイント対象外

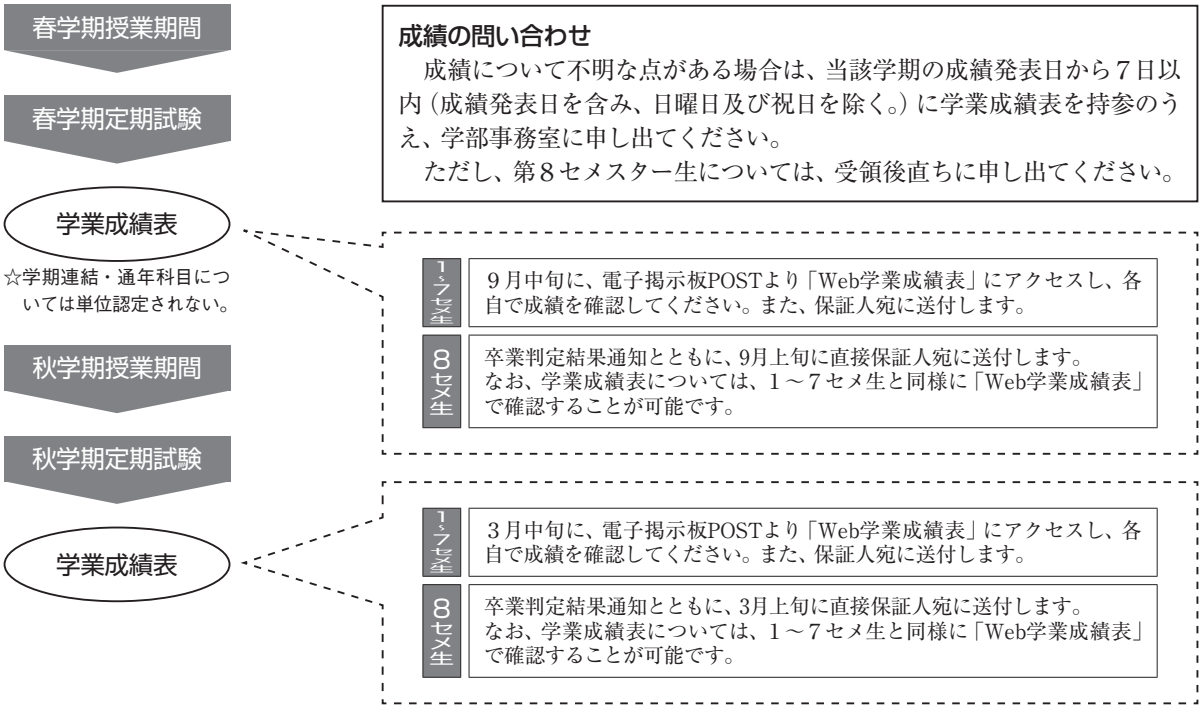
の評価を得た場合、ＧＰＡは次のように計算します。

$$\text{GPA} = \frac{(4\times2)+(3\times2)+(4\times4)+(2\times1)+(1\times2)+(0\times2)}{(4\times1)+(2\times4)+(1\times1)} = \frac{34}{13} \fallingdotseq 2.61$$

最高点は4.00です。

学期ごとのGPAと在籍期間中の通算GPAを学業成績表に記載します。

2. 成績発表



〔成績証明書〕

成績証明書には、合格した授業科目の秀・優・良・可・P・N（認定）の評価のみを記載し、不合格になった科目および履修を中止した科目は記載されません。

また、GPAも記載されません。

卒　業

1．卒業要件

本学部に４年以上在学し、学部が定める教育課程により学修し、科目区分毎に定められた必要単位数を含め124単位以上を修得しなければなりません。

科目区分毎に定められる必要単位数は入学年度毎に定められています。

入学年度毎の必要単位数は各年度毎の「履修規定」を確認してください。

休学の期間は在籍していても在学期間には含めません。

卒業判定は、第８セメスター生に対して行われます。

2．卒業時期

卒業の時期は、秋学期末（３月）または春学期末（９月）です。

秋学期末（3月）：秋学期終了時において卒業要件を充足した場合、卒業とします。
卒業判定結果については、３月上旬に保証人宛に通知します。

春学期末（9月）：春学期終了時において卒業要件を充足した場合、卒業とします。
卒業判定結果については、９月上旬に保証人宛に通知します。

3．卒業の延期

①春学期に在学し、かつ卒業要件を充足した人が、諸般の事情により秋学期末（３月末）まで卒業の延期を願い出た場合は、これを認めます。ただし、秋学期の履修登録をすることとし、秋学期休学は認めません。

②卒業の延期を希望する人は、指定された期日までに所定の願出書を学部事務室まで提出して許可を得なければなりません。

③卒業の延期が許可された人は、秋学期分の学費を納入してください。所定の期日までに学費が納入されない場合は、卒業延期の許可を取り消し、春学期末卒業とします。
※秋学期末（３月）卒業者の春学期末（９月）卒業延期はありません。

4．卒業見込証明書の発行（7・8セメスター生）

【７セメスター生発行基準（春学期のみ）】

「在学期間」「卒業要件として定める専門教育科目、共通教育科目および融合教育科目」について、以下のすべての条件を満たした場合、申請により発行します。

・在学期間が３年（６セメスター）を超えていること。
・専門教育科目、共通教育科目および融合教育科目を含めて82単位以上修得していること。
・専門教育科目を40単位以上修得していること。
・春学期履修登録可能単位数と秋学期履修登録可能単位数とを合わせて卒業要件単位数を充足することが可能であること。

【８セメスター生発行基準（春学期・秋学期共通）】

「在学期間」「卒業要件として定める専門教育科目、共通教育科目および融合教育科目」について、以下のすべての条件を満たした場合、申請により発行します。

・在学期間が3.5年（７セメスター）を超えていること。
・専門教育科目、共通教育科目および融合教育科目を含めて100単位以上修得していること。
・専門教育科目を60単位以上修得していること。
・当該学期の履修登録により卒業要件単位数を充足することが可能であること。

〈発行時期〉
卒業見込証明書は履修登録することを前提に発行します。
したがって春学期、秋学期ともに必ず履修登録してください。
詳細な日程については電子掲示板POSTで確認してください。

学　　籍

学　籍

1．学籍上の氏名と身上変更等

〔学籍上の氏名〕

学籍上の氏名は、戸籍に記載されているものとします。ただし、外国籍の者は、在留カードに記載されている本名または通名とすることができます。

戸籍に記載されている氏名に外字（旧字体、異体字、俗字等）が使用されている場合は、JIS第一水準及び第二水準の範囲内の文字に変更または全角カタカナをもって充てるものとし、学生証および各種証明書等の氏名に用いるものとします。ただし、学位記の氏名表記はこの限りではありません。

〔身上変更・住所変更・保証人変更〕

身上等下記の事項に変更が生じたときは、所定用紙（教学センターまたは学部事務室備付）により教学センターまたは学部事務室に届け出てください。

なお、学生証記載事項に変更が生じる場合は、無料で学生証を再交付します。新しい学生証は、旧学生証と交換に交付しますので、後日教学センターに受け取りにきてください。

<table>
<tr><th>変　更　事　由</th><th>提　出　書　類</th><th>提　出　先</th></tr>
<tr><td>本人の氏名等に変更があったとき</td><td>身上変更届
根拠書類写し※①
証明写真※②</td><td>学部事務室</td></tr>
<tr><td>本人の住所等に変更があったとき</td><td colspan="2">窓口への届出は不要
（POST「現住所および通学区間申請」より必要事項を入力・更新）</td></tr>
<tr><td>保証人（保護者）の住所等に変更があったとき</td><td>住所等変更届（保証人）</td><td rowspan="3">教学センター</td></tr>
<tr><td>保証人（保護者）に変更があったとき</td><td rowspan="2">保証人変更届</td></tr>
<tr><td>保証人（保護者）の氏名等に変更があったとき</td></tr>
</table>

※①新しい氏名が確認できる公的な根拠書類（運転免許証、健康保険証、パスポート等）の写しが必要です。

※②新しい氏名の学生証を作成するため、証明写真（カラー、縦４cm×横３cm、上半身、無帽、正面向き、３ヵ月以内に撮影したもの）が必要です。

2．修業年限・在学期間

〔修業年限〕

修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な在学期間をいいます。

本学では４年です。

ただし、編・転入学した人の修業年限は次のとおりです。

	修　業　年　限
第２年次に編・転入学した人	３年
第３年次に編・転入学した人	２年

〔在学期間〕

在学期間は、８年を超えることはできません。

休学中の期間は在学期間に含めません。

ただし、編・転入学、再入学、復籍、転学部及び転学科した人の在学期間は次のとおりです。

	在　学　期　間
第２年次に編・転入学した人	７年
第３年次に編・転入学した人	６年
再　入　学　し　た　人	離籍前の在学期間と通算して８年
復　籍　し　た　人	離籍前の在学期間と通算して８年
転　学　部　し　た　人	転学部する前の在学期間と通算して８年
転　学　科　し　た　人	転学科する前の在学期間と通算して８年

注意！　休学した学期、退学および除籍となった学期は、在学期間に算入することはできません。ただし、遡及措置等により学期末日が退学および除籍の日となる学期は、在学期間に算入します。

3. 休学

病気その他やむを得ない理由により３ヶ月以上修学できない場合は、学部事務室に「休学願」を提出し許可を得なければなりません。ただし、病気による休学の場合は医師の「診断書」を、海外渡航による休学の場合は「渡航計画書」「留学者住所届」を添付してください。

休学できる期間は連続して２年以内、通算して４年以内です。

〔休学期間および休学中の学費〕

１年間または１学期間の全期間を休学する場合は次のとおりです。

休　学　期　間	休学願提出期限	休　学　中　の　学　費
１年間（4/1～3/31）	4/30	所定の在籍料 ※春学期・秋学期２期に分けて納入のこと。
春学期（4/1～春学期終了日）	4/30	所定の在籍料
秋学期（秋学期始業日～3/31）	10/31	所定の在籍料

注意！　休学を願い出る前に、学費（授業料、実験実習費及び教育充実費）を納入している場合は、当該学期の学費（授業料、実験実習費及び教育充実費）は返還します。ただし、休学願提出期限までに休学を願い出た場合に限ります。なお、休学に必要な学費（在籍料）は納入しなければなりません。

〔休学期間終了直前の手続〕

休学期間終了直前（春学期は７月下旬、秋学期は１月下旬）に、休学期間後の修学について、本人および保証人宛に「修学意志確認」の書類を送付します。同封書類に従い、所定の期日までに手続を行ってください。

〔連続して休学する場合〕

休学期間終了後も引続き休学を願い出る場合は、再度「休学願」を提出し許可を得なければなりません。修学意志確認書類に同封の「休学願」を、所定の期日までに学部事務室に提出してください。

注意！　連続して休学する場合の「所定期日」は、復学願提出期限日となります。

学籍に関する規程第11条参照

4. 復学

休学者が復学しようとする場合は、学部事務室に「復学願」を提出し許可を得なければなりません。ただし、病気により休学していた場合は、復学しても支障ない旨の医師の「診断書」を添付してください。

復学を希望する学期	手　続　期　間
春　学　期	2/1～2月末日
秋　学　期	8/1～8/31

学籍に関する規程第12条参照

5. 除籍

次のような場合は、除籍します。

①所定の納入期日までに学費を納入しない場合
②休学期間終了までに復学、休学延長、退学のいずれの手続もとらなかった場合
③留学期間終了までに帰国、休学、退学のいずれの手続もとらなかった場合
④休学期間が４年を超えてなお、復学または退学しない場合
⑤在学期間が８年を超える場合
⑥正当な理由がなく所定の手続を怠り、修学意志がない場合
⑦正当な理由がなく所定の手続を怠り、在留期間満了日を経過した場合

なお、除籍された人は学生証を直ちに返還してください。

〔除籍日〕

事　　由	除　　籍　　日
春学期学費未納者	前年度　3月31日付 ※ただし、学費分割延納者が１回目を納入して２回目を納入しなかった場合は、５月31日付
秋学期学費未納者	前春学期末日付 ※ただし、学費分割延納者が１回目を納入して２回目を納入しなかった場合は、11月30日付
上記事由②③④⑤	事由が該当する学期の満了日付（学期末日）
上記事由⑥	事由が該当する学期の前学期末日付
上記事由⑦	在留期間満了日付

学籍に関する規程第14条参照

6. 復籍

除籍となった人は、除籍の日から一年以内に限り、復籍を願い出ることができます。

〔復籍手続〕

除籍となった人が復籍しようとする場合は、除籍の日から一年以内の所定の手続期間に、「復籍願」を保証人連署のうえ、学部事務室に提出してください。

復籍手数料として3,000円が必要です。(所定の振込用紙による郵便振込)

復籍を希望する学期	手　続　期　間
春　学　期	2/1～2月末日
秋　学　期	8/1～8/31

注意！　復籍を許可された人は、所定の日までに入学金以外の学費を納入しなければなりません。所定の日までに学費を納入しない場合は、復籍を取り消します。

※復籍を許可された人には、学生証を教学センターで再交付します。

学籍に関する規程第15条参照

7. 退学

病気その他やむを得ない理由により退学しようとする人は、「退学願」を保証人連署のうえ、学生証を添えて学部事務室に提出し、許可を得なければなりません。

なお、当該学期履修科目の単位修得を希望する人は、当該学期末日付で退学願を提出しなければなりません。

学籍に関する規程第16条参照

8. 再入学

以下のいずれかに該当する人が、離籍の日から３年以内に同一学部学科に再入学を希望する場合、選考のうえ許可することがあります。

ただし、再入学しても残りの在学期間で卒業見込みがない人は、再入学を願い出ることはできません。

①退学した人

②除籍となった人（除籍事由④および⑤の該当者は除く。）

③復籍願出期間内に復籍の手続をしなかった人

希望者は「再入学願」を保証人連署のうえ、「再入学志願票」、「健康診断書」とともに学部事務室に提出してください。

再入学手数料として35,000円が必要です。(所定の振込用紙による郵便振込)

再入学を希望する学期	手　続　期　間
春　学　期	2/1～2月末日
秋　学　期	8/1～8/31

注意！　再入学を許可された人は、所定の日までに入学金と学費を納入し、入学手続書類を学部事務室に提出しなければなりません。所定の日までに入学手続を行わない場合は、再入学を取り消します。
なお、入学金の額は最初に入学した年度の入学金と同額とします。

※再入学を許可された人には、学生証を教学センターで再交付します。

学籍に関する規程第17条参照

※外国人留学生は、復籍・再入学時点で適切な在留資格を保持している必要があります。在留資格を取得するためのビザ申請は時間を要するため、願出と同時にビザ申請に必要な手続を必ず確認し、手続を進めておいてください。その際、申請から交付までの期間は各入国管理局や各国在外公館によって異なりますので、申請先にお問い合わせください。

9. 留学

ここでいう「留学」とは、本学の許可を得て、学籍が**在学の状態**で外国の大学において学修することをいい、休学による留学は該当しません。

出願資格および出願手続の詳細については、在学留学のページを参照してください。

在学留学は、次の3種類です。

①本学と交流協定のある大学の学部へ交換留学する場合（**交換留学**）
②本学と交流協定のある大学の学部または大学付設の語学プログラムへ派遣留学する場合（**派遣留学**）
③修学の必要から、学生自身が留学先大学を選定し、学生の申請に基づき本学が留学先として認めた場合（**認定留学**）

〔留学期間〕

留学期間は半年または１年です。

始期　４月１日　または　秋学期始業日　　終期　３月31日　または　春学期終了日

なお、留学先大学の事情により、これらの日付の前後に出国または帰国した場合でも、いずれかの日付に読み替えるものとします。

留学期間は、修業年限および在学年数に算入されます。

１年を超えて引き続き留学する場合、その期間は休学扱いとなりますので、「休学願」および「渡航計画書」、「留学者住所届」を学部事務室に提出して許可を得なければなりません。

〔留学の届出〕

留学のため出国するときは、所定の「留学届」を学部事務室に提出してください。

〔留学期間中の学費〕

在学留学のため、留学期間中の学費は規定どおり全額納入しなければなりません。ただし、外国留学支援金を学費の一部に充当することができます。

〔留学許可の取消〕

次のいずれかに該当する人は、留学の許可を取り消すことがあります。また、留学が取り消された場合は、外国留学支援金は返還しなければなりません。

①学生査証が認められない場合
②本学または留学先大学の学則およびこれに係わる取扱規定に違反した場合
③修学の成果があがらないと認められた場合
④病気その他やむを得ない事由により留学を続けることができない場合

〔継続履修〕

秋学期から翌年度の春学期まで１年間の留学期間の場合、留学前の春学期に履修している学期連結科目および通年科目を帰国後の秋学期に継続して履修することができます。ただし、継続履修を希望する場合は、留学前に学部事務室に「継続履修願」を提出し、承認を得なければなりません。

〔帰国後の手続〕

留学を終了して帰国した人は、電子掲示板POSTより「帰学届」および「留学報告書」を出力し、「帰学届」は学部事務室に、「留学報告書」は国際交流センター事務室に提出してください。

〔単位の認定〕

留学先の大学等で修得した単位のうち、適当と認められるものは、60単位を限度として、各学部の定めるところにより本学の卒業に必要な単位として認定を受けることができます。

10. 転学部

本学の他学部に転学部を志望する人は、欠員のある場合に限り、選考のうえ許可することがあります。

〔出願資格〕

第１年次終了時または第２年次終了時の人とします。

転学部の資格条件の細部については、各学部毎に定められていますので、出願する前に必ず学部事務室までお問い合わせください。

なお、国際関係学部へ転学部を希望する場合、TOEIC L&Rのスコアが520点以上、または、TOEFLのスコアがiBT 53点（改訂版TOEFLペーパー版テスト477点）以上の成績をおさめていない人は出願資格がありません。

〔出願手続〕

「転学部願」（学部事務室備付）に必要事項を記入し、保証人連署のうえ、１月31日までに学部事務室に提出してください。

転学部手数料として5,000円が必要です（所定の振込用紙による郵便振込）。

〔転学部の時期〕

転学部の時期は学年始めとし、年度途中の転学部はできません。

転学部時の在学セメスターは、履修状況その他を考慮して決定します。

〔学生証〕

転学部を許可された人には、現学生証と引換えに学部名を変更した新しい学生証を教学センターで再交付します。

11. 転学科・転専攻

本学の同一学部内での転学科、または同一学科内での転専攻を志望する人は、欠員のある場合に限り、選考のうえ許可することがあります。

〔出願資格〕

第１年次終了時または第２年次終了時の人とします。

なお、転学科・転専攻の資格条件の細部については、各学部毎に定められていますので、出願する前に必ず学部事務室までお問い合わせください。

なお、外国語学部内で英語学科へ転学科を希望する場合、TOEIC L&Rのスコアが500点以上、または、TOEFL iBTのスコアが52点（TOEFL ITP 470点）以上の成績をおさめていない人は出願資格がありません。

〔出願手続〕

「転学科願・転専攻願」（学部事務室備付）に必要事項を記入し、保証人連署のうえ、１月31日までに学部事務室に提出してください。

転学科の場合は、転学科手数料として5,000円が必要です。（所定の振込用紙による郵便振込）

〔転学科・転専攻の時期〕

転学科・転専攻の時期は学年始めとし、年度途中の転学科・転専攻はできません。

転学科・転専攻時の在学セメスターは、履修状況その他を考慮して決定します。

12. 春学期末（9月末）卒業

春学期終了時において、卒業要件（４年以上在学し、所定の単位を修得すること）を充足した場合は、春学期末（９月末）卒業とします。

〔卒業の延期〕

①春学期に在学し、かつ卒業要件を充足した人が、諸般の事情により秋学期末（３月末）まで卒業の延期を願い出た場合は、これを認めます。ただし、秋学期の履修登録をすることとし、秋学期休学は認めません。

②卒業の延期を希望する人は、指定された期日までに所定の願出書を学部事務室まで提出して許可を得なければなりません。

③卒業の延期が許可された人は、秋学期分の学費を納入してください。所定の期日までに学費が納入されない場合は、卒業延期の許可を取り消し、春学期末卒業とします。

※秋学期末（３月）卒業者の春学期末（９月）卒業延期はありません。

13. 学費

〔納入期間〕

学費の納入は春学期と秋学期の２期に分けて学費振込依頼書を保証人宛に送付しますので、それぞれ定められた期日までに納入してください。

春学期学費納入期日　　４月30日
秋学期学費納入期日　　10月31日

※学費の納入期日が金融機関の休業日（土・日・祝日）にあたる場合は、その翌営業日をもって納入期日とします。

〔納入方法〕

必ず本学指定の「学費振込依頼書」を使い、電信扱いが利用できる金融機関（ゆうちょ銀行を除く）から送金してください。文書扱い、現金書留および大学への持参は受け付けません。

〔納入金額〕

学費の納入金額については、「学則」（c−3ページ ～ c−10ページ）に掲載しています。

〔学費延納・分割延納制度〕

学費の納入が期日（春学期：４月30日　秋学期：10月31日）までに困難な場合は、本学ホームページより学費の延納・分割延納を申請することができます。ただし、次のいずれかに該当する場合は分割延納、又は延納・分割延納どちらも申請することができません。

①復籍および再入学を許可された方については、当該年度については、延納・分割延納の申請はできません。
②本学の奨学金制度の利用者含め、学費の減免を受けている学生は、分割延納の申請はできません（延納のみ申請できます）。
③休学に必要な学費（在籍料）については、分割延納の申請はできません（延納のみ申請できます）。

		春学期	秋学期
申請期間		4月1日～4月30日	10月1日～10月31日
納入期日	延　　納	5月31日	11月30日
	分割延納	１回目　5月31日	１回目　11月30日
		２回目　7月 5日	２回目　12月25日

申請方法等の具体的な手続方法については、申請期間に別途ホームページ及びＰＯＳＴにてお知らせします。

単位互換制度

単位互換制度

1．単位互換制度とは

単位互換制度は、大学および短期大学が相互に単位互換協定を締結し、これらの大学に所属する学生が他大学の講義を受講し取得した単位をその学生が所属する大学の単位として認定できる制度です。

下記の要領で出願希望者を募集します。詳細については募集ガイダンスで説明しますので、希望者は必ず出席してください。

2．募集スケジュール

〔募集ガイダンス〕

在学生ガイダンス期間に実施予定（春学期のみ）

※詳細な日程については、電子掲示板POSTでお知らせします。

〔出願時期〕

４月初旬

※大学コンソーシアム京都の単位互換制度では、定員に空きがある科目の場合は、９月に追加募集が行われます。

3．出願資格

次の条件を全て満たしている人。

・全学部２年次以上で通算または直近のGPAが1.0以上の人。

・修学意志が強く、受講許可になった場合、最後まで出席することが可能な人。

4．登録の概要

出　　願	年間４単位まで出願可能。 学部で定めている本学科目の履修登録上限単位数には含まれません。
単位認定	合格した科目は他大学で実際に履修した科目の**開講期間にかかわらず、すべて通年科目として当該年度末に認定されます。**したがって、１年間在籍しない場合、単位認定されませんので注意してください。 認定された単位は共通教育科目として、在学期間を通じて最大12単位まで卒業に必要な単位に算入し、科目名はすべて「単位互換科目」の科目名で認定を意味する「N」を本学の学業成績表および成績証明書に表記します。 編・転入学の方は、受講は可能ですが、学部の卒業に必要な要件単位数には含まれません。

5．登録上の注意事項

次のような場合、登録はできません。

①重複登録（本学で履修登録した科目と同一曜日時間帯に登録）

例：本学　月曜　第１時限（9：00～10：30）　と　○○大学　月曜　１時限（9：30～11：00）

※他大学の集中形式の科目が、本学の科目と１日でも重複する場合も含む。

②移動時間から受講が困難であると考えられる時間帯での登録

例：本学　月曜　第１時限（9：00～10：30）　と　△△大学　月曜　２時限（10：30～12：00）

※重複登録した場合、本学履修科目を削除し、単位互換科目の履修が優先されます。

※秋学期の履修登録時に、やむを得ない事情で本学履修科目と単位互換科目の授業が重複する場合は、履修登録期間内に教学センターまで相談に来てください。

③前年度以前に修得済の単位互換科目を再度受講

④本学の提供科目を単位互換科目としての受講

教　育　課　程

履　修　方　法

英　語　学　科

英　語　専　攻
イングリッシュ・キャリア専攻

所属専攻の決定について

英語学科には、２つの専攻「英語専攻」「イングリッシュ・キャリア専攻」があります。

１年次秋学期から、それぞれの専攻に分かれて、専門教育科目を履修することになります。

イングリッシュ・キャリア専攻の決定にあたっては、事前に希望調査を行い、本人の希望理由や１年次春学期の履修状況、英語力などを参考にして総合的に評価します。したがって、必ずしも希望どおりにならない場合もあります。

卒業要件は、英語専攻、イングリッシュ・キャリア専攻とも同じです。ただし、イングリッシュ・キャリア専攻で別に定める修了要件を満たした場合は、卒業時に修了証書を発行します。

履修規定

1．卒業に必要な最低修得単位数

卒業するためには、４年以上在学し、次の科目区分に従って、124単位以上修得しなければなりません。

科目区分				最低修得単位数		
共通教育科目	人間科学教育科目	選択必修	社会科学（注1）	４単位以上	21単位以上	124単位
			自然科学（注1）	４単位以上		
		選択				
	言語教育科目	選択必修	（注2）	８単位		
		選択				
	体育教育科目	選択				
	キャリア形成支援教育科目	選択必修		２単位以上		
		選択				
融合教育科目		選択	（注3）			
専門教育科目	学部基幹科目	選択必修		４単位以上	80単位以上	
	専攻科目	必修	インテンシブ英語（Intensive English）	20単位		
			イングリッシュスタディーズ入門	４単位		
			英語情報リテラシー（English Information Literacy）	２単位		
			基礎演習	２単位		
		選択必修	英語基幹科目	18単位以上		
			英語専門セミナー（Specialized English Studies）	８単位以上		
			特別英語（注4）	４単位以上		
			英語研究演習	４単位以上		
		選択				
	関連科目	選択	教科教育法科目 他学科・専攻専門教育科目			

（注1）社会科学領域，自然科学領域それぞれから４単位以上を修得しなければならない。
（注2）英語以外の外国語から１言語を選択し８単位、もしくは２言語を選択し、４単位ずつ８単位を修得しなければならない。詳細は、b-6～8ページを参照。
（注3）融合教育科目には、外国語学部生履修可とする他学部専門教育科目を算入することができる。
（注4）１単位科目を２科目以上修得しなければならない。

2．各セメスターの履修登録上限単位数

各セメスターの履修登録上限単位数は下表のとおりです。

セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
単位数	24	24	24	24	24	24	24	24

ただし、次の科目は上記の単位数には含まれません。

①卒業要件とならない自由（随意）科目
②単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目　等）
③共通教育科目
インターンシップ、O/OCF－PBL、「アスリートインターンシップ」、「スタートアップ・インターンシップ」、「プレップ・インターンシップ」、「企業人と学生のハイブリッド」、「熊本・山鹿フィールド」
④共通教育科目〈教育・教職科目群〉における教職課程登録者のみ履修可とする科目
⑤海外語学実習
⑥外国語学部専門教育科目
「Overseas Studies in English」、「○○海外実習」（○○には、ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語・中国語・韓国語・インドネシア語が入る）
⑦経済学部専門教育科目「グローバル経済フィールドワークⅠ」、「グローバル経済フィールドワークⅡ」
⑧文化学部専門教育科目「国際文化研修」
⑨生命科学部専門教育科目「英語サマーキャンプ１」

共通教育科目

京都産業大学では、教学の理念に掲げる「自らを厳しく律しつつ、創造力に富み、社会的な義務を怠ることなく、国内外を問わず活躍できる人材」の育成のために、学生が自らの専門分野を深く学ぶだけでなく、幅広い教養を身につけることのできるよう、「人間科学教育科目」「言語教育科目」「体育教育科目」「キャリア形成支援教育科目」の区分を設けて、すべての学生に開講しています。

入学年度ごとに定められている履修規定を十分に把握したうえで履修してください。

1．人間科学教育科目

人間科学教育科目は、「人文科学」「社会科学」「自然科学」「総合」の４つの領域にわかれます。

このうち、「総合」以外の３領域は、「基本科目」と「展開科目」から構成されています。自らの専門以外の学問分野を学ぶにあたって、まず基本科目でその学問分野の大まかな全体像を得て基本的な考え方をつかみ、そこで興味を感じた内容を展開科目でさらに深く学ぶことで、体系的に学習できるよう工夫しています。

⑴ 各領域の特徴

【人文科学領域】

この領域は、古今東西の人類の文化を対象とします。これには、「哲学」「心理学」「歴史学」「文学・芸術学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、文化の多様性を認識し、柔軟に思考できるようになることを目的としています。

【社会科学領域】

この領域は、意見や利害が多種多様で、価値観の異なる人々が構成する社会とそのような社会で生じる諸現象とを対象とします。これには、「経済学」「経営学」「法学・政治学」「社会学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、多種多様な人々の共存や協力を図るしくみを理解することを目的としています。

【自然科学領域】

この領域は、ミクロ（素粒子）からマクロ（宇宙）までの様々なスケールの自然現象を対象とします。これには、京都産業大学の特色といえる「天文・物理科学」「生命・環境科学」「情報科学」それに、自然科学の基盤である「数学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、自然法則や生命の営みへの見方を養うことを目的としています。

【総合領域】

この領域は、次の科目群に区分されます。

・導入・接続教育科目群※1：主に１年次生を対象とした大学生活に適応するための力を養う科目
・ＫＳＵ科目群：本学の特色ある科目と本学で学ぶための基礎となる科目
・教育・教職科目群：教員免許取得などに関わる科目
・人権科目群：人権に関わる諸問題や歴史などを学ぶ科目
・情報科目群：情報に関する科目

※1　皆さんがこれから体験する「高校から大学への移行」「共通教育と専門教育の連動」「大学から社会への移行」といった局面において、柔軟に適応する力を身につける科目を開講しています。キャリア形成支援教育科目（b-12ページ）内にも、「導入・接続教育科目群」を設けています。

⑵ 履修方法について

社会科学領域および自然科学領域の２領域からそれぞれ４単位以上修得しなければなりません。

社会科学領域 4単位 ＋ 自然科学領域 4単位　　合計　8単位

⇒　社会科学領域および自然科学領域の２領域から「基本科目」と、それに関連する「展開科目」を修得することを推奨します。

2. 言語教育科目

言語教育科目は、英語教育科目と英語以外の外国語教育科目から構成されています。

英語教育科目

グローバル社会の中で活躍し社会に貢献するためには、実用的な英語運用能力の獲得が必須となります。本学では、就職活動の入口やビジネス場面で有用とされるTOEIC対応の授業が設けられています。

外国語教育科目

外国語教育科目は、国際社会で求められる高度な語学力を身に付けて国際的視野を磨く科目で、9言語から学びたい言語を選択できます。ネイティブスピーカーの教員による会話や検定試験を念頭に置いた科目など、各種レベルの特色ある科目が用意されており、学習経験の有無にかかわらず、伸ばしたい力と学習の目的に応じて履修することができます。

⑴ 履修方法について

外国語教育科目（英語以外の9言語）から1言語もしくは2言語を選択し、以下の科目において8単位修得しなければなりません。

＜1言語で修得する場合＞

「●●語エキスパート」を履修し、1年次で1言語8単位を修得します。

科目区分	科目名	年次	学期	単位数	最低修得単位数
英語以外	●●語エキスパートⅠ※1	1	春	4	8
	●●語エキスパートⅡ※1	1	秋	4	

※1　科目名の●●には、ドイツ・フランス・中国・スペイン・イタリア・韓国朝鮮の各言語名が入ります。

＜2言語で修得する場合＞

1年次に「たのしく学ぶ○○語」（1言語）、2年次に異なる言語の「たのしく学ぶ△△語」（1言語）を履修し、2年次終了時までに2言語で8単位を修得します。

科目区分	科目名	年次	学期	単位数	最低修得単位数
英語以外	たのしく学ぶ○○語ⅠA※2	1	春	各1	8
	たのしく学ぶ○○語ⅠB※2				
	たのしく学ぶ○○語ⅡA※2		秋		
	たのしく学ぶ○○語ⅡB※2				
	たのしく学ぶ△△語ⅠA※2	2	春	各1	
	たのしく学ぶ△△語ⅠB※2				
	たのしく学ぶ△△語ⅡA※2		秋		
	たのしく学ぶ△△語ⅡB※2				

※2　科目名の○○および△△には、ドイツ・フランス・中国・ロシア・スペイン・インドネシア・イタリア・韓国朝鮮・ベトナムの各言語名が入ります。

【履修上の注意】

◇1セメスター終了時点における言語変更および科目変更は原則として認められません。

◇2言語で修得する場合、2年次に履修する「たのしく学ぶ△△語」は、2年次の履修登録時に各自が履修計画に基づき登録します。ただし、登録科目はコンピュータ抽選により決定されます。

⑵ 各種検定試験のスコアによる単位認定について（b-9ページを参照）

◇外国語教育科目

指定された各種検定試験でのスコアに基づき、言語教育科目の選択科目として単位認定をします。

⑶ 余剰単位の取り扱い

言語教育科目で定める単位数を超えて修得した単位は、卒業要件単位に算入します。

⑷ 再履修について

1言語修得も2言語修得も、単位未修得の科目を再履修して、不足単位数を修得しなければなりません。

1言語修得で4単位未修得の場合、異なる言語の「たのしく学ぶ○○語ⅠA～ⅡB」または「●●語エキスパート」を組み合わせて、2言語修得として最低修得単位数を充足することも可能です。（※ 3セメスター以降から可能）

2言語修得で「たのしく学ぶ○○語」（1言語）の科目が単位未修得の場合、異なる言語の「●●語エキスパート」を組み合わせて最低修得単位数を充足することも可能です。（※ 3セメスター以降から可能）

※同一言語で「たのしく学ぶ○○語ⅠA～ⅡB」と「●●語エキスパート」を8単位修得した場合、1言語および2言語の最低修得単位数を充足したことにはなりません。

⑸ その他

【TOEIC L&R受験について】

◇春学期終了時に、TOEIC L&R IP（学内受験）を希望者に実施します。［受験料は個人負担］

受験方法などの詳細については、電子掲示板POST等でお知らせします。

⑹ 外国人留学生を対象とした言語教育科目について

＜履修パターン＞

1セメスター	2セメスター
日本語科目（4単位・必修）	日本語科目（4単位・必修）

※上記履修パターンによる履修は、推奨される履修方法であり、1セメスター・2セメスターで必修科目が修得できなかった場合は、3セメスターから卒業までの間に必修科目を修得する必要があります。

＜日本語科目＞

単 位 数：1単位（※「留学生のための日本事情」除く）
配当年次：1年次

<table>
<tr><th>対象者</th><th>レベル</th><th>必修・選択別</th><th colspan="8">科目名</th></tr>
<tr><td rowspan="5">正規学部留学生</td><td>7</td><td>選択</td><td>上級日本語3（ビジネス）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語3（文章表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td></td><td></td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3">【選択】検定で学ぶ日本語（上級）Ⅰ/Ⅱ</td><td></td><td rowspan="5">【選択】留学生のための日本事情（2単位）</td></tr>
<tr><td>6</td><td>必修</td><td>上級日本語2（語彙・読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語2（文章表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語2（口頭表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語2（聴解）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="3">【選択】実践日本語</td></tr>
<tr><td>5</td><td>必修</td><td>上級日本語1（語彙・読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語1（文章表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語1（口頭表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語1（聴解）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td>4</td><td>選択</td><td>中級日本語2（語彙・読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語2（文法）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語2（口頭表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語2（聴解）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2">中級日本語（文字・表記）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2">検定で学ぶ日本語（中級）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td>3</td><td>選択</td><td>中級日本語1（語彙・読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語1（文法）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語1（会話）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語1（聴解）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td rowspan="5">非正規留学生</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2"></td><td>初級日本語2（文法B）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2">初級日本語2（会話）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2">初級日本語2（読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="4">初級日本語（文字・表記）Ⅰ/Ⅱ</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>初級日本語2（文法A）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2"></td><td>初級日本語1（文法B）Ⅰ/Ⅱ</td><td>初級日本語1（会話B）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>初級日本語1（文法A）Ⅰ/Ⅱ</td><td>初級日本語1（会話A）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">0</td><td rowspan="2">—</td><td colspan="2" rowspan="2"></td><td>入門日本語（会話B）</td><td colspan="4" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>入門日本語（会話A）</td></tr>
</table>

※科目名のⅠは春学期科目、Ⅱは秋学期科目を表し、それぞれ1単位

・外国人留学生とみなされる学生のみ履修できます。
・言語教育科目の最低修得単位数は、必修の「日本語」科目を8単位修得しなければなりません。
・ただし、入学時のプレイスメントテストの結果等により「日本語」科目を履修しない学生は、「日本語以外の言語（英語および母語以外）」を履修します。修得した単位は、卒業要件単位に算入します。
・レベル3～4の科目を正規学部留学生が履修する場合は、日本語担当教員からの履修許可が必要です。

※履修可能な科目は、履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。

◇英語以外の外国語検定試験合格者の単位認定制度（編・転入学生および各言語を母語とする外国人留学生を除く）◇

この制度は、下記表の検定試験において一定の基準を満たしている場合、その学修に対して、単位を認定する制度です。

①認定基準及び単位数

検定試験の種類	2単位	4単位	6単位	8単位
ドイツ語技能検定試験	4級	3級	2級	準1級 1級
実用フランス語技能検定試験	4級	3級	準2級	2級 準1級 1級
中国語検定試験	4級	3級	2級	準1級 1級
ロシア語能力検定試験	4級	3級	2級	1級
スペイン語技能検定試験	5級	4級	3級	2級 1級
インドネシア語技能検定試験	E級	D級	C級	B級 A級
実用イタリア語検定試験	5級	4級	3級	準2級 2級 1級
ハングル能力検定試験	4級	3級	準2級	2級 1級

②認定科目の取扱

a．共通教育科目の「○○語認定科目」（選択科目）として認定します。
（○○の中には、各言語の名前が入ります。）

b．認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。

c．認定単位は、最低修得単位数124単位のうち、8単位を限度に卒業要件単位として算入します。
（履修登録上限単位数には、含まれません。）

d．異なる言語の検定試験に合格した場合も認定単位の上限は8単位とします。
異なる言語で資格を取得しても同一基準での資格・スコアの重複認定はできませんが、上位基準の資格やスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定することができます。

例）　1年次　ドイツ語技能検定試験　4級　2単位申請・認定
　　3年次　中国語検定試験　3級　4単位該当
　　差し引き2単位追加認定

e．一旦認定した単位の取消しはできません。

f．外国語学部の学生は、専攻語の検定試験に関しては認定申請できません。

※英語学科生の専門教育科目での認定申請については、「外国語検定試験合格者等の単位認定制度」参照のこと。

③申請期間

申請手続および申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、申請した科目の単位認定は、各学期末とします。

④提出書類

a．検定試験合格者等に対する単位認定申請書

b．各検定試験合格証書の原本とコピー

c．最新の学業成績表のコピー（1年次春学期以外）

⑤有効期限

入学前に取得した資格も認定することができますが、有効期限が設定されている検定試験は、届け出日以前に失効している場合は対象外とします。

※「中国語検定試験」において定められている「能力保証期間」は「有効期限」とは異なります。

3．体育教育科目

体育教育科目は、「講義科目」「実習科目」「演習科目」に区分しています。

⑴「健康科学実習」

登録はコンピュータ抽選により教職希望者を優先して決定します。

医師の指導等により運動が制限されている学生と、そのサポートを中心としたボランティア学習を希望する学生を対象としたクラス（Hクラス）を設けています。Hクラスの履修希望者は、所属事務室に申し出て登録の手続をしてください。

⑵「スポーツ科学実習Ａ」「スポーツ科学実習Ｂ」

科目名に競技名を表す副題がついています。

副題が異なっていても「スポーツ科学実習Ａ」「スポーツ科学実習Ｂ」は、それぞれ１科目しか履修できません。

⑶「健康科学演習Ａ」「健康科学演習Ｂ」

科目名に副題がついています。

副題が異なっていても「健康科学演習Ａ」「健康科学演習Ｂ」は、それぞれ１科目しか履修できません。

⑷「スポーツ科学演習Ａ」「スポーツ科学演習Ｂ」

科目名に副題がついています。

副題が異なっていても「スポーツ科学演習Ａ」「スポーツ科学演習Ｂ」は、それぞれ１科目しか履修できません。

⑸ スポーツ指導者育成科目

（公財）日本スポーツ協会では、公認スポーツ指導者制度に基づきスポーツ指導者を認定しています。この公認スポーツ指導者の資格を取得した者は、将来地域のスポーツクラブの指導者として、また特定競技の基礎的・専門的指導者として活動できることとなります。

これらの資格を取得するためには、日本スポーツ協会で定めた「共通科目」と「専門科目」を修了する必要がありますが、「共通科目」のうち「共通科目Ⅰ」「共通科目Ⅱ」「共通科目Ⅲ」にあたる科目については、次表の本学開設科目を単位取得し、卒業年度時に大学を通じ（公財）日本スポーツ協会に所定の手続をすることにより、公認スポーツ指導者養成講習会受講時に講習・試験の免除を受けることができます。

※本学での履修方法や申請の詳細については、説明会またはPOSTで案内します。

＜本学開設科目を単位取得することにより講習・試験の免除が受けられる公認スポーツ指導者の資格＞

・「コーチングアシスタント」：次表の10科目すべてを卒業までに単位取得し、日本スポーツ協会へ申請（卒業年度に申請）の上、日本スポーツ協会のオンラインテストに合格すれば資格が得られます。

・「コーチ１」「コーチ２」「コーチ３」「ジュニアスポーツ指導員」「アシスタントマネジャー」「クラブマネジャー」「スポーツプログラマー」「教師」「スポーツ栄養士」「アスレティックトレーナー」：次表の10科目すべてを卒業までに単位取得し、日本スポーツ協会へ申請（卒業年度に申請）の上、日本スポーツ協会のオンラインテストに合格すれば、該当指導者の「共通科目」の講習と試験免除が受けられます。

※「スポーツ栄養士」の資格を取得するためには、管理栄養士免許が必要です。

※各資格の有効期間は４年間で、４年ごとに更新手続が必要です。

※各自で日本スポーツ協会が発行するリファレンスブックの購入が必要になります。

※各資格の詳細は「日本スポーツ協会ホームページ」で確認してください。

スポーツ指導者育成科目

本学の開設科目（体育教育科目）
スポーツの心理
スポーツ指導論
スポーツ医学Ⅰ
スポーツマネジメント
スポーツ栄養学※
スポーツのスキル
現代社会とスポーツ※
ウェイトトレーニングの理論と実際
スポーツ医学Ⅱ
トレーニング論※

※現代社会学部健康スポーツ社会学科の専門教育科目

4. キャリア形成支援教育科目

京都産業大学のキャリア形成支援プログラムでは、「大学での学び」と「社会での実践」を段階的に積み重ねていくことで、学生の個性や自主性を養い、自ら考え行動する「社会で活躍できる人材」を育成しています。

※科目の概要・詳細等については本学webページに掲載していますので、参照してください。
URL：https://www.kyoto-su.ac.jp/features/career/index.html

【キャリア形成支援教育科目一覧】

科目群	科目系	1年次	2年次	3年次	4年次
導入・接続教育		自己発見と大学生活			
		ファシリテーション入門			
		キャリア・Re-デザイン			
産学協働教育	キャリアデザイン系		自己発見とキャリアデザイン		
				働き方の未来	
	PBL系	O/OCF-PBL1			
			O/OCF-PBL2		
			企業人と学生のハイブリッド		
	インターンシップ系	スタートアップ・インターンシップ			
			プレップ・インターンシップ		
			アスリートインターンシップ		
			インターンシップ1（大学コンソーシアム京都主催科目）		
			インターンシップ2（大学コンソーシアム京都主催科目）		
			インターンシップ3（国内）		
			インターンシップ4（海外）		
			インターンシップ5（自己開拓）		

※表内の科目は2021年度開講科目です。

●導入・接続教育科目群

主に1年次生を対象とした大学生活に適応するための力を養う科目です。皆さんがこれから体験する、「高校から大学への移行」・「共通教育と専門教育の連動」・「大学から社会への移行」といった局面において、柔軟に適応する力を身につける科目を開講しています。

例：「自己発見と大学生活」
大学という新たな環境の中で自己の特性とキャンパス環境の両方を活かし、「4年間の大学生活」を自らイメージし、実行する力を身につけます。言い換えると、「アウェイ（新たな環境）をホーム（安心して自分から周囲に働きかける場・自己表現し合える場）に変える力」を養います。授業は主に、受講生同士のグループワークを中心に展開します。（1年次の春学期しか履修することができません。）

※人間科学教育科目内にも、導入・接続教育科目群を設けています。（詳細はb-5ページ参照）

●産学協働教育科目群

①キャリアデザイン系科目

卒業後の進路と自分自身の大学生活とを結びつけ、充実感の高い大学生活を送る力を身につけることができます。ゲスト講師の講義や社会人との対話やディスカッションを通じて、自分のキャリアプランについて考えることができます。

例：「自己発見とキャリアデザイン」
「社会における自らの個性の活かし方」「社会課題と大学の学びの関わり」「産業界と専門科目のつながり」を理解し、卒業後のキャリアプランの明確化を促進します。その上で、主体的な大学生活の推進と自らのキャリア観を形成する力を高めます。

②PBL系科目

大学（On Campus）での学びと実社会（Off Campus）での学びとを融合させた、課題解決型学習（PBL：Project BasedLearning）科目です。企業や行政機関から与えられる課題の解決活動を通じて、社会に出た時に必要となる心構えや能力を身につけることができます。

例：「O/OCF-PBL2」
企業・行政機関等から提供された課題にチームで6ヶ月間挑戦し、最終成果報告会で解決策を提案。「社会人基礎力」「自他肯定感」「自在に人と関わる力」「問題解決力」を身につけます。

③インターンシップ系科目

実際に企業等で就業体験等を行う科目です。社員の方と接したり、実際の仕事を体験することで、仕事のやりがい、業種や職種による業務内容の違い、会社の風土を体感することができます。キャリア選択の視野を拡げることに加え、大学の学びが実社会でどのように活きるのかを体感し、実習後に学習意欲が向上することも狙いとしています。

例：「インターンシップ3」
国内企業・団体等で、夏期休暇中に2週間程度のインターンシップを行います。事前学習では目標設定、企業・業界研究、ビジネスマナー講義等、事後学習では「就業体験」を振り返り、成果報告を行うことで、学習意欲や就業意識の向上につながっています。

※各科目には、様々な履修条件があります。卒業まで計画的に履修するようにしてください。
※各科目を履修する場合は、履修要項別冊ガイドおよびシラバスを必ず参照し、詳細を確認してください。

専門教育科目

1．授業科目の概要について

【インテンシブ英語（Intensive English）】

英語の基礎を学び、総合的なコミュニケーション能力を段階的に身につけていくための科目です。1年次春学期にⅠ、同秋学期にⅡ、2年次春学期にⅢ、同秋学期にⅣと段階を追って内容が発展していきます。

「A」では、特定のテーマを設定した、内容中心の授業を行います。

「B」では、リーディングを中心に英語の総合能力の向上をめざします。

「C」では、英語の4技能を総合的に鍛えて、積極的なコミュニケーション能力を養成します。

【イングリッシュスタディーズ入門】

ことばの背景にある各言語圏の文化や社会事情など、専攻語として英語を4年間学んでいくために必要な入門的・基礎的知識を学びます。

【基礎演習】

大学で、そして外国語学部で学んでいくための基礎的な力を養成する授業です。具体的には、講義の聴き方、文献の読み方、情報収集の方法、レポートの書き方、効果的なプレゼンテーションの方法などを実践的に身につけていきます。

【英語情報リテラシー（English Information Literacy）】

インターネットで情報の検索をしたり、コンピュータを活用したプレゼンテーションを行うなど、英語を用いた情報処理能力を身につけます。

【学部基幹科目】

言語と文化の多様性や言語の仕組みの基礎を学ぶことで、異文化コミュニケーションのためのスキルや態度の基盤を形成する科目群や、第4次産業革命の時代を生きるために必要な基礎的知識・スキルを外国語学部生が学ぶ科目群です。

【英語海外実習（Overseas Studies in English）】

海外で実際に英語を使用して生活することにより、異文化受容能力を身につけると同時に、1年間の英語への取り組みの成果を認識し、意欲をもって2年次以降の学修へつなぐことを目的とした科目です。教室での周到な事前事後指導（1単位相当）と海外現地実習（2単位）を組み合わせて実施します。

【英語基幹科目】

英語言語圏の学問領域に関する中心的な授業科目群で、英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・政治・経済等についての知識を学びます。

【英語専門セミナー（Specialized English Studies）】

英語のコミュニケーション能力をさらに発展させるために、卒業後の進路をも見据えた専門的テーマを設定し、4技能を融合させた内容中心の総合的な科目です。

【英語研究演習】

4年間にわたる学びの集大成として、これまで学んできた広範な専門的知識や語学力、多様なコミュニケーション技能を活用し、個々の専門的関心を掘り下げ、まとめあげます。3年次春学期にⅠ、同秋学期にⅡ、4年次春学期にⅢ、同秋学期にⅣと、段階を追って学びを深めていきます。

【特別英語】

目標の達成や弱点の克服など、自分のニーズに合わせて履修する授業科目です。読む・聞く・話す・書く、といった英語スキル育成に特化した科目や世界の文化など内容に重点をおく科目があります。多くのクラスには英語習熟度に応じたレベル設定があり、段階的に学びを深めることができます。

【関連科目】

各自が専攻する専門領域だけでなく、広く専門的教養を身につけるために、他学科・他専攻の専門教育科目を学びたい場合、関連科目として履修できます。関連科目には、教科教育法など教職課程の科目も含まれています。

2．学部基幹科目について

【学部基幹科目】

「学部基幹科目」（1年次配当）のなかから、4単位以上を修得しなければなりません。

3．専攻科目について

⑴ 必修科目

次の科目を必修とします。不合格となった場合は、その不合格科目が開講される学期で優先的に再履修してください。

「インテンシブ英語（Intensive English）」、「英語情報リテラシー（English Information Literacy）」、「基礎演習」については、複数クラス開講しており、あらかじめ履修クラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかは、Web履修登録画面で確認してください。

	1年次配当		2年次配当	
開講期	科目名	単位	科目名	単位
春	Intensive English A Ⅰ	2	Intensive English A Ⅲ	2
	Intensive English B Ⅰ	1	Intensive English B Ⅲ	1
	Intensive English C Ⅰ	2	Intensive English C Ⅲ	2
	イングリッシュスタディーズ入門Ⅰ	2		
	English Information Literacy Ⅰ	1		
	基礎演習	2		
秋	Intensive English A Ⅱ	2	Intensive English A Ⅳ	2
	Intensive English B Ⅱ	1	Intensive English B Ⅳ	1
	Intensive English C Ⅱ	2	Intensive English C Ⅳ	2
	イングリッシュスタディーズ入門Ⅱ	2		
	English Information Literacy Ⅱ	1		

⑵ 選択必修科目

【英語基幹科目】

「英語基幹科目」（2年次配当）のなかから、18単位以上を修得しなければなりません。

【英語専門セミナー（Specialized English Studies）】

「Specialized English Studies」（3年次配当）のなかから、8単位以上を修得しなければなりません。

【特別英語】

「特別英語」のなかから、4単位以上を修得しなければなりません。

「特別英語」には、1単位科目と2単位科目があります。単位修得にあたっては、1単位科目を2科目以上修得しなければなりません。

また、科目により履修条件（クラス定員やレベル）が指定されています。詳しくは、履修説明会、履修要項別冊ガイド、シラバス等で確認してください。

※各レベルの目安

超上級　IELTS 5.5～　／ TOEFL iBT 54～　／ TOEFL ITP 521～　／ TOEIC L&R　600～
超中級　IELTS 4.5～5.5 ／ TOEFL iBT 39～54 ／ TOEFL ITP 470～520 ／ TOEIC L&R　500～600
準中級　IELTS　～4.0 ／ TOEFL iBT　～39 ／ TOEFL ITP　～470 ／ TOEIC L&R　～500

【英語研究演習】

以下の「英語研究演習」は、4単位以上を修得しなければなりません。

科目名	単位	配当年次	開講期	備考
英語研究演習Ⅰ	2	3	春	研究演習は、あらかじめ希望するクラスの応募を行い、選考により決定します。募集案内については2年次の秋学期に電子掲示板POSTにて発表します。 原則同一教員で、研究演習Ⅳまでの履修を推奨します（研究演習Ⅰを修得後は、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと自動登録されます）。
英語研究演習Ⅱ	2	3	秋	
英語研究演習Ⅲ	2	4	春	
英語研究演習Ⅳ	2	4	秋	

履修にあたり、次の条件が設定されています。

・研究演習の選択必修４単位修得にあたっては、所属学科の研究演習を履修しなければなりません。
・研究演習はⅠからⅣへと段階を追って学ぶため、Ⅰが修得できなかった場合、それに続く秋学期のⅡを履修することはできません（在学留学を除く）。同じく、Ⅱが修得できなかった場合、Ⅲを履修することはできません。
・同一教員のクラスを連続で履修していきますが、在学留学・休学等の理由で、連続履修ができない場合は、事前に外国語学部事務室で相談してください。
・所属学科の研究演習ⅠとⅢを同時に履修登録することはできません。
・所属学科以外の研究演習Ⅰ～Ⅳは選択科目として履修することができます。ただし、各セメスターに履修できる研究演習は最大２つまでです。

⑶ 選択科目

【英語海外実習（Overseas Studies in English）】

「Overseas Studies in English」は、１年次末の春休みに海外の大学で、約3週間の語学研修を受ける科目です。履修にあたっては、春学期に開催する説明会に必ず出席し、履修方法等を確認してください。

４．関連科目について

関連科目には、「教科教育法科目」を開講しています。また、他学科・専攻の「専門教育科目」を履修し修得した場合は、関連科目に区分されます。ただし、他学科・専攻の必修科目は履修できません。

〔イングリッシュ・キャリア専攻　修了証書発行要件について〕

以下の要件を満たした場合は、卒業時に修了証書を発行します。

【定員・募集・選抜方法等】

イングリッシュ・キャリア専攻は約20名を定員とし、１年次春学期に所属する学生の選抜を行います。選抜にあたっては、本人の希望理由や１年次春学期の履修状況、英語力などを参考にして総合的に評価し、決定します。春学期中に開催する説明会に必ず出席し、詳細を確認してください。説明会開催案内については、電子掲示板POSTにて発表します。

【修了証発行要件】

１．イングリッシュ・キャリア専攻の学生であること
２．卒業要件単位数のうち、英語による授業の科目を履修し、68単位以上の単位を修得していること。ただし、この単位数には次の単位を含んでいること。
　・英語による共通教育科目　８単位以上
　・英語による外国語学部専門教育科目60単位以上（英語基幹科目14単位以上を含む）
３．上記１．２．を満たしたうえで、以下の要件を２つ以上満たしていること
　・１学期間以上の留学（休学留学は含まない）
　・TOEFL ITP（学内受験）560点以上、IELTS6.0以上、TOEFL iBT83点以上、TOEIC L&R IP（学内受験）またはTOEIC L&R760点以上のうちいずれかを取得（これらは在学中に取得したスコアに限る）
　・英語研究演習の成果発表を行う（英語のアブストラクト提出と英語によるプレゼンテーション）

カリキュラムの概要

当該年度における各授業科目の休講等は、履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。

科目区分			年次	1年次		2年次	
専門教育科目	学部基幹科目	選択必修		ことば学入門(2) ことばと認知(2) ことばの普遍性(2) World Englishes(2) 日本と世界の手話(2) エスペラント語入門(2)	日本の社会と言語の多様性(2) ニュースの読み解き方(2) 国際関係入門(2) コンピュータと言語(2) 文系学生のためのデジタル・リサーチ入門(2)		
	専攻科目	必修		Intensive English AⅠ(2) Intensive English BⅠ(1) Intensive English CⅠ(2)	Intensive English AⅡ(2) Intensive English BⅡ(1) Intensive English CⅡ(2)	Intensive English AⅢ(2) Intensive English BⅢ(1) Intensive English CⅢ(2)	Intensive English AⅣ(2) Intensive English BⅣ(1) Intensive English CⅣ(2)
				イングリッシュスタディーズ入門Ⅰ(2)	イングリッシュスタディーズ入門Ⅱ(2)		
				English Information LiteracyⅠ(1)	English Information LiteracyⅡ(1)		
				基礎演習(2)			
		選択必修	専攻基幹科目			Introduction to English Linguistics Ⅰ(2) 英語学A（英語音声学・音韻論）Ⅰ(2) 英語学B（英語統語・意味論）Ⅰ(2) English Lexis CⅠ(2) 英米文学概論Ⅰ(2) 英文学Ⅰ(2) 米文学Ⅰ(2) Children's Literature in EnglishⅠ(2)	Introduction to English Linguistics Ⅱ(2) 英語学A（英語音声学・音韻論）Ⅱ(2) 英語学B（英語統語・意味論）Ⅱ(2) English Lexis CⅡ(2) 英米文学概論Ⅱ(2) 英文学Ⅱ(2) 米文学Ⅱ(2) Children's Literature in EnglishⅡ(2)
			専門セミナー				
			研究演習				
			特別英語	特別英語（多読）(1) 特別英語（発音クリニックⅠ）(1) 特別英語（英語プレゼンテーションⅡ）(1) 特別英語（メール・ライティングⅠ）(1) 特別英語（異文化探検）(1) 特別英語（地域スタディーズ・ヨーロッパ）(1) 特別英語（多読多聴Ⅰ）(2) 特別英語（留学英語IELTS Ⅱ）(1)	特別英語（アクティブ・リスニング入門 音楽）(1) 特別英語（発音クリニックⅡ）(1) 特別英語（ディスカッション英語Ⅰ）(1) 特別英語（メール・ライティングⅡ）(1) 特別英語（英国スタディーズ ）(1) 特別英語（地域スタディーズ・アジア）(1) 特別英語（多読多聴Ⅱ）(2) 特別英語（英語基礎ルール）(1)	特別英語（アクティブ・リスニング入門）(1) 特別英語（アクティブ・スピーキング入門）(1) 特別英語（ディスカッション英語Ⅱ）(1) 特別英語（英語エッセイチャレンジⅠ）(1) 特別英語（オーストラリア スタディーズ ）(1) 特別英語（Movie Culture and Society Ⅰ）(1) 特別英語（教室英語Ⅰ）(1) 特別英語（英語基礎訓練）(1)	
		選択		Overseas Studies in English(3)			
	関連科目	選択				英語科教育法1(2)	英語科教育法2(2)

の科目は、英語による授業科目（外国語学部専門教育科目）です。

共通教育科目、他学部専門教育科目の英語による授業科目は、履修要項「グローバルな学び」のページ、シラバス等で確認してください。

（　）内は単位数

	3　年　次	4　年　次	卒業要件単位数		
			4単位以上	80単位以上	共通教育科目21単位、融合教育科目、専門教育科目80単位以上を含む124単位以上
			20単位		
			4単位		
			2単位		
			2単位		
	Introduction to British Culture Ⅰ(2) Introduction to American Culture Ⅰ(2) World Theatre Ⅰ(2) Culture and Literature of English Speaking Areas Ⅰ(2) 社会言語学Ⅰ(2) 心理言語学Ⅰ(2) 応用言語学Ⅰ(2) エアラインビジネス論Ⅰ(2) Introduction to British Culture Ⅱ(2) Introduction to American Culture Ⅱ(2) World Theatre Ⅱ(2) Culture and Literature of English Speaking Areas Ⅱ(2) 社会言語学Ⅱ(2) 心理言語学Ⅱ(2) 応用言語学Ⅱ(2) エアラインビジネス論Ⅱ(2)	ツーリズム論Ⅰ(2) ホスピタリティビジネス論Ⅰ(2) Theory of interpreting Ⅰ(2) Practice of interpreting Ⅰ(2) Theory of Translation Ⅰ(2) Practice of Translation Ⅰ(2) ツーリズム論Ⅱ(2) ホスピタリティビジネス論Ⅱ(2) Theory of interpreting Ⅱ(2) Practice of interpreting Ⅱ(2) Theory of Translation Ⅱ(2) Practice of Translation Ⅱ(2)	18単位以上		
	Specialized English Studies (Current News in English) Ⅰ(2) Specialized English Studies (Academic English) Ⅰ(2) Specialized English Studies (Creative Writing) Ⅰ(2) Specialized English Studies (Guiding and interpreting) Ⅰ(2) Specialized English Studies (Translation) Ⅰ(2) Specialized English Studies (Journalism) Ⅰ(2) Specialized English Studies (Business English) Ⅰ(2) Specialized English Studies (Current News in English) Ⅱ(2) Specialized English Studies (Academic English) Ⅱ(2) Specialized English Studies (Creative Writing) Ⅱ(2) Specialized English Studies (Guiding and interpreting) Ⅱ(2) Specialized English Studies (Translation) Ⅱ(2) Specialized English Studies (Journalism) Ⅱ(2) Specialized English Studies (Business English) Ⅱ(2)		8単位以上		
	英語研究演習Ⅰ(2) 英語研究演習Ⅱ(2)	英語研究演習Ⅲ(2) 英語研究演習Ⅳ(2)	4単位以上		
	特別英語（アクティブ・リスニング）(1) 特別英語（ロールプレイ）(1) 特別英語（ディベート英語Ⅰ）(1) 特別英語（英語エッセイチャレンジⅡ）(1) 特別英語（ニュージーランド スタディーズ ）(1) 特別英語（Movie Culture and Society Ⅱ）(1) 特別英語（教室英語Ⅱ）(1) 特別英語（ニュース英語Ⅰ）(1) 特別英語（アクティブ・スピーキング）(1) 特別英語（ディベート英語Ⅱ）(1) 特別英語（アカデミックライティングⅠ）(2) 特別英語（米国 スタディーズ ）(1) 特別英語（長期留学前準備）(2) 特別英語（IELTS入門と留学準備）(1) 特別英語（ニュース英語Ⅱ）(1) 特別英語（英語プレゼンテーションⅠ）(1) 特別英語（ＳＮＳ英語）(1) 特別英語（アカデミックライティングⅡ）(2) 特別英語（カナダ スタディーズ ）(1) 特別英語（長期留学後総括）(2) 特別英語（留学英語IELTS Ⅰ）(1)	4単位以上		
	英語科教育法3(2) 英語科教育法4(2)				

履　修　方　法

ヨーロッパ言語学科

ド　イ　ツ語専攻
フランス語専攻
スペイン語専攻
イタリア語専攻
ロ　シ　ア語専攻
メディア・コミュニケーション専攻

履修規定

1．卒業に必要な最低修得単位数

卒業するためには、４年以上在学し、次の科目区分に従って、124単位以上修得しなければなりません。

<table>
<tr><th colspan="4">科　目　区　分</th><th colspan="3">最低修得単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共通教育科目</td><td rowspan="3">人間科学教育科目</td><td>選択必修</td><td colspan="2">社会科学（注1）</td><td>４単位以上</td><td rowspan="8">21単位
以上</td><td rowspan="22">124単位</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">自然科学（注1）</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">言語教育科目</td><td>必修</td><td colspan="2">英語教育科目</td><td>８単位以上</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td>体育教育科目</td><td>選択</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">キャリア形成支援教育科目</td><td>選択必修</td><td colspan="2"></td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">融合教育科目</td><td>選択</td><td colspan="2">（注2）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="20">専門教育科目</td><td>学部基幹科目</td><td>選択必修</td><td colspan="2"></td><td>４単位以上</td><td rowspan="19">80単位
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="7">専攻科目</td><td rowspan="4">必修</td><td colspan="2">専攻○○語（注3）</td><td>20単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">○○学入門（注4）</td><td>４単位</td></tr>
<tr><td>ドイツ語専攻
フランス語専攻
スペイン語専攻
イタリア語専攻
ロシア語専攻</td><td>○○語情報リテラシー
（注4）</td><td rowspan="2">２単位</td></tr>
<tr><td>メディア・コミュニケーション専攻</td><td>情報リテラシー</td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択必修</td><td colspan="2">基礎演習</td><td>２単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">ヨーロッパ言語基幹科目</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">専攻基幹科目</td><td>12単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5">英語科目</td><td rowspan="2">選択必修</td><td>ドイツ語専攻
フランス語専攻
スペイン語専攻
イタリア語専攻
ロシア語専攻</td><td>○○語専門セミナー
（注4）</td><td rowspan="2">８単位以上</td></tr>
<tr><td>メディア・コミュニケーション専攻</td><td>メディア・コミュニケーション・インターンシップ
メディア・コミュニケーション専門セミナー</td></tr>
<tr><td colspan="2">ヨーロッパ言語研究演習</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">必修</td><td>ドイツ語専攻
フランス語専攻
スペイン語専攻
イタリア語専攻
ロシア語専攻</td><td>英語で学ぶ○○の社会
英語で学ぶ○○の文化
（注4）</td><td rowspan="2">４単位</td></tr>
<tr><td>メディア・コミュニケーション専攻</td><td>英語で学ぶ情報社会
英語で学ぶメディア文化</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td colspan="2">特別英語（注5）</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>選択</td><td colspan="2">教科教育法科目
他学科・専攻専門教育科目</td><td></td></tr>
</table>

（注1）社会科学領域，自然科学領域それぞれから４単位以上を修得しなければならない。
（注2）融合教育科目には、外国語学部生履修可とする他学部専門教育科目を算入することができる。
（注3）○○には、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語のうち、専攻する言語名が入る。
（注4）○○には、所属する専攻名が入る。
（注5）１単位科目を２科目以上修得しなければならない。

2．各セメスターの履修登録上限単位数

各セメスターの履修登録上限単位数は下表のとおりです。

セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
単位数	24	24	24	24	24	24	24	24

ただし、次の科目は上記の単位数には含まれません。

①卒業要件とならない自由（随意）科目
②単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目　等）
③共通教育科目
　インターンシップ、O/OCF-PBL、「アスリートインターンシップ」、「スタートアップ・インターンシップ」、「プレップ・インターンシップ」、「企業人と学生のハイブリッド」、「熊本・山鹿フィールド」
④共通教育科目〈教育・教職科目群〉における教職課程登録者のみ履修可とする科目
⑤海外語学実習
⑥外国語学部専門教育科目
　「Overseas Studies in English」、「〇〇海外実習」（〇〇には、ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語・中国語・韓国語・インドネシア語が入る）、「メディア・コミュニケ―ション・インターンシップ」
⑦経済学部専門教育科目「グローバル経済フィールドワークⅠ」、「グローバル経済フィールドワークⅡ」
⑧文化学部専門教育科目「国際文化研修」
⑨生命科学部専門教育科目「英語サマーキャンプ１」

共通教育科目

京都産業大学では、教学の理念に掲げる「自らを厳しく律しつつ、創造力に富み、社会的な義務を怠ることなく、国内外を問わず活躍できる人材」の育成のために、学生が自らの専門分野を深く学ぶだけでなく、幅広い教養を身につけることのできるよう、「人間科学教育科目」「言語教育科目」「体育教育科目」「キャリア形成支援教育科目」の区分を設けて、すべての学生に開講しています。

入学年度ごとに定められている履修規定を十分に把握したうえで履修してください。

1．人間科学教育科目

人間科学教育科目は、「人文科学」「社会科学」「自然科学」「総合」の４つの領域にわかれます。

このうち、「総合」以外の３領域は、「基本科目」と「展開科目」から構成されています。自らの専門以外の学問分野を学ぶにあたって、まず基本科目でその学問分野の大まかな全体像を得て基本的な考え方をつかみ、そこで興味を感じた内容を展開科目でさらに深く学ぶことで、体系的に学習できるよう工夫しています。

⑴ 各領域の特徴

【人文科学領域】

この領域は、古今東西の人類の文化を対象とします。これには、「哲学」「心理学」「歴史学」「文学・芸術学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、文化の多様性を認識し、柔軟に思考できるようになることを目的としています。

【社会科学領域】

この領域は、意見や利害が多種多様で、価値観の異なる人々が構成する社会とそのような社会で生じる諸現象とを対象とします。これには、「経済学」「経営学」「法学・政治学」「社会学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、多種多様な人々の共存や協力を図るしくみを理解することを目的としています。

【自然科学領域】

この領域は、ミクロ（素粒子）からマクロ（宇宙）までの様々なスケールの自然現象を対象とします。これには、京都産業大学の特色といえる「天文・物理科学」「生命・環境科学」「情報科学」それに、自然科学の基盤である「数学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、自然法則や生命の営みへの見方を養うことを目的としています。

【総合領域】

この領域は、次の科目群に区分されます。

・導入・接続教育科目群※1：主に１年次生を対象とした大学生活に適応するための力を養う科目
・ＫＳＵ科目群：本学の特色ある科目と本学で学ぶための基礎となる科目
・教育・教職科目群：教員免許取得などに関わる科目
・人権科目群：人権に関わる諸問題や歴史などを学ぶ科目
・情報科目群：情報に関する科目

※1　皆さんがこれから体験する「高校から大学への移行」「共通教育と専門教育の連動」「大学から社会への移行」といった局面において、柔軟に適応する力を身につける科目を開講しています。キャリア形成支援教育科目（b-31ページ）内にも、「導入・接続教育科目群」を設けています。

⑵ 履修方法について

社会科学領域および自然科学領域の２領域からそれぞれ４単位以上修得しなければなりません。

社会科学領域 4単位 ＋ 自然科学領域 4単位　　合計　8単位

⇒　社会科学領域および自然科学領域の２領域から「基本科目」と、それに関連する「展開科目」を修得することを推奨します。

2. 言語教育科目

言語教育科目は、英語教育科目と英語以外の外国語教育科目から構成されています。

英語教育科目

グローバル社会の中で活躍し社会に貢献するためには、実用的な英語運用能力の獲得が必須となります。本学では、全学部１・２年次に英語授業を必修とし「読む・書く・話す・聞く」の英語学習に加えて、就職活動の入口やビジネス場面で有用とされるTOEIC対応の学習も行います。また、その達成度合いを測るために年数回TOEIC L&Rを受験します。英語が苦手な方には基礎から学ぶ授業を開講し、基礎から英語能力の向上を図ります。

外国語教育科目

外国語教育科目は、国際社会で求められる高度な語学力を身に付けて国際的視野を磨く科目で、９言語から学びたい言語を選択できます。ネイティブスピーカーの教員による会話や検定試験を念頭に置いた科目など、各種レベルの特色ある科目が用意されており、学習経験の有無にかかわらず、伸ばしたい力と学習の目的に応じて履修することができます。

(1) 履修方法について

英語必修科目８単位を修得しなければなりません。

科目区分		科目名	単位数	最低修得単位数
英語	必修	クラス指定された科目※1	各1	8

※1　入学時の英語プレイスメントテスト（TOEIC Bridge IP）のスコアに基づき、レベル（クラス）分けを行います。そのレベルにより、セメスターごとに履修する科目が異なります。〔下表参照〕

【英語必修科目】

レベル	レベル分け基準（TOEIC L&Rスコア）	TOEIC L&R スコア目標	1年次		2年次	
			1セメ（春学期）	2セメ（秋学期）	3セメ（春学期）	4セメ（秋学期）
【上級】	520以上	600以上	上級英語（プレゼンテーション）Ⅰ	上級英語（プレゼンテーション）Ⅱ	上級英語（ディスカッション）Ⅰ	上級英語（ディスカッション）Ⅱ
			上級英語（TOEIC）Ⅰ	上級英語（TOEIC）Ⅱ	上級英語（TOEIC）Ⅲ	上級英語（TOEIC）Ⅳ
【中級】	400以上	500以上	中級英語（コミュニケーション）Ⅰ	中級英語（コミュニケーション）Ⅱ	中級英語（コミュニケーション）Ⅲ	中級英語（コミュニケーション）Ⅳ
			中級英語（TOEIC）Ⅰ	中級英語（TOEIC）Ⅱ	中級英語（TOEIC）Ⅲ	中級英語（TOEIC）Ⅳ
【初級】	310以上	400以上	初級英語（コミュニケーション）Ⅰ	初級英語（コミュニケーション）Ⅱ	初級英語（コミュニケーション）Ⅲ	初級英語（コミュニケーション）Ⅳ
			初級英語（TOEIC）Ⅰ	初級英語（TOEIC）Ⅱ	初級英語（TOEIC）Ⅲ	初級英語（TOEIC）Ⅳ
【基礎】	—	—	基礎英語（コミュニケーション）Ⅰ	基礎英語（コミュニケーション）Ⅱ	基礎英語（コミュニケーション）Ⅲ	基礎英語（コミュニケーション）Ⅳ
			基礎英語（総合）Ⅰ	基礎英語（総合）Ⅱ	基礎英語（総合）Ⅲ	基礎英語（総合）Ⅳ

※セメスターごとに２科目を学びます。

※網掛は、原則、英語ネイティブスピーカーの教員が担当（網掛以外は、日本人教員が担当）

【TOEIC L&R受験について】

◇１・２年次終了時に、「上級」・「中級」・「初級」レベルのクラスは全員、「基礎」レベルの学生は希望者のみ、TOEIC L&R IP（学内受験）を受験します。［受験料は大学負担］

◇春学期終了時にも、TOEIC L&R IP（学内受験）を希望者に実施します。［受験料は個人負担］
受験方法などの詳細については、電子掲示板POST等でお知らせします。

⑵ 各種検定試験のスコアによる単位認定について（b-26～b-28ページを参照）

◇英語教育科目

TOEIC L&R IP（学内受験）およびTOEIC L&R（公開テスト）でのスコアに基づき、英語必修科目として単位認定します。

また、TOEFLや実用英語技能検定のスコアで英語選択科目として認定する制度があります。

◇外国語教育科目

指定された各種検定試験のスコアに基づき、言語教育科目の選択科目として単位認定します。

⑶ 余剰単位の取り扱い

言語教育科目で定める単位数を超えて履修した単位は、卒業要件単位に算入します。

⑷ 再履修について

セメスター毎に決められた英語必修科目の単位が修得できなかった場合は、次セメスター以降に再履修クラスを履修します。

⑸ 履修上の注意事項

英語必修科目は、セメスター毎に設けているTOEIC L&R IP（学内受験）を受験し、そのスコアによって自動的に上位のクラスに上がります。クラス変更の結果は、新学期の開始前に電子掲示板POST等にて連絡します。

⑹ 外国人留学生を対象とした言語教育科目について

＜履修パターン＞

1セメスター	2セメスター
日本語科目（4単位・必修）	日本語科目（4単位・必修）

※上記履修パターンによる履修は、推奨される履修方法であり、1セメスター・2セメスターで必修科目が修得できなかった場合は、3セメスターから卒業までの間に必修科目を修得する必要があります。

＜日本語科目＞

単 位 数：1単位（※「留学生のための日本事情」除く）
配当年次：1年次

<table>
<tr><th>対象者</th><th>レベル</th><th>必修・選択別</th><th colspan="9">科目名</th></tr>
<tr><td rowspan="5">正規学部留学生</td><td>7</td><td>選択</td><td>上級日本語3（ビジネス）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語3（文章表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td></td><td></td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3">【選択】検定で学ぶ日本語（上級）Ⅰ/Ⅱ</td><td></td><td rowspan="5">【選択】留学生のための日本事情（2単位）</td></tr>
<tr><td>6</td><td>必修</td><td>上級日本語2（語彙・読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語2（文章表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語2（口頭表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語2（聴解）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="3">【選択】実践日本語</td></tr>
<tr><td>5</td><td>必修</td><td>上級日本語1（語彙・読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語1（文章表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語1（口頭表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語1（聴解）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td>4</td><td>選択</td><td>中級日本語2（語彙・読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語2（文法）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語2（口頭表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語2（聴解）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2">中級日本語（文字・表記）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2">検定で学ぶ日本語（中級）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td>3</td><td>選択</td><td>中級日本語1（語彙・読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語1（文法）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語1（会話）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語1（聴解）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td rowspan="5">非正規留学生</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2"></td><td>初級日本語2（文法B）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2">初級日本語2（会話）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2">初級日本語2（読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="4">初級日本語（文字・表記）Ⅰ/Ⅱ</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>初級日本語2（文法A）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2"></td><td>初級日本語1（文法B）Ⅰ/Ⅱ</td><td>初級日本語1（会話B）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>初級日本語1（文法A）Ⅰ/Ⅱ</td><td>初級日本語1（会話A）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">0</td><td rowspan="2">—</td><td colspan="2" rowspan="2"></td><td>入門日本語（会話B）</td><td colspan="4" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>入門日本語（会話A）</td></tr>
</table>

※科目名のⅠは春学期科目、Ⅱは秋学期科目を表し、それぞれ1単位

・外国人留学生とみなされる学生のみ履修できます。
・言語教育科目の最低修得単位数は、必修の「日本語」科目を8単位修得しなければなりません。
・ただし、入学時のプレイスメントテストの結果等により「日本語」科目を履修しない学生は、「日本語以外の言語（母語以外）」を履修します。修得した単位は、卒業要件単位に算入します。
・レベル3～4の科目を正規学部留学生が履修する場合は、日本語担当教員からの履修許可が必要です。

※履修可能な科目は、履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。

◇英語資格試験等の単位認定制度（編・転入学生および英語を母語とする外国人留学生を除く）◇

この制度は、TOEIC L&R、TOEFL、実用英語技能検定において下表に示す基準を満たしている場合、その学修に対して、単位を認定する制度です。

「1．共通教育科目（英語教育科目）の必修科目に認定（上限6単位まで）」と、「2．共通教育科目（英語教育科目）の選択科目に認定」の2つの制度があります。双方あわせて、最大8単位までしか認められません。

【認定科目・単位数一覧表】

種　類	2単位	4単位	6単位	8単位	認定科目
TOEIC L&R	520～595点	600～695点	700～795点	800点～	英語必修科目 （上限6単位まで） ※認定する単位数の余剰分については、「英語選択科目」で認定
TOEFL-ITP	477～500点	503～537点	540～570点	573点～	英語選択科目
TOEFL-iBT	53～61点	62～75点	76～88点	89点～	英語選択科目
実用英語技能検定	2級	準1級	－	1級	英語選択科目

1．共通教育科目（英語教育科目）の必修科目での認定

①認定基準及び単位数

試験はTOEIC L&R IP（学内受験）またはTOEIC L&R（公開テスト）（国内受験）に限ります。

②認定科目の取扱い

a．対象者は、英語必修科目履修者のみです。

b．TOEIC L&R IP（学内受験）またはTOEIC L&R（公開テスト）のスコアに基づき、共通教育科目の英語必修科目として認定します。

c．単位認定する科目は、高年次配当の英語必修科目から順次認定します。ただし、再履修科目がある場合は、再履修科目の低年次配当科目を先に認定します。

d．認定は、所定の申請をした学期末に認定します。

e．認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。認定された科目はGPA算出の対象外とします。

f．同一基準でのスコアの重複認定はできませんが、上位基準のスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定します。

例）	1年次	TOEIC L&R IP（学内受験）	550点	2単位認定
	2年次	TOEIC L&R（公開テスト）	600点	4単位該当
				差し引き2単位追加認定

g．必修科目としての認定単位は、6単位を上限に卒業要件単位として算入します。余剰単位は、「英語認定科目」（選択科目）として認定します。

h．一旦認定された内容の変更・取消しはできません。

③申請期間

申請手続および申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、TOEIC L&R IP（学内受験）を受験された場合については、大学側でスコアを確認して単位認定を行います（本人申請不要）。

④提出書類

a．英語資格試験等に対する単位認定申請書

b．TOEIC L&R（公開テスト）のスコアカードの原本とそのコピー

c．最新の学業成績表のコピー（1年次春学期以外）

※TOEIC L&R IP（学内受験）を受験された場合は、申請は不要です。

⑤有効期限

TOEIC L&R（公開テスト）のスコアの有効期限は、取得後2年以内とします（入学前に取得したスコアは単位認定の対象外）。

2．共通教育科目（英語教育科目）の選択科目としての認定

①認定基準及び単位数（試験は国内受験に限る）

前頁【認定科目・単位数一覧表】参照

②認定科目の取扱い

a．①の認定基準及び単位数に基づき、共通教育科目の「英語認定科目」（選択科目）として認定します。

b．認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。認定された科目はGPA算出の対象外とします。

c．同一基準での資格・スコアの重複認定はできませんが、上位基準の資格やスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定することができます。

例）	１年次	実用英語技能検定	２級	２単位申請・認定
	３年次	TOEFL-ITP	532点	４単位該当
				差し引き２単位追加認定

d．「英語認定科目」（必修科目）の認定における余剰単位は、「英語認定科目」（選択科目）として認定します。こちらについても、上位基準の資格やスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定します。

e．認定単位は、「英語認定科目」（必修科目：上限６単位まで）と「英語認定科目」（選択科目）を合わせて８単位を限度に卒業要件単位として算入します。

f．一旦認定した科目の変更・取消しはできません。

③申請期間

申請手続および申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、申請した科目の単位認定は、各学期末とします。

④提出書類

a．英語資格試験等に対する単位認定申請書

b．TOEIC L&R（公開テスト）またはTOEFLのスコアカード（TOEFL-iBT、TOEFL-ITPを含む）、実用英語技能検定合格証書の原本とコピー

c．最新の学業成績表のコピー（１年次春学期以外）

※TOEIC L&R IP（学内受験）を受験された場合は、申請は不要です。

⑤有効期限

TOEIC L&R（公開テスト）・TOEFLのスコアの有効期限は、取得後２年以内とします（入学前に取得したTOEIC L&R（公開テスト）のスコアは単位認定の対象外）。

◇英語以外の外国語検定試験合格者の単位認定制度（編・転入学生および各言語を母語とする外国人留学生を除く）◇

この制度は、下記表の検定試験において一定の基準を満たしている場合、その学修に対して、単位を認定する制度です。

①認定基準及び単位数

検定試験の種類	2単位	4単位	6単位	8単位
ドイツ語技能検定試験	4級	3級	2級	準1級 1級
実用フランス語技能検定試験	4級	3級	準2級	2級 準1級 1級
中国語検定試験	4級	3級	2級	準1級 1級
ロシア語能力検定試験	4級	3級	2級	1級
スペイン語技能検定試験	5級	4級	3級	2級 1級
インドネシア語技能検定試験	E級	D級	C級	B級 A級
実用イタリア語検定試験	5級	4級	3級	準2級 2級 1級
ハングル能力検定試験	4級	3級	準2級	2級 1級

②認定科目の取扱

a．共通教育科目の「○○語認定科目」（選択科目）として認定します。
（○○の中には、各言語の名前が入ります。）

b．認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。

c．認定単位は、最低修得単位数124単位のうち、8単位を限度に卒業要件単位として算入します。
（履修登録上限単位数には、含まれません。）

d．異なる言語の検定試験に合格した場合も認定単位の上限は8単位とします。
異なる言語で資格を取得しても同一基準での資格・スコアの重複認定はできませんが、上位基準の資格やスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定することができます。

例）　1年次　ドイツ語技能検定試験　4級　2単位申請・認定
　　3年次　中国語検定試験　3級　4単位該当
　　差し引き2単位追加認定

e．一旦認定した単位の取消しはできません。

f．外国語学部の学生は、専攻語の検定試験に関しては認定申請できません。

※専門教育科目での認定申請については、「外国語検定試験合格等の単位認定制度」参照のこと

③申請期間

申請手続および申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、申請した科目の単位認定は、各学期末とします。

④提出書類

a．検定試験合格者等に対する単位認定申請書

b．各検定試験合格証書の原本とコピー

c．最新の学業成績表のコピー（1年次春学期以外）

⑤有効期限

入学前に取得した資格も認定することができますが、有効期限が設定されている検定試験は、届け出日以前に失効している場合は対象外とします。

※「中国語検定試験」において定められている「能力保証期間」は「有効期限」とは異なります。

3. 体育教育科目

体育教育科目は、「講義科目」「実習科目」「演習科目」に区分しています。

⑴「健康科学実習」

登録はコンピュータ抽選により教職希望者を優先して決定します。

医師の指導等により運動が制限されている学生と、そのサポートを中心としたボランティア学習を希望する学生を対象としたクラス（Hクラス）を設けています。Hクラスの履修希望者は、所属事務室に申し出て登録の手続をしてください。

⑵「スポーツ科学実習Ａ」「スポーツ科学実習Ｂ」

科目名に競技名を表す副題がついています。

副題が異なっていても「スポーツ科学実習Ａ」「スポーツ科学実習Ｂ」は、それぞれ１科目しか履修できません。

⑶「健康科学演習Ａ」「健康科学演習Ｂ」

科目名に副題がついています。

副題が異なっていても「健康科学演習Ａ」「健康科学演習Ｂ」は、それぞれ１科目しか履修できません。

⑷「スポーツ科学演習Ａ」「スポーツ科学演習Ｂ」

科目名に副題がついています。

副題が異なっていても「スポーツ科学演習Ａ」「スポーツ科学演習Ｂ」は、それぞれ１科目しか履修できません。

⑸ スポーツ指導者育成科目

（公財）日本スポーツ協会では、公認スポーツ指導者制度に基づきスポーツ指導者を認定しています。この公認スポーツ指導者の資格を取得した者は、将来地域のスポーツクラブの指導者として、また特定競技の基礎的・専門的指導者として活動できることとなります。

これらの資格を取得するためには、日本スポーツ協会で定めた「共通科目」と「専門科目」を修了する必要がありますが、「共通科目」のうち「共通科目Ⅰ」「共通科目Ⅱ」「共通科目Ⅲ」にあたる科目については、次表の本学開設科目を単位取得し、卒業年度時に大学を通じ（公財）日本スポーツ協会に所定の手続をすることにより、公認スポーツ指導者養成講習会受講時に講習・試験の免除を受けることができます。

※本学での履修方法や申請の詳細については、説明会またはPOSTで案内します。

＜本学開設科目を単位取得することにより講習・試験の免除が受けられる公認スポーツ指導者の資格＞

・「コーチングアシスタント」：次表の10科目すべてを卒業までに単位取得し、日本スポーツ協会へ申請（卒業年度に申請）の上、日本スポーツ協会のオンラインテストに合格すれば資格が得られます。

・「コーチ１」「コーチ２」「コーチ３」「ジュニアスポーツ指導員」「アシスタントマネジャー」「クラブマネジャー」「スポーツプログラマー」「教師」「スポーツ栄養士」「アスレティックトレーナー」：次表の10科目すべてを卒業までに単位取得し、日本スポーツ協会へ申請（卒業年度に申請）の上、日本スポーツ協会のオンラインテストに合格すれば、該当指導者の「共通科目」の講習と試験免除が受けられます。

※「スポーツ栄養士」の資格を取得するためには、管理栄養士免許が必要です。

※各資格の有効期間は４年間で、４年ごとに更新手続が必要です。

※各自で日本スポーツ協会が発行するリファレンスブックの購入が必要になります。

※各資格の詳細は「日本スポーツ協会ホームページ」で確認してください。

スポーツ指導者育成科目

本学の開設科目（体育教育科目）
スポーツの心理
スポーツ指導論
スポーツ医学Ⅰ
スポーツマネジメント
スポーツ栄養学※
スポーツのスキル
現代社会とスポーツ※
ウェイトトレーニングの理論と実際
スポーツ医学Ⅱ
トレーニング論※

※現代社会学部健康スポーツ社会学科の専門教育科目

4. キャリア形成支援教育科目

京都産業大学のキャリア形成支援プログラムでは、「大学での学び」と「社会での実践」を段階的に積み重ねていくことで、学生の個性や自主性を養い、自ら考え行動する「社会で活躍できる人材」を育成しています。

※科目の概要・詳細等については本学webページに掲載していますので、参照してください。
URL：https://www.kyoto-su.ac.jp/features/career/index.html

【キャリア形成支援教育科目一覧】

科目群	科目系	1年次	2年次	3年次	4年次
導入・接続教育		自己発見と大学生活			
		ファシリテーション入門			
		キャリア・Re-デザイン			
産学協働教育	キャリアデザイン系		自己発見とキャリアデザイン		
				働き方の未来	
	PBL系	O/OCF-PBL1			
			O/OCF-PBL2		
			企業人と学生のハイブリッド		
	インターンシップ系	スタートアップ・インターンシップ			
			プレップ・インターンシップ		
			アスリートインターンシップ		
			インターンシップ1（大学コンソーシアム京都主催科目）		
			インターンシップ2（大学コンソーシアム京都主催科目）		
			インターンシップ3（国内）		
			インターンシップ4（海外）		
			インターンシップ5（自己開拓）		

※表内の科目は2021年度開講科目です。

●導入・接続教育科目群

主に1年次生を対象とした大学生活に適応するための力を養う科目です。皆さんがこれから体験する、「高校から大学への移行」・「共通教育と専門教育の連動」・「大学から社会への移行」といった局面において、柔軟に適応する力を身につける科目を開講しています。

例：「自己発見と大学生活」
大学という新たな環境の中で自己の特性とキャンパス環境の両方を活かし、「4年間の大学生活」を自らイメージし、実行する力を身につけます。言い換えると、「アウェイ（新たな環境）をホーム（安心して自分から周囲に働きかける場・自己表現し合える場）に変える力」を養います。授業は主に、受講生同士のグループワークを中心に展開します。（1年次の春学期しか履修することができません。）

※人間科学教育科目内にも、導入・接続教育科目群を設けています。（詳細はb-22ページ参照）

●産学協働教育科目群

①キャリアデザイン系科目

卒業後の進路と自分自身の大学生活とを結びつけ、充実感の高い大学生活を送る力を身につけることができます。ゲスト講師の講義や社会人との対話やディスカッションを通じて、自分のキャリアプランについて考えることができます。

例：「自己発見とキャリアデザイン」
「社会における自らの個性の活かし方」「社会課題と大学の学びの関わり」「産業界と専門科目のつながり」を理解し、卒業後のキャリアプランの明確化を促進します。その上で、主体的な大学生活の推進と自らのキャリア観を形成する力を高めます。

②PBL系科目

大学（On Campus）での学びと実社会（Off Campus）での学びとを融合させた、課題解決型学習（PBL：Project BasedLearning）科目です。企業や行政機関から与えられる課題の解決活動を通じて、社会に出た時に必要となる心構えや能力を身につけることができます。

例：「O/OCF-PBL2」
企業・行政機関等から提供された課題にチームで6ヶ月間挑戦し、最終成果報告会で解決策を提案。「社会人基礎力」「自他肯定感」「自在に人と関わる力」「問題解決力」を身につけます。

③インターンシップ系科目

実際に企業等で就業体験等を行う科目です。社員の方と接したり、実際の仕事を体験することで、仕事のやりがい、業種や職種による業務内容の違い、会社の風土を体感することができます。キャリア選択の視野を拡げることに加え、大学の学びが実社会でどのように活きるのかを体感し、実習後に学習意欲が向上することも狙いとしています。

例：「インターンシップ3」
国内企業・団体等で、夏期休暇中に2週間程度のインターンシップを行います。事前学習では目標設定、企業・業界研究、ビジネスマナー講義等、事後学習では「就業体験」を振り返り、成果報告を行うことで、学習意欲や就業意識の向上につながっています。

※各科目には、様々な履修条件があります。卒業まで計画的に履修するようにしてください。
※各科目を履修する場合は、履修要項別冊ガイドおよびシラバスを必ず参照し、詳細を確認してください。

専門教育科目

１．授業科目の概要について

【専攻○○語】

専攻語の基礎を学び、総合的なコミュニケーション能力を段階的に身につけていくための科目です。１年次春学期にⅠ、同秋学期にⅡ、２年次春学期にⅢ、同秋学期にⅣと段階を追って内容が発展していきます。「会話」では専攻語の積極的なコミュニケーション能力を養成します。「総合」では専攻語の運用能力を総合的に向上させます。「構造」では文法をベースに専攻語の言語体系を学びます。

【○○学入門】

ことばの背景にある各言語圏の文化や社会事情など、専攻語を４年間学んでいくために必要な入門的・基礎的知識を学びます。

【基礎演習】

大学で、そして外国語学部で学んでいくための基礎的な力を養成する授業です。具体的には、講義の聴き方、文献の読み方、情報収集の方法、レポートの書き方、効果的なプレゼンテーションの方法などを実践的に身につけていきます。

【学部基幹科目】

言語と文化の多様性や言語の仕組みの基礎を学ぶことで、異文化コミュニケーションのためのスキルや態度の基盤を形成する科目群や、第４次産業革命の時代を生きるために必要な基礎的知識・スキルを外国語学部生が学ぶ科目群です。

【ヨーロッパ言語基幹科目】

言語・文学・文化・歴史・社会・政治・経済等の観点からヨーロッパ言語圏の知識を広く学びます。

【○○語海外実習】

専攻語をその言語圏で実際に使用することにより、異文化受容力を身につけると同時に、１年間の初修言語への取り組みの成果を認識し、意欲をもって２年次以降の学修へつなぐことを目的とした科目です。教室での周到な事前事後指導（１単位相当）と海外現地実習（２単位）を組み合わせて実施します。

【○○語情報リテラシー】、【情報リテラシー】

インターネットで情報を検索したり、コンピュータを活用したプレゼンテーションを行なうなど、専攻語を用いた情報処理能力を身につけます。

メディア・コミュニケーション専攻では、専門領域の学修に必要な情報リテラシーの基礎を身につけます。

【専攻基幹科目】

専攻言語圏の学問領域に関する中心的な授業科目群で、各言語圏が持つ言語・文学・文化・歴史・社会・政治・経済等についての知識を学びます。

メディア・コミュニケーション専攻では、メディア・コミュニケーション学に関する専門領域の知識を学びます。

【検定○○語】

専攻言語ごとに初級・中級・上級レベルの検定試験合格を目指します。

【○○専門セミナー】

専攻語のコミュニケーション能力をさらに発展させるために、卒業後の進路をも見据えた専門的テーマを設定し、４技能を融合させたコンテントベースの総合的な言語科目です。

メディア･コミュニケーション専攻では、専門領域に関して個別のテーマ設定の下、講義＆演習形式の授業を行ないます。

【メディア・コミュニケーション・インターンシップ】

メディア・コミュニケーション専攻では、メディア・コミュニケーションに関わる企業等でのインターンシップ科目が３年次以降に用意されています。

【ヨーロッパ言語研究演習】

４年間にわたる学びの集大成として、これまで学んできた広範な専門的知識や語学力、多様なコミュニケーション技能を活用し、個々の専門的関心を掘り下げまとめあげます。３年次春学期にⅠ、同秋学期にⅡ、４年次春学期にⅢ、同秋学期にⅣと段階を追って学びを深めていきます。

【英語で学ぶ○○の社会】【英語で学ぶ○○の文化】、【英語で学ぶ情報社会】【英語で学ぶメディア文化】

ヨーロッパ言語学科では、英語の運用能力の向上にも力を注いでおり、英語学習を副専攻と位置づけています。専攻語圏の社会や文化を英語で学ぶことで、専攻語と英語と日本語を統合する形で、異文化コミュニケーションのスキルや態度を発展させる科目です。

メディア・コミュニケーション専攻では、メディア・コミュニケーション学に関する事柄を英語で学びます。

【特別英語】

目標の達成や弱点の克服など、自分のニーズに合わせて履修する授業科目です。読む・聞く・話す・書く、といった英語スキル育成に特化した科目や世界の文化など内容に重点をおく科目があります。多くのクラスには英語習熟度に応じたレベル設定があり、段階的に学びを深めることができます。

【関連科目】

各自が専攻する専門領域だけでなく、広く専門的教養を身につけるために、他学科・他専攻の専門教育科目を学びたい場合、関連科目として履修できます。関連科目には、教科教育法など教職課程の科目も含まれています。

2．学部基幹科目について

【学部基幹科目】

「学部基幹科目」（1年次配当）のなかから、4単位以上を修得しなければなりません。

3．専攻科目について

⑴ 必修科目について

次の科目を必修とします。不合格となった場合は、その不合格科目が開講される学期で優先的に再履修してください。

〔ドイツ語専攻、フランス語専攻、スペイン語専攻、イタリア語専攻、ロシア語専攻〕

下記○○には、それぞれの専攻語名が入ります。「専攻○○語」と「基礎演習」は、あらかじめクラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかはWeb履修登録画面で確認してください。

	1年次配当		2年次配当	
開講期	科目名	単位	科目名	単位
春	専攻○○語（会話）Ⅰ	2	専攻○○語（会話）Ⅲ	2
	専攻○○語（総合）Ⅰ	1	専攻○○語（総合）Ⅲ	1
	専攻○○語（構造）Ⅰ	2	専攻○○語（構造）Ⅲ	2
	○○学入門Ⅰ	2	○○語情報リテラシーⅠ	1
	基礎演習	2		
秋	専攻○○語（会話）Ⅱ	2	専攻○○語（会話）Ⅳ	2
	専攻○○語（総合）Ⅱ	1	専攻○○語（総合）Ⅳ	1
	専攻○○語（構造）Ⅱ	2	専攻○○語（構造）Ⅳ	2
	○○学入門Ⅱ	2	○○語情報リテラシーⅡ	1

〔メディア・コミュニケーション専攻〕

下記○○には、ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語の5言語から専攻語として選択した1言語が入ります。すべて同じ言語で修得しなければなりません。また、「専攻○○語」と「基礎演習」は、あらかじめクラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかはWeb履修登録画面で確認してください。

	1年次配当		2年次配当	
開講期	科目名	単位	科目名	単位
春	専攻○○語（会話）Ⅰ	2	専攻○○語（会話）Ⅲ	2
	専攻○○語（総合）Ⅰ	1	専攻○○語（総合）Ⅲ	1
	専攻○○語（構造）Ⅰ	2	専攻○○語（構造）Ⅲ	2
	メディア・コミュニケーション学入門Ⅰ	2		
	基礎演習	2		
	情報リテラシーⅠ	1		
秋	専攻○○語（会話）Ⅱ	2	専攻○○語（会話）Ⅳ	2
	専攻○○語（総合）Ⅱ	1	専攻○○語（総合）Ⅳ	1
	専攻○○語（構造）Ⅱ	2	専攻○○語（構造）Ⅳ	2
	メディア・コミュニケーション学入門Ⅱ	2		
	情報リテラシーⅡ	1		

⑵ 選択必修科目

【ヨーロッパ言語基幹科目】

「ヨーロッパ言語基幹科目」のなかから、４単位以上を修得しなければなりません。

【専攻基幹科目】

所属する専攻の「専攻基幹科目」のなかから、12単位以上を修得しなければなりません。

【専門セミナー】〔ドイツ語専攻、フランス語専攻、スペイン語専攻、イタリア語専攻、ロシア語専攻〕

所属する専攻の「○○語専門セミナー」（３年次配当）のなかから、８単位以上を修得しなければなりません。

【インターンシップ、専門セミナー】〔メディア・コミュニケーション専攻〕

「メディア・コミュニケーション・インターンシップ」（３年次配当）、「メディア・コミュニケーション専門セミナー」（３年次配当）のなかから、８単位以上を修得しなければなりません。

【ヨーロッパ言語研究演習】

以下の「ヨーロッパ言語研究演習」は、４単位以上を修得しなければなりません。

科目名	単位	配当年次	開講期	備考
ヨーロッパ言語研究演習Ⅰ	2	3	春	研究演習は、あらかじめ希望するクラスの応募を行い、選考により決定します。募集案内については２年次の秋学期に電子掲示板POSTにて発表します。 原則同一教員で、研究演習Ⅳまでの履修を推奨します（研究演習Ⅰを修得後は、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと自動登録されます）。
ヨーロッパ言語研究演習Ⅱ	2	3	秋	
ヨーロッパ言語研究演習Ⅲ	2	4	春	
ヨーロッパ言語研究演習Ⅳ	2	4	秋	

履修にあたり、次の条件が設定されています。

・研究演習の選択必修４単位修得にあたっては、所属学科の研究演習を履修しなければなりません。
・研究演習はⅠからⅣへと段階を追って学ぶため、Ⅰが修得できなかった場合、それに続く秋学期のⅡを履修することはできません（在学留学を除く）。同じく、Ⅱが修得できなかった場合、Ⅲを履修することはできません。
・同一教員のクラスを連続で履修していきますが、在学留学・休学等の理由で、連続履修ができない場合は、事前に外国語学部事務室で相談してください。
・所属学科の研究演習ⅠとⅢを同時に履修登録することはできません。
・所属学科以外の研究演習Ⅰ～Ⅳは選択科目として履修することができます。ただし、各セメスターに履修できる研究演習は最大２つまでです。

⑶ 選択科目

【海外実習】

各言語における海外実習は、１年次末の春休みに海外の大学で、約３週間の語学研修を受ける科目です。外国語学部１年次生が履修する場合、原則、専攻語を優先とします。

履修にあたっては、春学期に開催する説明会に必ず出席し、履修方法等を確認してください。

【検定○○語】

専攻言語ごとに初級・中級・上級レベルの検定試験対策科目「検定○○語１・２」（１年次配当）、「検定○○語３・４」（２年次配当）を開講しています。

4．英語科目について

⑴ 必修科目

【英語で学ぶ○○の社会】【英語で学ぶ○○の文化】

〔ドイツ語専攻、フランス語専攻、スペイン語専攻、イタリア語専攻、ロシア語専攻〕

所属する専攻語圏の社会や文化を英語で学ぶ「英語で学ぶ○○の社会」「英語で学ぶ○○の文化」（各２単位）を修得しなければなりません。不合格となった場合は、その不合格科目が開講される学期で優先的に再履修してください。

例）ドイツ語専攻生の場合
「英語で学ぶドイツの社会」（２単位）　＋　「英語で学ぶドイツの文化」（２単位）　＝　４単位修得

【英語で学ぶ情報社会】【英語で学ぶメディア文化】

〔メディア・コミュニケーション専攻〕

「英語で学ぶ情報社会」「英語で学ぶメディア文化」（各２単位）を修得しなければなりません。不合格となった場合は、その不合格科目が開講される学期で優先的に再履修してください。

⑵ 選択必修科目

【特別英語】

「特別英語」のなかから、４単位以上を修得しなければなりません。

「特別英語」には、１単位科目と２単位科目があります。単位修得にあたっては、１単位科目を２科目以上修得しなければなりません。

また、科目により履修条件（クラス定員やレベル）が指定されています。詳しくは、履修説明会、履修要項別冊ガイド、シラバス等で確認してください。

※各レベルの目安

超上級	IELTS 5.5～	TOEFL iBT 54～	TOEFL ITP 521～	TOEIC L&R 600～
超中級	IELTS 4.5～5.5	TOEFL iBT 39～54	TOEFL ITP 470～520	TOEIC L&R 500～600
準中級	IELTS ～4.0	TOEFL iBT ～39	TOEFL ITP ～470	TOEIC L&R ～500

なお、下記の科目は、英語教員免許取得のために必要な科目として指定しています。英語教員免許取得希望者が履修した場合には、特別英語の選択必修４単位には算入できません。

科目名	単位	配当年次	備考
特別英語（英語プレゼンテーションⅠ）	1	1	教職課程の「教科に関する科目」として修得した場合も、卒業要件単位に算入することができます。
特別英語（英語プレゼンテーションⅡ）		1	
特別英語（多読多聴Ⅰ）	2	1	
特別英語（多読多聴Ⅱ）		1	

5．関連科目について

関連科目は、選択科目です。関連科目には、「教科教育法科目」を開講しています。また、他学科・専攻の「専門教育科目」を履修し修得した場合は、関連科目に区分されます。ただし、他学科・専攻の必修科目を履修することはできません。

カリキュラムの概要

当該年度における各授業科目の休講等は、履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。

　　の科目は、英語による授業科目です。

区分＼年次			1年次	2年次
学部基幹科目	選択必修		ことば学入門(2) ことばと認知(2) ことばの普遍性(2) World Englishes(2) 日本と世界の手話(2) エスペラント語入門(2) 日本の社会と言語の多様性(2) ニュースの読み解き方(2) 国際関係入門(2) コンピュータと言語(2) 文系学生のためのデジタル・リサーチ入門(2)	
専攻科目	必修		専攻○○語（会話）Ⅰ(2)　専攻○○語（会話）Ⅱ(2) 専攻○○語（総合）Ⅰ(1)　専攻○○語（総合）Ⅱ(1) 専攻○○語（構造）Ⅰ(2)　専攻○○語（構造）Ⅱ(2)	専攻○○語（会話）Ⅲ(2)　専攻○○語（会話）Ⅳ(2) 専攻○○語（総合）Ⅲ(1)　専攻○○語（総合）Ⅳ(1) 専攻○○語（構造）Ⅲ(2)　専攻○○語（構造）Ⅳ(2)
			○○学入門Ⅰ(2)　○○学入門Ⅱ(2)	
			〔メディア・コミュニケーション専攻〕 情報リテラシーⅠ(1)　情報リテラシーⅡ(1)	〔ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語専攻〕 ○○語情報リテラシーⅠ(1)　○○語情報リテラシーⅡ(1)
			基礎演習(2)	
	選択必修	ヨーロッパ言語基幹科目	ヨーロッパの言語(2)　ヨーロッパの文学(2)　ヨーロッパの文化(2)　ヨーロッパの政治と経済(2)　ヨーロッパの歴史（近・現代史）(2)	
				ラテン語と言語文化Ⅰ(2)　ラテン語と言語文化Ⅱ(2)　ギリシア語と言語文化Ⅰ(2)
		ドイツ語専攻 専攻基幹科目		ドイツ語学概論Ⅰ(2)　ドイツ語学概論Ⅱ(2)　ドイツ語学A（音声学・音韻論）Ⅰ(2) ドイツ語学C（ドイツ語史）Ⅱ(2)　ドイツ文学概論（文学史）Ⅰ(2) ドイツ文化概論（歴史）Ⅰ(2)　ドイツ文化概論（歴史）Ⅱ(2)
		ドイツ語専攻 専門セミナー		
		フランス語専攻 専攻基幹科目		フランス語学概論Ⅰ(2)　フランス語学概論Ⅱ(2) フランス文学概論Ⅰ(2)　フランス文学概論Ⅱ(2) フランス文化論AⅡ(2)　フランス文化論BⅠ(2)
		フランス語専攻 専門セミナー		
		スペイン語専攻 専攻基幹科目		スペイン語学概論Ⅰ(2)　スペイン語学概論Ⅱ(2)　スペイン語学A(2) スペイン文化論B(2)
		スペイン語専攻 専門セミナー		
		イタリア語専攻 専攻基幹科目		イタリア語学概論Ⅰ(2)　イタリア語学概論Ⅱ(2)　イタリア語学A(2) イタリア文化論B(2)
		イタリア語専攻 専門セミナー		
		ロシア語専攻 専攻基幹科目		ロシア語学概論Ⅰ(2)　ロシア語学概論Ⅱ(2)　ロシア語学A(2)　ロシア語学B(2)
		ロシア語専攻 専門セミナー		
		メディア・コミュニケーション専攻 専攻基幹科目		メディアと社会Ⅰ(2)　メディアと社会Ⅱ(2)　国際ジャーナリズム論Ⅰ(2) Webサイト制作Ⅱ(2)　Journalistic Writing - BasicsⅠ(2)
		メディア・コミュニケーション専攻 インターンシップ専門セミナー		
		研究演習		
	選択		ドイツ語海外実習(3)　フランス語海外実習(3)　スペイン語海外実習(3)　イタリア語海外実習(3) 検定ドイツ語1(1)　検定ドイツ語2(1)　検定フランス語1(1)　検定フランス語2(1)　検定スペイン語1(1)　検定スペイン語2(1)　検定イタリア語1(1)	
				ロシア語海外実習(3) 検定ドイツ語3(1)　検定ドイツ語4(1)　検定フランス語3(1)　検定フランス語4(1)
英語科目	必修			英語で学ぶ○○社会(2)　英語で学ぶ○○文化(2)
	選択必修	特別英語	特別英語（多読）(1) 特別英語（発音クリニックⅠ）(1) 特別英語（英語プレゼンテーションⅡ）(1) 特別英語（メール・ライティングⅠ）(1) 特別英語（異文化探検）(1) 特別英語（地域スタディーズ・ヨーロッパ）(1) 特別英語（多読多聴Ⅰ）(2) 特別英語（留学英語IELTS Ⅱ）(1) 特別英語（アクティブ・リスニング入門 音楽）(1) 特別英語（発音クリニックⅡ）(1) 特別英語（ディスカッション英語Ⅰ）(1) 特別英語（メール・ライティングⅡ）(1) 特別英語（英国スタディーズ ）(1) 特別英語（地域スタディーズ・アジア）(1) 特別英語（多読多聴Ⅱ）(2) 特別英語（英語基礎ルール）(1) 特別英語（アクティブ・リスニング入門）(1) 特別英語（アクティブ・スピーキング入門）(1) 特別英語（ディスカッション英語Ⅱ）(1) 特別英語（英語エッセイチャレンジⅠ）(1) 特別英語（オーストラリア スタディーズ ）(1) 特別英語（Movie Culture and Society Ⅰ）(1) 特別英語（教室英語Ⅰ）(1) 特別英語（英語基礎訓練）(1)	
教職	選択			英語科教育法1(2)　英語科教育法2(2)　英語科教育法3(2)　英語科教育法4(2) フランス語科教育法2(2)　フランス語科教育法3(2)　フランス語科教育法4(2)

（　）内は単位数

	3　年　次	4　年　次	卒業要件単位数		
			4単位以上	80単位以上	共通教育科目21単位・融合教育科目・専門教育科目80単位を含め124単位以上
			20単位		
			4単位		
			2単位		
			2単位		
			4単位以上		
	ギリシア語と言語文化Ⅱ(2)　ポーランド語と言語文化Ⅰ(2)　ポーランド語と言語文化Ⅱ(2)　異文化コミュニケーションⅠ(2)　異文化コミュニケーションⅡ(2)				
	ドイツ語学A（音声学・音韻論）Ⅱ(2)　ドイツ語学B（意味論・文法論）Ⅰ(2)　ドイツ語学B（意味論・文法論）Ⅱ(2)　ドイツ語学C（ドイツ語史）Ⅰ(2) ドイツ文学概論（文学史）Ⅱ(2)　ドイツ文学A（近現代）Ⅰ(2)　ドイツ文学A（近現代）Ⅱ(2)　ドイツ文学B（古典）Ⅰ(2)　ドイツ文学B（古典）Ⅱ(2) ドイツ文化論A（ドイツ事情）Ⅰ(2)　ドイツ文化論A（ドイツ事情）Ⅱ(2)　ドイツ文化論B（哲学・思想）Ⅰ(2)　ドイツ文化論B（哲学・思想）Ⅱ(2)		12単位以上		
	ドイツ語専門セミナー（文体論）Ⅰ(2)　ドイツ語専門セミナー（文体論）Ⅱ(2)　ドイツ語専門セミナー（ドイツ語圏地域研究）Ⅰ(2) ドイツ語専門セミナー（ドイツ語圏地域研究）Ⅱ(2)　ドイツ語専門セミナー（翻訳通訳論）Ⅰ(2)　ドイツ語専門セミナー（翻訳通訳論）Ⅱ(2) ドイツ語専門セミナー（時事ドイツ語）Ⅰ(2)　ドイツ語専門セミナー（時事ドイツ語）Ⅱ(2)　ドイツ語専門セミナー（ドイツ語圏のビジネスワールド）Ⅰ(2) ドイツ語専門セミナー（ドイツ語圏のビジネスワールド）Ⅱ(2)　ドイツ語専門セミナー（ドイツ語圏の歴史と文化）Ⅰ(2)　ドイツ語専門セミナー（ドイツ語圏の歴史と文化）Ⅱ(2)		8単位以上		
	フランス語学A（音声学・音韻論）Ⅰ(2)　フランス語学A（音声学・音韻論）Ⅱ(2)　フランス語学B（統語・意味論）Ⅰ(2)　フランス語学B（統語・意味論）Ⅱ(2) フランス文学AⅠ(2)　フランス文学AⅡ(2)　フランス文学BⅠ(2)　フランス文学BⅡ(2)　フランス文化概論Ⅰ(2)　フランス文化概論Ⅱ(2)　フランス文化論AⅠ(2) フランス文化論BⅡ(2)　フランス文化論CⅠ(2)　フランス文化論CⅡ(2)		12単位以上		
	フランス語専門セミナー（翻訳）Ⅰ(2)　フランス語専門セミナー（翻訳）Ⅱ(2)　フランス語専門セミナー（現代文化）Ⅰ(2) フランス語専門セミナー（現代文化）Ⅱ(2)　フランス語専門セミナー（ジャーナリズム）Ⅰ(2)　フランス語専門セミナー（ジャーナリズム）Ⅱ(2) フランス語専門セミナー（ビジネス）Ⅰ(2)　フランス語専門セミナー（ビジネス）Ⅱ(2)　フランス語専門セミナー（伝統と産業）Ⅰ(2) フランス語専門セミナー（伝統と産業）Ⅱ(2)　フランス語専門セミナー（現代フランスの諸問題）Ⅰ(2)　フランス語専門セミナー（現代フランスの諸問題）Ⅱ(2)		8単位以上		
	スペイン語学B(2)　スペイン文学・文化概論Ⅰ(2)　スペイン文学・文化概論Ⅱ(2)　スペイン文学A(2)　スペイン文学B(2)　スペイン文化論A(2)		12単位以上		
	スペイン語専門セミナー（時事スペイン語）Ⅰ(2)　スペイン語専門セミナー（時事スペイン語）Ⅱ(2)　スペイン語専門セミナー（スペイン語翻訳）Ⅰ(2) スペイン語専門セミナー（スペイン語翻訳）Ⅱ(2)　スペイン語専門セミナー（映像文化）Ⅰ(2)　スペイン語専門セミナー（映像文化）Ⅱ(2) スペイン語専門セミナー（ビジネス表現）Ⅰ(2)　スペイン語専門セミナー（ビジネス表現）Ⅱ(2)　スペイン語専門セミナー（観光文化）Ⅰ(2) スペイン語専門セミナー（観光文化）Ⅱ(2)		8単位以上		
	イタリア語学B(2)　イタリア文学・文化概論Ⅰ(2)　イタリア文学・文化概論Ⅱ(2)　イタリア文学A(2)　イタリア文学B(2)　イタリア文化論A(2)		12単位以上		
	イタリア語専門セミナー（時事問題）Ⅰ(2)　イタリア語専門セミナー（時事問題）Ⅱ(2)　イタリア語専門セミナー（旅行観光）Ⅰ(2) イタリア語専門セミナー（旅行観光）Ⅱ(2)　イタリア語専門セミナー（食文化）Ⅰ(2)　イタリア語専門セミナー（食文化）Ⅱ(2) イタリア語専門セミナー（ポップカルチャー）Ⅰ(2)　イタリア語専門セミナー（ポップカルチャー）Ⅱ(2)　イタリア語専門セミナー（ビジネス）Ⅰ(2) イタリア語専門セミナー（ビジネス）Ⅱ(2)		8単位以上		
	ロシア文学・文化概論Ⅰ(2)　ロシア文学・文化概論Ⅱ(2)　ロシア文学A(2)　ロシア文学B(2)　ロシア文化論A(2)　ロシア文化論B(2)		12単位以上		
	ロシア語専門セミナー（文学作品）Ⅰ(2)　ロシア語専門セミナー（文学作品）Ⅱ(2)　ロシア語専門セミナー（文章論）Ⅰ(2) ロシア語専門セミナー（文章論）Ⅱ(2)　ロシア語専門セミナー（芸術と文化）Ⅰ(2)　ロシア語専門セミナー（芸術と文化）Ⅱ(2) ロシア語専門セミナー（観光論）Ⅰ(2)　ロシア語専門セミナー（観光論）Ⅱ(2)　ロシア語専門セミナー（ビジネス表現）Ⅰ(2) ロシア語専門セミナー（ビジネス表現）Ⅱ(2)		8単位以上		
	国際ジャーナリズム論Ⅱ(2)　メディア・コミュニケーションの構造Ⅰ(2)　メディア・コミュニケーションの構造Ⅱ(2)　Webサイト制作Ⅰ(2) Journalistic Writing - BasicsⅡ(2)		12単位以上		
	メディア・コミュニケーション・インターンシップ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー（時事問題研究）Ⅰ(2)　メディア・コミュニケーション専門セミナー（時事問題研究）Ⅱ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー（映像制作）Ⅰ(2)　メディア・コミュニケーション専門セミナー（映像制作）Ⅱ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー（映像編集）Ⅰ(2)　メディア・コミュニケーション専門セミナー（映像編集）Ⅱ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー（OnAir-ラジオ番組制作）Ⅰ(2)　メディア・コミュニケーション専門セミナー（OnAir-ラジオ番組制作）Ⅱ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー（オーディオラボ）Ⅰ(2)　メディア・コミュニケーション専門セミナー（オーディオラボ）Ⅱ(2)		8単位以上		
	ヨーロッパ言語研究演習Ⅰ(2)　ヨーロッパ言語研究演習Ⅱ(2)	ヨーロッパ言語研究演習Ⅲ(2)　ヨーロッパ言語研究演習Ⅳ(2)	4単位以上		
	検定イタリア語2(1)　検定ロシア語1(1)　検定ロシア語2(1)				
	検定スペイン語3(1)　検定スペイン語4(1)　検定イタリア語3(1)　検定イタリア語4(1)　検定ロシア語3(1)　検定ロシア語4(1)				
			4単位		
	特別英語（アクティブ・リスニング）(1)　特別英語（ニュース英語Ⅰ）(1)　特別英語（ニュース英語Ⅱ）(1) 特別英語（ロールプレイ）(1)　特別英語（アクティブ・スピーキング）(1)　特別英語（英語プレゼンテーションⅠ）(1) 特別英語（ディベート英語Ⅰ）(1)　特別英語（ディベート英語Ⅱ）(1)　特別英語（ＳＮＳ英語）(1) 特別英語（英語エッセイチャレンジⅡ）(1)　特別英語（アカデミックライティングⅠ）(2)　特別英語（アカデミックライティングⅡ）(2) 特別英語（ニュージーランド スタディーズ ）(1)　特別英語（米国 スタディーズ ）(1)　特別英語（カナダ スタディーズ ）(1) 特別英語（Movie Culture and Society Ⅱ）(1)　特別英語（長期留学前準備）(2)　特別英語（長期留学後総括）(2) 特別英語（教室英語Ⅱ）(1)　特別英語（IELTS入門と留学準備）(1)　特別英語（留学英語IELTS Ⅰ）(1)		4単位以上		
	ドイツ語科教育法1(2)　ドイツ語科教育法2(2)　ドイツ語科教育法3(2)　ドイツ語科教育法4(2)　フランス語科教育法1(2)				

履　修　方　法

アジア言語学科

中　国　語　専　攻
韓　国　語　専　攻
インドネシア語専攻
日本語・コミュニケーション専攻

履修規定

1．卒業に必要な最低修得単位数

卒業するためには、4年以上在学し、次の科目区分に従って、124単位以上修得しなければなりません。

中国語専攻、韓国語専攻、インドネシア語専攻

<table>
<tr><th colspan="4">科　目　区　分</th><th colspan="3">最低修得単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共通教育科目</td><td rowspan="3">人間科学教育科目</td><td>選択必修</td><td>社会科学（注1）</td><td>4単位以上</td><td rowspan="8">21単位
以上</td><td rowspan="19">124単位</td></tr>
<tr><td></td><td>自然科学（注1）</td><td>4単位以上</td></tr>
<tr><td>選択</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">言語教育科目</td><td>必修</td><td>英語教育科目</td><td>8単位</td></tr>
<tr><td>選択</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>体育教育科目</td><td>選択</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">キャリア形成支援教育科目</td><td>選択必修</td><td></td><td>2単位以上</td></tr>
<tr><td>選択</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">融合教育科目</td><td>選択</td><td>（注2）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="11">専門教育科目</td><td>学部基幹科目</td><td>選択必修</td><td></td><td>4単位以上</td><td rowspan="11">80単位
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="9">専攻科目</td><td rowspan="4">必修</td><td>専攻○○語（注3）</td><td>20単位</td></tr>
<tr><td>○○学入門（注3）</td><td>4単位</td></tr>
<tr><td>○○語情報リテラシー（注3）</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td>基礎演習</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="5">選択必修</td><td>アジア言語基幹科目</td><td>4単位以上</td></tr>
<tr><td>専攻基幹科目</td><td>12単位以上</td></tr>
<tr><td>○○専門セミナー（注3）</td><td>8単位以上</td></tr>
<tr><td>アジア言語研究演習</td><td>4単位以上</td></tr>
<tr><td>選択</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">英語科目</td><td>必修</td><td>英語で学ぶ○○の社会
英語で学ぶ○○の文化（注3）</td><td>4単位</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td>特別英語（注4）</td><td>4単位以上</td></tr>
<tr><td>選択</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td>選択</td><td>教科教育法科目
他学科・専攻専門教育科目</td><td></td></tr>
</table>

（注1）社会科学領域，自然科学領域それぞれから4単位以上を修得しなければならない。

（注2）融合教育科目には、外国語学部生履修可とする他学部専門教育科目を算入することができる。

（注3）○○には、所属する専攻名が入る。

（注4）1単位科目を2科目以上修得しなければならない。

日本語・コミュニケーション専攻

科目区分				最低修得単位数		
共通教育科目	人間科学教育科目	選択必修	社会科学（注1）	4単位以上	21単位以上	124単位
			自然科学（注1）	4単位以上		
		選択				
	言語教育科目	必修	英語教育科目 日本語科目（注2）	8単位		
		選択				
	体育教育科目	選択				
	キャリア形成支援教育科目	選択必修		2単位以上		
		選択				
融合教育科目		選択	（注3）			
専門教育科目	学部基幹科目	選択必修		4単位以上	80単位以上	
	専攻科目	必修	専攻○○語（注4）	20単位		
			インテンシブ日本語（注5）	12単位		
			日本語学入門 日本語教育法 日本文学入門 日本語表現法	8単位		
			日本語情報リテラシー	2単位		
			基礎演習	2単位		
		選択必修	アジア言語基幹科目	4単位以上		
			専攻基幹科目	8単位以上 12単位以上（注6）		
			日本語教育実習 日本語コミュニケーション専門セミナー	8単位以上 12単位以上（注6）		
			アジア言語研究演習	4単位以上		
		選択				
	英語科目	必修	英語で学ぶ日本の社会 英語で学ぶ日本の文化	4単位		
		選択必修	特別英語（注7）	4単位以上		
		選択				
	関連科目	選択	教科教育法科目 他学科・専攻専門教育科目			

（注1）社会科学領域、自然科学領域それぞれから4単位以上を修得しなければならない。
（注2）外国人留学生及び日本語を母語としない者は「日本語科目」を必修とする。
（注3）融合教育科目には、外国語学部生履修可とする他学部専門教育科目を算入することができる。
（注4）○○には、中国語、韓国語、インドネシア語のうち、専攻する言語名が入る。
（注5）外国人留学生および日本語を母語としない者は、「インテンシブ日本語」を必修とする。
（注6）外国人留学生および日本語を母語としない者は、12単位を最低修得単位数とする。
（注7）1単位科目を2科目以上修得しなければならない。

2．各セメスターの履修登録上限単位数

各セメスターの履修登録上限単位数は下表のとおりです。

セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
単位数	24	24	24	24	24	24	24	24

ただし、次の科目は上記の単位数には含まれません。

①卒業要件とならない自由（随意）科目

②単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目　等）

③共通教育科目

インターンシップ、O/OCF－PBL、「アスリートインターンシップ」、「スタートアップ・インターンシップ」、「プレップ・インターンシップ」、「企業人と学生のハイブリッド」、「熊本・山鹿フィールド」

④共通教育科目〈教育・教職科目群〉における教職課程登録者のみ履修可とする科目

⑤海外語学実習

⑥外国語学部専門教育科目

「Overseas Studies in English」、「○○海外実習」（○○には、ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語・中国語・韓国語・インドネシア語が入る）、「日本語教育実習」

⑦経済学部専門教育科目

「グローバル経済フィールドワークⅠ」、「グローバル経済フィールドワークⅡ」

⑧法学部専門教育科目

「司法における外国語の役割」（司法外国語プログラム履修者のみ対象）

⑨文化学部専門教育科目

「国際文化研修」

⑩生命科学部専門教育科目「英語サマーキャンプ１」

共通教育科目

京都産業大学では、教学の理念に掲げる「自らを厳しく律しつつ、創造力に富み、社会的な義務を怠ることなく、国内外を問わず活躍できる人材」の育成のために、学生が自らの専門分野を深く学ぶだけでなく、幅広い教養を身につけることのできるよう、「人間科学教育科目」「言語教育科目」「体育教育科目」「キャリア形成支援教育科目」の区分を設けて、すべての学生に開講しています。

入学年度ごとに定められている履修規定を十分に把握したうえで履修してください。

1．人間科学教育科目

人間科学教育科目は、「人文科学」「社会科学」「自然科学」「総合」の４つの領域にわかれます。

このうち、「総合」以外の３領域は、「基本科目」と「展開科目」から構成されています。自らの専門以外の学問分野を学ぶにあたって、まず基本科目でその学問分野の大まかな全体像を得て基本的な考え方をつかみ、そこで興味を感じた内容を展開科目でさらに深く学ぶことで、体系的に学習できるよう工夫しています。

⑴ 各領域の特徴

【人文科学領域】

この領域は、古今東西の人類の文化を対象とします。これには、「哲学」「心理学」「歴史学」「文学・芸術学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、文化の多様性を認識し、柔軟に思考できるようになることを目的としています。

【社会科学領域】

この領域は、意見や利害が多種多様で、価値観の異なる人々が構成する社会とそのような社会で生じる諸現象とを対象とします。これには、「経済学」「経営学」「法学・政治学」「社会学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、多種多様な人々の共存や協力を図るしくみを理解することを目的としています。

【自然科学領域】

この領域は、ミクロ（素粒子）からマクロ（宇宙）までの様々なスケールの自然現象を対象とします。これには、京都産業大学の特色といえる「天文・物理科学」「生命・環境科学」「情報科学」それに、自然科学の基盤である「数学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、自然法則や生命の営みへの見方を養うことを目的としています。

【総合領域】

この領域は、次の科目群に区分されます。

・導入・接続教育科目群※1：主に１年次生を対象とした大学生活に適応するための力を養う科目
・ＫＳＵ科目群：本学の特色ある科目と本学で学ぶための基礎となる科目
・教育・教職科目群：教員免許取得などに関わる科目
・人権科目群：人権に関わる諸問題や歴史などを学ぶ科目
・情報科目群：情報に関する科目

※1　皆さんがこれから体験する「高校から大学への移行」「共通教育と専門教育の連動」「大学から社会への移行」といった局面において、柔軟に適応する力を身につける科目を開講しています。キャリア形成支援教育科目（b-52ページ）内にも、「導入・接続教育科目群」を設けています。

⑵ 履修方法について

社会科学領域および自然科学領域の２領域からそれぞれ４単位以上修得しなければなりません。

社会科学領域 ４単位 ＋ 自然科学領域 ４単位　　合計　８単位

⇒　社会科学領域および自然科学領域の２領域から「基本科目」と、それに関連する「展開科目」を修得することを推奨します。

2. 言語教育科目

言語教育科目は、英語教育科目と英語以外の外国語教育科目から構成されています。

英語教育科目

グローバル社会の中で活躍し社会に貢献するためには、実用的な英語運用能力の獲得が必須となります。本学では、全学部１・２年次に英語授業を必修とし「読む・書く・話す・聞く」の英語学習に加えて、就職活動の入口やビジネス場面で有用とされるTOEIC対応の学習も行います。また、その達成度合いを測るために年数回TOEIC L&Rを受験します。英語が苦手な方には基礎から学ぶ授業を開講し、基礎から英語能力の向上を図ります。

外国語教育科目

外国語教育科目は、国際社会で求められる高度な語学力を身に付けて国際的視野を磨く科目で、９言語から学びたい言語を選択できます。ネイティブスピーカーの教員による会話や検定試験を念頭に置いた科目など、各種レベルの特色ある科目が用意されており、学習経験の有無にかかわらず、伸ばしたい力と学習の目的に応じて履修することができます。

(1) 履修方法について

英語必修科目８単位を修得しなければなりません。

科目区分		科目名	単位数	最低修得単位数
英語	必修	クラス指定された科目※1	各1	8

※1　入学時の英語プレイスメントテスト（TOEIC Bridge IP）のスコアに基づき、レベル（クラス）分けを行います。
そのレベルにより、セメスターごとに履修する科目が異なります。〔下表参照〕

【英語必修科目】

レベル	レベル分け基準（TOEIC L&Rスコア）	TOEIC L&R スコア目標	1年次		2年次	
			1セメ（春学期）	2セメ（秋学期）	3セメ（春学期）	4セメ（秋学期）
【上級】	520以上	600以上	上級英語（プレゼンテーション）Ⅰ	上級英語（プレゼンテーション）Ⅱ	上級英語（ディスカッション）Ⅰ	上級英語（ディスカッション）Ⅱ
			上級英語（TOEIC）Ⅰ	上級英語（TOEIC）Ⅱ	上級英語（TOEIC）Ⅲ	上級英語（TOEIC）Ⅳ
【中級】	400以上	500以上	中級英語（コミュニケーション）Ⅰ	中級英語（コミュニケーション）Ⅱ	中級英語（コミュニケーション）Ⅲ	中級英語（コミュニケーション）Ⅳ
			中級英語（TOEIC）Ⅰ	中級英語（TOEIC）Ⅱ	中級英語（TOEIC）Ⅲ	中級英語（TOEIC）Ⅳ
【初級】	310以上	400以上	初級英語（コミュニケーション）Ⅰ	初級英語（コミュニケーション）Ⅱ	初級英語（コミュニケーション）Ⅲ	初級英語（コミュニケーション）Ⅳ
			初級英語（TOEIC）Ⅰ	初級英語（TOEIC）Ⅱ	初級英語（TOEIC）Ⅲ	初級英語（TOEIC）Ⅳ
【基礎】	—	—	基礎英語（コミュニケーション）Ⅰ	基礎英語（コミュニケーション）Ⅱ	基礎英語（コミュニケーション）Ⅲ	基礎英語（コミュニケーション）Ⅳ
			基礎英語（総合）Ⅰ	基礎英語（総合）Ⅱ	基礎英語（総合）Ⅲ	基礎英語（総合）Ⅳ

※セメスターごとに２科目を学びます。
※網掛は、原則、英語ネイティブスピーカーの教員が担当（網掛以外は、日本人教員が担当）

【TOEIC L&R受験について】

◇１・２年次終了時に、「上級」・「中級」・「初級」レベルのクラスは全員、「基礎」レベルの学生は希望者のみ、TOEIC L&R IP（学内受験）を受験します。［受験料は大学負担］
◇春学期終了時にも、TOEIC L&R IP（学内受験）を希望者に実施します。［受験料は個人負担］
受験方法などの詳細については、電子掲示板POST等でお知らせします。

⑵ 各種検定試験のスコアによる単位認定について（b-47～b-49ページを参照）

◇英語教育科目

TOEIC L&R IP（学内受験）およびTOEIC L&R（公開テスト）でのスコアに基づき、英語必修科目として単位認定します。

また、TOEFLや実用英語技能検定のスコアで英語選択科目として認定する制度があります。

◇外国語教育科目

指定された各種検定試験のスコアに基づき、言語教育科目の選択科目として単位認定します。

⑶ 余剰単位の取り扱い

言語教育科目で定める単位数を超えて履修した単位は、卒業要件単位に算入します。

⑷ 再履修について

セメスター毎に決められた英語必修科目の単位が修得できなかった場合は、次セメスター以降に再履修クラスを履修します。

⑸ 履修上の注意事項

英語必修科目は、セメスター毎に設けているTOEIC L&R IP（学内受験）を受験し、そのスコアによって自動的に上位のクラスに上がります。クラス変更の結果は、新学期の開始前に電子掲示板POST等にて連絡します。

⑹ 外国人留学生を対象とした言語教育科目について

＜履修パターン＞

1セメスター	2セメスター
日本語科目（4単位・必修）	日本語科目（4単位・必修）

※上記履修パターンによる履修は、推奨される履修方法であり、1セメスター・2セメスターで必修科目が修得できなかった場合は、3セメスターから卒業までの間に必修科目を修得する必要があります。

＜日本語科目＞

単 位 数：1単位（※「留学生のための日本事情」除く）
配当年次：1年次

<table>
<tr><th>対象者</th><th>レベル</th><th>必修・選択別</th><th colspan="8">科目名</th></tr>
<tr><td rowspan="5">正規学部留学生</td><td>7</td><td>選択</td><td>上級日本語3（ビジネス）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語3（文章表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td></td><td></td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3">【選択】検定で学ぶ日本語（上級）Ⅰ/Ⅱ</td><td></td><td rowspan="5">【選択】留学生のための日本事情（2単位）</td></tr>
<tr><td>6</td><td>必修</td><td>上級日本語2（語彙・読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語2（文章表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語2（口頭表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語2（聴解）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="3">【選択】実践日本語</td></tr>
<tr><td>5</td><td>必修</td><td>上級日本語1（語彙・読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語1（文章表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語1（口頭表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>上級日本語1（聴解）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td>4</td><td>選択</td><td>中級日本語2（語彙・読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語2（文法）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語2（口頭表現）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語2（聴解）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2">中級日本語（文字・表記）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2">検定で学ぶ日本語（中級）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td>3</td><td>選択</td><td>中級日本語1（語彙・読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語1（文法）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語1（会話）Ⅰ/Ⅱ</td><td>中級日本語1（聴解）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td rowspan="5">非正規留学生</td><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2"></td><td>初級日本語2（文法B）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2">初級日本語2（会話）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2">初級日本語2（読解）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="4">初級日本語（文字・表記）Ⅰ/Ⅱ</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>初級日本語2（文法A）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2"></td><td>初級日本語1（文法B）Ⅰ/Ⅱ</td><td>初級日本語1（会話B）Ⅰ/Ⅱ</td><td rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>初級日本語1（文法A）Ⅰ/Ⅱ</td><td>初級日本語1（会話A）Ⅰ/Ⅱ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">0</td><td rowspan="2">—</td><td colspan="2" rowspan="2"></td><td>入門日本語（会話B）</td><td colspan="4" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>入門日本語（会話A）</td></tr>
</table>

※科目名のⅠは春学期科目、Ⅱは秋学期科目を表し、それぞれ1単位

・外国人留学生とみなされる学生のみ履修できます。
・言語教育科目の最低修得単位数は、必修の「日本語」科目を8単位修得しなければなりません。
・ただし、入学時のプレイスメントテストの結果等により「日本語」科目を履修しない学生は、「日本語以外の言語（母語以外）」を履修します。修得した単位は、卒業要件単位に算入します。
・レベル3～4の科目を正規学部留学生が履修する場合は、日本語担当教員からの履修許可が必要です。

※履修可能な科目は、履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。

◇英語資格試験等の単位認定制度（編・転入学生および英語を母語とする外国人留学生を除く）◇

この制度は、TOEIC L&R、TOEFL、実用英語技能検定において下表に示す基準を満たしている場合、その学修に対して、単位を認定する制度です。

「1．共通教育科目（英語教育科目）の必修科目に認定（上限6単位まで）」と、「2．共通教育科目（英語教育科目）の選択科目に認定」の2つの制度があります。双方あわせて、最大8単位までしか認められません。

【認定科目・単位数一覧表】

種　類	2単位	4単位	6単位	8単位	認定科目
TOEIC L&R	520～595点	600～695点	700～795点	800点～	英語必修科目 （上限6単位まで） ※認定する単位数の余剰分については、「英語選択科目」で認定
TOEFL-ITP	477～500点	503～537点	540～570点	573点～	英語選択科目
TOEFL-iBT	53～61点	62～75点	76～88点	89点～	英語選択科目
実用英語技能検定	2級	準1級	－	1級	英語選択科目

1．共通教育科目（英語教育科目）の必修科目での認定

①認定基準及び単位数

試験はTOEIC L&R IP（学内受験）またはTOEIC L&R（公開テスト）（国内受験）に限ります。

②認定科目の取扱い

a．対象者は、英語必修科目履修者のみです。

b．TOEIC L&R IP（学内受験）またはTOEIC L&R（公開テスト）のスコアに基づき、共通教育科目の英語必修科目として認定します。

c．単位認定する科目は、高年次配当の英語必修科目から順次認定します。ただし、再履修科目がある場合は、再履修科目の低年次配当科目を先に認定します。

d．認定は、所定の申請をした学期末に認定します。

e．認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。認定された科目はGPA算出の対象外とします。

f．同一基準でのスコアの重複認定はできませんが、上位基準のスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定します。

例）	1年次	TOEIC L&R IP（学内受験）	550点	2単位認定
	2年次	TOEIC L&R（公開テスト）	600点	4単位該当
				差し引き2単位追加認定

g．必修科目としての認定単位は、6単位を上限に卒業要件単位として算入します。余剰単位は、「英語認定科目」（選択科目）として認定します。

h．一旦認定された内容の変更・取消しはできません。

③申請期間

申請手続および申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、TOEIC L&R IP（学内受験）を受験された場合については、大学側でスコアを確認して単位認定を行います（本人申請不要）。

④提出書類

a．英語資格試験等に対する単位認定申請書

b．TOEIC L&R（公開テスト）のスコアカードの原本とそのコピー

c．最新の学業成績表のコピー（1年次春学期以外）

※TOEIC L&R IP（学内受験）を受験された場合は、申請は不要です。

⑤有効期限

TOEIC L&R（公開テスト）のスコアの有効期限は、取得後2年以内とします（入学前に取得したスコアは単位認定の対象外）。

2．共通教育科目（英語教育科目）の選択科目としての認定

①認定基準及び単位数（試験は国内受験に限る）

前頁【認定科目・単位数一覧表】参照

②認定科目の取扱い

a．①の認定基準及び単位数に基づき、共通教育科目の「英語認定科目」（選択科目）として認定します。

b．認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。認定された科目はGPA算出の対象外とします。

c．同一基準での資格・スコアの重複認定はできませんが、上位基準の資格やスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定することができます。

例）	1年次	実用英語技能検定	2級	2単位申請・認定
	3年次	TOEFL-ITP	532点	4単位該当
				差し引き2単位追加認定

d．「英語認定科目」（必修科目）の認定における余剰単位は、「英語認定科目」（選択科目）として認定します。こちらについても、上位基準の資格やスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定します。

e．認定単位は、「英語認定科目」（必修科目：上限6単位まで）と「英語認定科目」（選択科目）を合わせて8単位を限度に卒業要件単位として算入します。

f．一旦認定した科目の変更・取消しはできません。

③申請期間

申請手続および申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、申請した科目の単位認定は、各学期末とします。

④提出書類

a．英語資格試験等に対する単位認定申請書

b．TOEIC L&R（公開テスト）またはTOEFLのスコアカード（TOEFL-iBT、TOEFL-ITPを含む）、実用英語技能検定合格証書の原本とコピー

c．最新の学業成績表のコピー（1年次春学期以外）

※TOEIC L&R IP（学内受験）を受験された場合は、申請は不要です。

⑤有効期限

TOEIC L&R（公開テスト）・TOEFLのスコアの有効期限は、取得後2年以内とします（入学前に取得したTOEIC L&R（公開テスト）のスコアは単位認定の対象外）。

◇英語以外の外国語検定試験合格者の単位認定制度（編・転入学生および各言語を母語とする外国人留学生を除く）◇

この制度は、下記表の検定試験において一定の基準を満たしている場合、その学修に対して、単位を認定する制度です。

①認定基準及び単位数

検定試験の種類	2単位	4単位	6単位	8単位
ドイツ語技能検定試験	4級	3級	2級	準1級 1級
実用フランス語技能検定試験	4級	3級	準2級	2級 準1級 1級
中国語検定試験	4級	3級	2級	準1級 1級
ロシア語能力検定試験	4級	3級	2級	1級
スペイン語技能検定試験	5級	4級	3級	2級 1級
インドネシア語技能検定試験	E級	D級	C級	B級 A級
実用イタリア語検定試験	5級	4級	3級	準2級 2級 1級
ハングル能力検定試験	4級	3級	準2級	2級 1級

②認定科目の取扱

a．共通教育科目の「○○語認定科目」（選択科目）として認定します。
（○○の中には、各言語の名前が入ります。）

b．認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。

c．認定単位は、最低修得単位数124単位のうち、8単位を限度に卒業要件単位として算入します。
（履修登録上限単位数には、含まれません。）

d．異なる言語の検定試験に合格した場合も認定単位の上限は8単位とします。
異なる言語で資格を取得しても同一基準での資格・スコアの重複認定はできませんが、上位基準の資格やスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定することができます。

例）　1年次　ドイツ語技能検定試験　4級　2単位申請・認定
　　3年次　中国語検定試験　3級　4単位該当
　　差し引き2単位追加認定

e．一旦認定した単位の取消しはできません。

f．外国語学部の学生は、専攻語の検定試験に関しては認定申請できません。

※専門教育科目での認定申請については、「外国語検定試験合格等の単位認定制度」参照のこと

③申請期間

申請手続および申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、申請した科目の単位認定は、各学期末とします。

④提出書類

a．検定試験合格者等に対する単位認定申請書

b．各検定試験合格証書の原本とコピー

c．最新の学業成績表のコピー（1年次春学期以外）

⑤有効期限

入学前に取得した資格も認定することができますが、有効期限が設定されている検定試験は、届け出日以前に失効している場合は対象外とします。

※「中国語検定試験」において定められている「能力保証期間」は「有効期限」とは異なります。

3．体育教育科目

体育教育科目は、「講義科目」「実習科目」「演習科目」に区分しています。

⑴「健康科学実習」

登録はコンピュータ抽選により教職希望者を優先して決定します。

医師の指導等により運動が制限されている学生と、そのサポートを中心としたボランティア学習を希望する学生を対象としたクラス（Hクラス）を設けています。Hクラスの履修希望者は、所属事務室に申し出て登録の手続をしてください。

⑵「スポーツ科学実習Ａ」「スポーツ科学実習Ｂ」

科目名に競技名を表す副題がついています。

副題が異なっていても「スポーツ科学実習Ａ」「スポーツ科学実習Ｂ」は、それぞれ１科目しか履修できません。

⑶「健康科学演習Ａ」「健康科学演習Ｂ」

科目名に副題がついています。

副題が異なっていても「健康科学演習Ａ」「健康科学演習Ｂ」は、それぞれ１科目しか履修できません。

⑷「スポーツ科学演習Ａ」「スポーツ科学演習Ｂ」

科目名に副題がついています。

副題が異なっていても「スポーツ科学演習Ａ」「スポーツ科学演習Ｂ」は、それぞれ１科目しか履修できません。

⑸ スポーツ指導者育成科目

（公財）日本スポーツ協会では、公認スポーツ指導者制度に基づきスポーツ指導者を認定しています。この公認スポーツ指導者の資格を取得した者は、将来地域のスポーツクラブの指導者として、また特定競技の基礎的・専門的指導者として活動できることとなります。

これらの資格を取得するためには、日本スポーツ協会で定めた「共通科目」と「専門科目」を修了する必要がありますが、「共通科目」のうち「共通科目Ⅰ」「共通科目Ⅱ」「共通科目Ⅲ」にあたる科目については、次表の本学開設科目を単位取得し、卒業年度時に大学を通じ（公財）日本スポーツ協会に所定の手続をすることにより、公認スポーツ指導者養成講習会受講時に講習・試験の免除を受けることができます。

※本学での履修方法や申請の詳細については、説明会またはPOSTで案内します。

＜本学開設科目を単位取得することにより講習・試験の免除が受けられる公認スポーツ指導者の資格＞

・「コーチングアシスタント」：次表の10科目すべてを卒業までに単位取得し、日本スポーツ協会へ申請（卒業年度に申請）の上、日本スポーツ協会のオンラインテストに合格すれば資格が得られます。

・「コーチ１」「コーチ２」「コーチ３」「ジュニアスポーツ指導員」「アシスタントマネジャー」「クラブマネジャー」「スポーツプログラマー」「教師」「スポーツ栄養士」「アスレティックトレーナー」：次表の10科目すべてを卒業までに単位取得し、日本スポーツ協会へ申請（卒業年度に申請）の上、日本スポーツ協会のオンラインテストに合格すれば、該当指導者の「共通科目」の講習と試験免除が受けられます。

※「スポーツ栄養士」の資格を取得するためには、管理栄養士免許が必要です。

※各資格の有効期間は４年間で、４年ごとに更新手続が必要です。

※各自で日本スポーツ協会が発行するリファレンスブックの購入が必要になります。

※各資格の詳細は「日本スポーツ協会ホームページ」で確認してください。

スポーツ指導者育成科目

本学の開設科目（体育教育科目）
スポーツの心理
スポーツ指導論
スポーツ医学Ⅰ
スポーツマネジメント
スポーツ栄養学※
スポーツのスキル
現代社会とスポーツ※
ウェイトトレーニングの理論と実際
スポーツ医学Ⅱ
トレーニング論※

※現代社会学部健康スポーツ社会学科の専門教育科目

4. キャリア形成支援教育科目

京都産業大学のキャリア形成支援プログラムでは、「大学での学び」と「社会での実践」を段階的に積み重ねていくことで、学生の個性や自主性を養い、自ら考え行動する「社会で活躍できる人材」を育成しています。

※科目の概要・詳細等については本学webページに掲載していますので、参照してください。
URL：https://www.kyoto-su.ac.jp/features/career/index.html

【キャリア形成支援教育科目一覧】

<table>
<tr><th>科目群</th><th>科目系</th><th>1年次</th><th>2年次</th><th>3年次</th><th>4年次</th></tr>
<tr><td rowspan="2">導入・接続教育</td><td rowspan="2"></td><td>自己発見と大学生活</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">ファシリテーション入門</td></tr>
<tr><td rowspan="13">産学協働教育</td><td rowspan="2">キャリアデザイン系</td><td rowspan="2"></td><td colspan="2">自己発見とキャリアデザイン</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">働き方の未来</td></tr>
<tr><td rowspan="3">PBL系</td><td>O/OCF-PBL1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>O/OCF-PBL2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">企業人と学生のハイブリッド</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="8">インターンシップ系</td><td colspan="2">スタートアップ・インターンシップ</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>プレップ・インターンシップ</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">アスリートインターンシップ</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>インターンシップ1（大学コンソーシアム京都主催科目）</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">インターンシップ2（大学コンソーシアム京都主催科目）</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">インターンシップ3（国内）</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">インターンシップ4（海外）</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">インターンシップ5（自己開拓）</td><td></td></tr>
</table>

※表内の科目は2021年度開講科目です。

●導入・接続教育科目群

主に1年次生を対象とした大学生活に適応するための力を養う科目です。皆さんがこれから体験する、「高校から大学への移行」・「共通教育と専門教育の連動」・「大学から社会への移行」といった局面において、柔軟に適応する力を身につける科目を開講しています。

例：「自己発見と大学生活」
大学という新たな環境の中で自己の特性とキャンパス環境の両方を活かし、「4年間の大学生活」を自らイメージし、実行する力を身につけます。言い換えると、「アウェイ（新たな環境）をホーム（安心して自分から周囲に働きかける場・自己表現し合える場）に変える力」を養います。授業は主に、受講生同士のグループワークを中心に展開します。（1年次の春学期しか履修することができません。）

※人間科学教育科目内にも、導入・接続教育科目群を設けています。（詳細はb-43ページ参照）

●産学協働教育科目群

①キャリアデザイン系科目

卒業後の進路と自分自身の大学生活とを結びつけ、充実感の高い大学生活を送る力を身につけることができます。ゲスト講師の講義や社会人との対話やディスカッションを通じて、自分のキャリアプランについて考えることができます。

例：「自己発見とキャリアデザイン」
「社会における自らの個性の活かし方」「社会課題と大学の学びの関わり」「産業界と専門科目のつながり」を理解し、卒業後のキャリアプランの明確化を促進します。その上で、主体的な大学生活の推進と自らのキャリア観を形成する力を高めます。

②PBL系科目

大学（On Campus）での学びと実社会（Off Campus）での学びとを融合させた、課題解決型学習（PBL：Project BasedLearning）科目です。企業や行政機関から与えられる課題の解決活動を通じて、社会に出た時に必要となる心構えや能力を身につけることができます。

例：「O/OCF-PBL2」
企業・行政機関等から提供された課題にチームで6ヶ月間挑戦し、最終成果報告会で解決策を提案。「社会人基礎力」「自他肯定感」「自在に人と関わる力」「問題解決力」を身につけます。

③インターンシップ系科目

実際に企業等で就業体験等を行う科目です。社員の方と接したり、実際の仕事を体験することで、仕事のやりがい、業種や職種による業務内容の違い、会社の風土を体感することができます。キャリア選択の視野を拡げることに加え、大学の学びが実社会でどのように活きるのかを体感し、実習後に学習意欲が向上することも狙いとしています。

例：「インターンシップ3」
国内企業・団体等で、夏期休暇中に2週間程度のインターンシップを行います。事前学習では目標設定、企業・業界研究、ビジネスマナー講義等、事後学習では「就業体験」を振り返り、成果報告を行うことで、学習意欲や就業意識の向上につながっています。

※各科目には、様々な履修条件があります。卒業まで計画的に履修するようにしてください。
※各科目を履修する場合は、履修要項別冊ガイドおよびシラバスを必ず参照し、詳細を確認してください。

専門教育科目

１．授業科目の概要について

【専攻○○語】

専攻語の基礎を学び、総合的なコミュニケーション能力を段階的に身につけていくための科目です。１年次春学期にⅠ、同秋学期にⅡ、２年次春学期にⅢ、同秋学期にⅣと段階を追って内容が発展していきます。「会話」では専攻語の積極的なコミュニケーション能力を養成します。「総合」では専攻語の運用能力を総合的に向上させます。「構造」では文法を基礎に専攻語の言語体系を学びます。

【○○学入門】

（※日本語・コミュニケーション専攻は、【日本語学入門】【日本語教育入門】【日本文学入門】【日本語表現法】）

ことばの背景にある各言語圏の文化や社会事情など、専攻語を４年間学んでいくために必要な入門的・基礎的知識を学びます。

日本語・コミュニケーション専攻では、４年間の学修の基礎となる、日本語・日本語教育・日本文学等に関する入門的知識や考え方、考察の仕方等を学びます。

【基礎演習】

大学で、そして外国語学部で学んでいくための基礎的な力を養成する授業です。具体的には、講義の聴き方、文献の読み方、情報収集の方法、レポートの書き方、効果的なプレゼンテーションの方法などを実践的に身につけていきます。

【学部基幹科目】

言語と文化の多様性や言語の仕組みの基礎を学ぶことで、異文化コミュニケーションのためのスキルや態度の基盤を形成する科目群や、第４次産業革命の時代を生きるために必要な基礎的知識・スキルを外国語学部生が学ぶ科目群です。

【アジア言語基幹科目】

言語・文学・文化・歴史・社会・政治・経済等の観点からアジア言語圏の知識を広く学びます。

【○○語海外実習】

専攻語をその言語圏で実際に使用することにより、異文化受容力を身につけると同時に、１年間の初修言語への取り組みの成果を認識し、意欲をもって２年次以降の学修へつなぐことを目的とした科目です。教室での周到な事前事後指導（１単位相当）と海外現地実習（２単位）を組み合わせて実施します。

【○○語情報リテラシー】

インターネットで情報を検索したり、コンピュータを活用したプレゼンテーションを行なうなど、専攻語を用いた情報処理能力を身につけます。

日本語・コミュニケーション専攻では、専門領域の学修に必要な情報リテラシーの基礎を身につけます。

【専攻基幹科目】

専攻言語圏の学問領域に関する中心的な授業科目群で、各言語圏が持つ言語・文学・文化・歴史・社会・政治・経済等についての知識を学びます。

【検定○○語】、【検定日本語教育】

専攻言語ごとに初級・中級・上級レベルの検定試験合格を目指します。日本語・コミュニケーション専攻では、日本語教育能力検定試験合格を目指します。

【○○専門セミナー】

卒業後の進路をも見据えた専門的テーマを設定し、テーマに対する理解を深めながら、４技能を融合させた総合的で高度な専攻語のコミュニケーション能力を養成していきます。

【日本語教育実習】

日本語・コミュニケーション専攻では、海外や本学を含む国内の教育機関等の日本語クラスで教壇実習を行う科目が用意されています。

【アジア言語研究演習】

４年間にわたる学びの集大成として、これまで学んできた広範な専門的知識や語学力、多様なコミュニケーション技能を活用し、個々の専門的関心を掘り下げまとめあげます。３年次春学期にⅠ、同秋学期にⅡ、４年次春学期にⅢ、同秋学期にⅣと段階を追って学びを深めていきます。

【英語で学ぶ○○の社会】【英語で学ぶ○○の文化】

アジア言語学科では、英語の運用能力の向上にも力を注いでおり、英語学習を副専攻と位置づけています。専攻語圏の社会や文化を英語で学ぶことで、専攻語と英語と日本語を統合する形で、異文化コミュニケーションのスキルや態度を発展させる科目です。

【特別英語】

目標の達成や弱点の克服など、自分のニーズに合わせて履修する授業科目です。読む・聞く・話す・書く、といった英語スキル育成に特化した科目や世界の文化など内容に重点をおく科目があります。多くのクラスには英語習熟度に応じたレベル設定があるので、段階的に学びを深めることができます。

【関連科目】

各自が専攻する専門領域だけでなく、広く専門的教養を身につけるために、他学科・他専攻の専門教育科目を学びたい場合、関連科目として履修できます。関連科目には、教科教育法など教職課程の科目も含まれています。

2．学部基幹科目について

【学部基幹科目】

「学部基幹科目」（1年次配当）のなかから、4単位以上を修得しなければなりません。

3．専攻科目について

⑴ 必修科目

次の科目を必修とします。不合格となった場合は、その不合格科目が開講される学期で優先的に再履修してください。

〔中国語専攻、韓国語専攻、インドネシア語専攻〕

下記○○には、それぞれの専攻語名が入ります。「専攻○○語」と「基礎演習」は、あらかじめクラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかはWeb履修登録画面で確認してください。

	1年次配当		2年次配当	
開講期	科目名	単位	科目名	単位
春	専攻○○語（会話）Ⅰ	2	専攻○○語（会話）Ⅲ	2
	専攻○○語（総合）Ⅰ	1	専攻○○語（総合）Ⅲ	1
	専攻○○語（構造）Ⅰ	2	専攻○○語（構造）Ⅲ	2
	○○学入門Ⅰ	2	○○語情報リテラシーⅠ	1
	基礎演習	2		
秋	専攻○○語（会話）Ⅱ	2	専攻○○語（会話）Ⅳ	2
	専攻○○語（総合）Ⅱ	1	専攻○○語（総合）Ⅳ	1
	専攻○○語（構造）Ⅱ	2	専攻○○語（構造）Ⅳ	2
	○○学入門Ⅱ	2	○○語情報リテラシーⅡ	1

〔日本語・コミュニケーション専攻〕

下記○○には、中国語・韓国語・インドネシア語の3言語から専攻語として選択した1言語が入ります。すべて同じ言語で修得しなければなりません。また、「専攻○○語」と「基礎演習」は、あらかじめクラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかはWeb履修登録画面で確認してください。

	1年次配当		2年次配当	
開講期	科目名	単位	科目名	単位
春	専攻○○語（会話）Ⅰ※	2	専攻○○語（会話）Ⅲ※	2
	専攻○○語（総合）Ⅰ※	1	専攻○○語（総合）Ⅲ※	1
	専攻○○語（構造）Ⅰ※	2	専攻○○語（構造）Ⅲ※	2
	日本語学入門	2	日本語情報リテラシーⅠ	1
	日本語教育入門	2		
	基礎演習	2		
秋	専攻○○語（会話）Ⅱ※	2	専攻○○語（会話）Ⅳ※	2
	専攻○○語（総合）Ⅱ※	1	専攻○○語（総合）Ⅳ※	1
	専攻○○語（構造）Ⅱ※	2	専攻○○語（構造）Ⅳ※	2
	日本文学入門	2	日本語情報リテラシーⅡ	1
	日本語表現法	2		

ただし、日本語・コミュニケーション専攻に所属する外国人留学生および日本語を母語としない者の専攻言語は「日本語」になります。専攻語として、「専攻○○語」（上記※印の科目）ではなく次ページの科目を修得しなければなりません。

※日本語・コミュニケーション専攻に所属する外国人留学生および日本語を母語としない者の専攻言語

	1年次配当		2年次配当	
開講期	科目名	単位	科目名	単位
春	インテンシブ日本語ＡⅠ	1	インテンシブ日本語ＡⅢ	1
	インテンシブ日本語ＢⅠ	1	インテンシブ日本語ＢⅢ	1
	インテンシブ日本語ＣⅠ	1	インテンシブ日本語ＣⅢ	1
秋	インテンシブ日本語ＡⅡ	1	インテンシブ日本語ＡⅣ	1
	インテンシブ日本語ＢⅡ	1	インテンシブ日本語ＢⅣ	1
	インテンシブ日本語ＣⅡ	1	インテンシブ日本語ＣⅣ	1

⑵ 選択必修科目

【アジア言語基幹科目】

「アジア言語基幹科目」のなかから、４単位以上を修得しなければなりません。

【専攻基幹科目】

所属する専攻の「専攻基幹科目」のなかから、12単位以上を修得しなければなりません。

ただし、日本語・コミュニケーション専攻は、８単位以上（外国人留学生および日本語を母語としない者は12単位以上）を修得しなければなりません。

【専門セミナー】〔中国語専攻、韓国語専攻、インドネシア語専攻〕

所属する専攻の「〇〇語専門セミナー」（３年次配当）のなかから、８単位以上を修得しなければなりません。

【日本語教育実習、専門セミナー】〔日本語・コミュニケーション専攻〕

「日本語教育実習」（３年次配当）、「日本語・コミュニケーション専門セミナー」（３年次配当）のなかから、８単位以上を修得しなければなりません。

ただし、日本語・コミュニケーション専攻に所属する外国人留学生および日本語を母語としない者は、日本語教育実習、日本語・コミュニケーション専門セミナーのなかから、12単位以上を修得しなければなりません。

【アジア言語研究演習】

以下の「アジア言語研究演習」は、４単位以上を修得しなければなりません。

科目名	単位	配当年次	開講期	備考
アジア言語研究演習Ⅰ	2	3	春	研究演習は、あらかじめ希望するクラスの応募を行い、選考により決定します。募集案内については２年次の秋学期に電子掲示板POSTにて発表します。 原則同一教員で、研究演習Ⅳまでの履修を推奨します（研究演習Ⅰを修得後は、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと自動登録されます）。
アジア言語研究演習Ⅱ	2	3	秋	
アジア言語研究演習Ⅲ	2	4	春	
アジア言語研究演習Ⅳ	2	4	秋	

履修にあたり、次の条件が設定されています。

・研究演習の選択必修４単位修得にあたっては、所属学科の研究演習を履修しなければなりません。
・研究演習はⅠからⅣへと段階を追って学ぶため、Ⅰが修得できなかった場合、それに続く秋学期のⅡを履修することはできません（在学留学を除く）。同じく、Ⅱが修得できなかった場合、Ⅲを履修することはできません。
・同一教員のクラスを連続で履修していきますが、在学留学・休学等の理由で、連続履修ができない場合は、事前に外国語学部事務室で相談してください。
・所属学科の研究演習ⅠとⅢを同時に履修登録することはできません。
・所属学科以外の研究演習Ⅰ～Ⅳは選択科目として履修することができます。ただし、各セメスターに履修できる研究演習は最大２つまでです。

⑶ 選択科目

【海外実習】

各言語における海外実習は、１年次末の春休みに海外の大学で、約３週間の語学研修を受ける科目です。外国語学部１年次生が履修する場合、原則、専攻語を優先とします。

履修にあたっては、春学期に開催する説明会に必ず出席し、履修方法等を確認してください。

【検定○○語】

専攻言語ごとに初級・中級・上級レベルの検定試験対策科目「検定○○語１・２」（１年次配当)、「検定○○語３・４」（２年次配当)、および中国語のみ「検定中国語５・６」（２年次配当）を開講しています。

【検定日本語教育】

日本語教育能力検定試験対策科目「検定日本語教育Ⅰ・Ⅱ」（３年次配当）を開講しています。

４．英語科目について

⑴ 必修科目

【英語で学ぶ○○の社会】【英語で学ぶ○○の文化】

所属する専攻語圏の社会や文化を英語で学ぶ「英語で学ぶ○○の社会」「英語で学ぶ○○の文化」（各２単位）を修得しなければなりません。不合格となった場合は、その不合格科目が開講される学期で優先的に再履修してください。

例）中国語専攻生の場合

「英語で学ぶ中国の社会」（２単位）　＋　「英語で学ぶ中国の文化」（２単位）　＝　４単位修得

⑵ 選択必修科目

【特別英語】

「特別英語」のなかから、４単位以上を修得しなければなりません。

「特別英語」には、１単位科目と２単位科目があります。単位修得にあたっては、１単位科目を２科目以上修得しなければなりません。

また、科目により履修条件（クラス定員やレベル）が指定されています。詳しくは、履修説明会、履修要項別冊ガイド、シラバス等で確認してください。

※各レベルの目安

超上級　IELTS 5.5～　／ TOEFL iBT 54～　／ TOEFL ITP 521～　／ TOEIC L&R　600～
超中級　IELTS 4.5～5.5 ／ TOEFL iBT 39～54 ／ TOEFL ITP 470～520 ／ TOEIC L&R　500～600
準中級　IELTS　～4.0 ／ TOEFL iBT　～39 ／ TOEFL ITP　～470 ／ TOEIC L&R　～500

なお、下記の科目は、英語教員免許取得のために必要な科目として指定しています。英語教員免許取得希望者が履修した場合には、特別英語の選択必修４単位には算入できません。

科目名	単位	配当年次	備考
特別英語（英語プレゼンテーションⅠ）	1	1	教職課程の「教科に関する科目」として修得した場合も、卒業要件単位に算入することができます。
特別英語（英語プレゼンテーションⅡ）			
特別英語（多読多聴Ⅰ）	2		
特別英語（多読多聴Ⅱ）			

５．関連科目について

関連科目は、選択科目です。「教科教育法科目」のほか、他学科・専攻の「専門教育科目」を履修し修得した場合は、関連科目に区分されます。ただし、他学科・専攻の必修科目は履修できません。

６．日本語教師養成プログラムについて

⑴ 目的

日本語教師養成プログラムは、外国語学部アジア言語学科日本語・コミュニケーション専攻所属の学生のためのプログラムです。

このプログラムは、日本語を母語としない人々（主に外国人）に対して日本語を教える教師（以下、日本語教師）になるために必要な教育を行うプログラムで、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について』（文化審議会国語分科会　平成31年３月４日）で示された「大学における45単位以上の日本語教師養成課程（主専攻)」に沿って編成されています。(免許状

を取得するための課程ではありません。また、日本語教師は、教育職員免許法によって定められた国語の教員とは異なりますので、注意してください)。

近年、日本に来住する外国人、外国にルーツやつながりを持つ人たちが増加しています。また、外国においては日本に対して興味・関心を持つ人たちが増え、それに伴って日本語学習熱も高まりつつあります。このような国内外の状況の中で、日本語教師には、日本語を母語としない人々に日本語を教えるための専門的な知識や能力、経験が求められています。これに対応すべく、本プログラムが設けられています。

将来、日本語教師を目指している人は、このプログラムで専門的な教育を受けることを推奨します。

⑵ 単位修得証明書

日本語教師養成プログラムの所定の授業科目及び単位を修得した者には、本学から「日本語教師養成プログラム単位修得証明書」を卒業時に発行します。

ただし、この証明書は、卒業時にのみ発行されるものであり、卒業後に科目等履修生として不足単位を充当して証明書発行の条件を満たしても、同証明書は発行されません。

⑶ 日本語教師養成プログラム最低修得単位数（単位修得証明書発行基準）

日本語教師として最低限必要となる専門的な知識や能力を身につけ、経験を積むための教育内容は、①社会・文化・地域、②言語と社会、③言語と心理、④言語と教育、⑤言語に区分されています。以下に示す区分ごとの最低修得単位数と合計最低修得単位数を満たすことが証明書の発行基準となります。各自で計画を立てて履修してください。

区　分	最低修得単位数（単位修得証明書発行基準）	
社会・文化・地域	必修４単位	45単位以上
言語と社会	選択必修４単位以上	
言語と心理	選択必修４単位以上	
言語と教育	必修12単位	
言語	必修14単位	

⑷ 日本語教師養成プログラム構成科目

区分	必修の科目	選択必修の科目	単位	年次	開講（学科）区分	備考
社会・文化・地域	日本語教育入門		2	1	アジア言語学科	注)
	共生のための日本語演習		2	3	アジア言語学科	注)
		日本文学入門	2	1	アジア言語学科	注)
		日本文学概論	2	2	アジア言語学科	
		日本語教育史	2	2	アジア言語学科	
言語と社会		日本語教育のための「言語と社会」Ⅰ	2	2	アジア言語学科	
		日本語教育のための「言語と社会」Ⅱ	2	2	アジア言語学科	
		社会言語学Ⅰ	2	2	英語学科	
		社会言語学Ⅱ	2	2	英語学科	
		異文化コミュニケーションⅠ	2	2	ヨーロッパ言語学科	
		異文化コミュニケーションⅡ	2	2	ヨーロッパ言語学科	
言語と心理		日本語教育のための「言語と心理」Ⅰ	2	2	アジア言語学科	
		日本語教育のための「言語と心理」Ⅱ	2	2	アジア言語学科	
		異文化理解概論	2	2	アジア言語学科	
		心理言語学Ⅰ	2	2	英語学科	
		心理言語学Ⅱ	2	2	英語学科	
		応用言語学Ⅰ	2	2	英語学科	
		応用言語学Ⅱ	2	2	英語学科	
言語と教育	日本語表現法		2	1	アジア言語学科	注)
	日本語教育概論		2	2	アジア言語学科	
	日本語教授法Ⅰ		2	2	アジア言語学科	
	日本語教授法Ⅱ		2	2	アジア言語学科	
	日本語情報リテラシーⅠ		1	2	アジア言語学科	注)
	日本語情報リテラシーⅡ		1	2	アジア言語学科	注)
	日本語教育実習		2	3	アジア言語学科	注)
		日本語教材開発論	2	2	アジア言語学科	
		検定日本語教育Ⅰ	2	3	アジア言語学科	
		検定日本語教育Ⅱ	2	3	アジア言語学科	
		日本語・コミュニケーション専門セミナー（異文化コミュニケーション論）Ⅰ	2	3	アジア言語学科	注)
		日本語・コミュニケーション専門セミナー（異文化コミュニケーション論）Ⅱ	2	3	アジア言語学科	注)

区分	必修の科目	選択必修の科目	単位	年次	開講（学科）区分	備考
言語と教育		日本語・コミュニケーション専門セミナー（日本語教育論）Ⅰ	2	3	アジア言語学科	注）
		日本語・コミュニケーション専門セミナー（日本語教育論）Ⅱ	2	3	アジア言語学科	注）
言語	日本語学入門		2	1	アジア言語学科	注）
	言語学概論Ⅰ		2	2	アジア言語学科	
	言語学概論Ⅱ		2	2	アジア言語学科	
	日本語学概論Ⅰ		2	2	アジア言語学科	
	日本語学概論Ⅱ		2	2	アジア言語学科	
	日本語文法Ⅰ		2	2	アジア言語学科	
	日本語文法Ⅱ		2	2	アジア言語学科	
		日本語音声学	2	2	アジア言語学科	
		対照言語学	2	2	アジア言語学科	
		日本語文法Ⅲ	2	2	アジア言語学科	
		日本語史	2	2	アジア言語学科	
		日本語・コミュニケーション専門セミナー（日本語論）Ⅰ	2	3	アジア言語学科	注）
		日本語・コミュニケーション専門セミナー（日本語論）Ⅱ	2	3	アジア言語学科	注）
		日本語・コミュニケーション専門セミナー（日本語論）Ⅲ	2	3	アジア言語学科	注）
		日本語・コミュニケーション専門セミナー（日本語論）Ⅳ	2	3	アジア言語学科	注）

注）日本語・コミュニケーション専攻生のみ履修可能です。
※卒業要件に係る履修科目の単位の扱いは、履修規程を確認してください。
　各科目の授業内容・開講期間等詳細は、シラバスおよび履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。
　構成科目に変更が生じたときには、電子掲示板POSTにてお知らせします。

⑸ 日本語教師を目指す方々へ

日本語教師になるための免許状のような特別な資格は今のところありません。しかし、教師として仕事をするためには、専門的な学習、研究、経験が求められますので、日本語教師養成プログラムの単位修得証明書を取得することを目指してください。加えて、下記の日本語教育能力検定試験を受験し、合格することを推奨します。

◇日本語教育能力検定試験

この試験は、日本語教師としての知識及び能力が必要とされる水準に達しているかどうかを検定することを目的として、昭和62年から毎年１回、10月下旬に実施されています。

試験の詳細については、公益財団法人日本国際教育支援協会ホームページ内、日本語教育能力検定試験ホームページ＜http://www.jees.or.jp/jltct/＞で確認してください。

カリキュラムの概要

当該年度における各授業科目の休講等は、履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。

　　の科目は、英語による授業科目です。

区分＼年次			1　年　次	2　年　次
学部基幹科目	選択必修		ことば学入門(2) ことばと認知(2) ことばの普遍性(2) World Englishes(2) 日本と世界の手話(2) エスペラント語入門(2) 日本の社会と言語の多様性(2) ニュースの読み解き方(2) 国際関係入門(2) コンピュータと言語(2) 文系学生のためのデジタル・リサーチ入門(2)	
専攻科目	必修		専攻○○語（会話）Ⅰ(2)　専攻○○語（会話）Ⅱ(2) 専攻○○語（総合）Ⅰ(1)　専攻○○語（総合）Ⅱ(1) 専攻○○語（構造）Ⅰ(2)　専攻○○語（構造）Ⅱ(2)	専攻○○語（会話）Ⅲ(2)　専攻○○語（会話）Ⅳ(2) 専攻○○語（総合）Ⅲ(1)　専攻○○語（総合）Ⅳ(1) 専攻○○語（構造）Ⅲ(2)　専攻○○語（構造）Ⅳ(2)
			〔日本語・コミュニケーション専攻に所属する外国人留学生および日本語を母語としない者〕※ インテンシブ日本語ＡⅠ(1)　インテンシブ日本語ＡⅡ(1) インテンシブ日本語ＢⅠ(1)　インテンシブ日本語ＢⅡ(1) インテンシブ日本語ＣⅠ(1)　インテンシブ日本語ＣⅡ(1)	インテンシブ日本語ＡⅢ(1)　インテンシブ日本語ＡⅣ(1) インテンシブ日本語ＢⅢ(1)　インテンシブ日本語ＢⅣ(1) インテンシブ日本語ＣⅢ(1)　インテンシブ日本語ＣⅣ(1)
			〔中国語・韓国語・インドネシア語専攻〕 ○○学入門Ⅰ(2)　○○学入門Ⅱ(2)	
			〔日本語・コミュニケーション専攻〕 日本語学入門(2)　日本文学入門(2) 日本語教育入門(2)　日本語表現法(2)	
				○○語情報リテラシーⅠ(1)　○○語情報リテラシーⅡ(1)
			基礎演習(2)	
	選択必修	アジア言語基幹科目	アジアの言語(2)　アジアの文学と文化(2)　アジアの社会と歴史(2)　アジアの政治と経済(2)	広東語とその言語社会Ⅰ(2)　広東語とその言語社会Ⅱ(2)　異文化理解概論(2)
		中国語専攻 専攻基幹科目		中国語学概論Ⅰ(2)　中国語学概論Ⅱ(2)　中国語学ＡⅠ(2)　中国語学ＡⅡ(2) 中国文化概論Ⅰ(2)　中国文化概論Ⅱ(2)　中国文化論ＡⅠ(2)　中国文化論ＡⅡ(2)
		中国語専攻 専門セミナー		
		韓国語専攻 専攻基幹科目		韓国語学概論Ⅰ(2)　韓国語学概論Ⅱ(2)　韓国語学A(2)　韓国語学B(2)
		韓国語専攻 専門セミナー		
		インドネシア語専攻 専攻基幹科目		インドネシア語学概論Ⅰ(2)　インドネシア語学概論Ⅱ(2) インドネシア文学B(2)　インドネシア文化論A(2)　インドネシア文化論B(2)
		インドネシア語専攻 専門セミナー		
		日本語・コミュニケーション専攻 専攻基幹科目		言語学概論Ⅰ(2)　言語学概論Ⅱ(2)　対照言語学(2)　日本語学概論Ⅰ(2) 日本語教授法Ⅱ(2)　日本語教育のための「言語と社会」Ⅰ(2) 日本語教育史(2)　日本文学概論(2)　漢文学概論(2)　日本文学論Ⅰ(2)
		日本語・コミュニケーション専攻 教育実習、専門セミナー		
		研究演習		
	選択		中国語海外実習(3)　韓国語海外実習(3)　インドネシア語海外実習(3) 検定中国語１(1)　検定中国語２(1)　検定韓国語１(1)　検定韓国語２(1)　検定インドネシア語１(1)　検定インドネシア語２(1)	検定中国語３(1)　検定中国語４(1)　検定中国語５(1)　検定中国語６(1)
英語科目	必修			英語で学ぶ○○社会(2)　英語で学ぶ○○文化(2)
	選択必修	特別英語	特別英語（多読）(1)　特別英語（アクティブ・リスニング入門　音楽）(1)　特別英語（アクティブ・リスニング入門）(1) 特別英語（発音クリニックⅠ）(1)　特別英語（発音クリニックⅡ）(1)　特別英語（アクティブ・スピーキング入門）(1) 特別英語（英語プレゼンテーションⅡ）(1)　特別英語（ディスカッション英語Ⅰ）(1)　特別英語（ディスカッション英語Ⅱ）(1) 特別英語（メール・ライティングⅡ）(1)　特別英語（英語エッセイチャレンジⅠ）(1)　特別英語（英語エッセイチャレンジⅡ）(1) 特別英語（英国スタディーズ）(1)　特別英語（オーストラリア スタディーズ）(1)　特別英語（ニュージーランド スタディーズ）(1) 特別英語（地域スタディーズ・アジア）(1)　特別英語（多読多聴Ⅰ）(2)　特別英語（多読多聴Ⅱ）(2)	
関連	選択			国語科教育法１(2)　国語科教育法２(2)　国語科教育法３(2)　国語科教育法４(2) 中国語科教育法４(2)

（　）内は単位数

	3　年　次	4　年　次	卒業要件単位数		
			4単位以上	80単位以上	共通教育科目21単位・融合教育科目・専門教育科目80単位を含め、124単位以上
			20単位		
			12単位		
			4単位		
			8単位		
			2単位		
			2単位		
	アジアの英語(2)		4単位以上		
	中国語学ＢⅠ(2)　中国語学ＢⅡ(2)　中国文学概論Ⅰ(2)　中国文学概論Ⅱ(2)　中国文学ＡⅠ(2)　中国文学ＡⅡ(2)　中国文学ＢⅠ(2)　中国文学ＢⅡ(2) 中国文化論ＢⅠ(2)　中国文化論ＢⅡ(2)　中国文化論ＣⅠ(2)　中国文化論ＣⅡ(2) 捜査通訳演習（中国語）(2)　法廷通訳・翻訳演習（中国語）(2)		12単位以上		
	中国語専門セミナー（時事中国語）Ⅰ(2)　中国語専門セミナー（時事中国語）Ⅱ(2)　中国語専門セミナー（映像で学ぶ中国語表現）Ⅰ(2) 中国語専門セミナー（映像で学ぶ中国語表現）Ⅱ(2)　中国語専門セミナー（通訳訓練　理論と実践）Ⅰ(2)　中国語専門セミナー（通訳訓練　理論と実践）Ⅱ(2) 中国語専門セミナー（文学作品）Ⅰ(2)　中国語専門セミナー（文学作品）Ⅱ(2)　中国語専門セミナー（討論のための中国語）Ⅰ(2) 中国語専門セミナー（討論のための中国語）Ⅱ(2)　中国語専門セミナー（聴解）Ⅰ(2)　中国語専門セミナー（聴解）Ⅱ(2)		8単位以上		
	韓国文学・文化概論Ⅰ(2)　韓国文学・文化概論Ⅱ(2)　韓国文学Ａ(2)　韓国文学Ｂ(2)　韓国文化論Ａ(2)　韓国文化論Ｂ(2)		12単位以上		
	捜査通訳演習（韓国語）(2)　法廷通訳・翻訳演習（韓国語）(2)				
	韓国語専門セミナー（時事韓国語）Ⅰ(2)　韓国語専門セミナー（時事韓国語）Ⅱ(2)　韓国語専門セミナー（映画・ドラマ）Ⅰ(2) 韓国語専門セミナー（映画・ドラマ）Ⅱ(2)　韓国語専門セミナー（文学作品）Ⅰ(2)　韓国語専門セミナー（文学作品）Ⅱ(2) 韓国語専門セミナー（通訳・翻訳理論と訓練）Ⅰ(2)　韓国語専門セミナー（通訳・翻訳理論と訓練）Ⅱ(2)		8単位以上		
	インドネシア語学Ａ(2)　インドネシア語学Ｂ(2)　インドネシア文学・文化概論Ⅰ(2)　インドネシア文学・文化概論Ⅱ(2)　インドネシア文学Ａ(2)		12単位以上		
	インドネシア語専門セミナー（比較文化論）Ⅰ(2)　インドネシア語専門セミナー（比較文化論）Ⅱ(2)　インドネシア語専門セミナー（現代社会論）Ⅰ(2) インドネシア語専門セミナー（現代社会論）Ⅱ(2)　インドネシア語専門セミナー（民族文化論）Ⅰ(2)　インドネシア語専門セミナー（民族文化論）Ⅱ(2) インドネシア語専門セミナー（異文化コミュニケーション論）Ⅰ(2)　インドネシア語専門セミナー（異文化コミュニケーション論）Ⅱ(2)		8単位以上		
	日本語学概論Ⅱ(2)　日本語文法Ⅰ(2)　日本語文法Ⅱ(2)　日本語文法Ⅲ(2)　日本語音声学(2)　日本語史(2)　日本語教育概論(2)　日本語教授法Ⅰ(2) 日本語教育のための「言語と社会」Ⅱ(2)　日本語教育のための「言語と心理」Ⅰ(2)　日本語教育のための「言語と心理」Ⅱ(2)　日本語教材開発論(2) 日本文学論Ⅱ(2)　日本文学論Ⅲ(2)　日本文学史(2)		8単位以上【※12単位以上】		
	日本語・コミュニケーション専門セミナー（日本語論）Ⅰ(2)　日本語・コミュニケーション専門セミナー（日本語論）Ⅱ(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー（日本語論）Ⅲ(2)　日本語・コミュニケーション専門セミナー（日本語論）Ⅳ(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー（日本語教育論）Ⅰ(2)　日本語・コミュニケーション専門セミナー（日本語教育論）Ⅱ(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー（日本文学）Ⅰ(2)　日本語・コミュニケーション専門セミナー（日本文学）Ⅱ(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー（異文化コミュニケーション論）Ⅰ(2)　日本語・コミュニケーション専門セミナー（異文化コミュニケーション論）Ⅱ(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー（手話コミュニケーション論）Ⅰ(2)　日本語・コミュニケーション専門セミナー（手話コミュニケーション論）Ⅱ(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー（留学生対象：日本語スキル）Ⅰ(2)　日本語・コミュニケーション専門セミナー（留学生対象：日本語スキル）Ⅱ(2) 日本語教育実習(2)		8単位以上【※12単位以上】		
	アジア言語研究演習Ⅰ(2)　アジア言語研究演習Ⅱ(2)	アジア言語研究演習Ⅲ(2)　アジア言語研究演習Ⅳ(2)	4単位以上		
	検定韓国語３(1)　検定韓国語４(1)　検定インドネシア語３(1)　検定インドネシア語４(1)				
	検定日本語教育Ⅰ(2)　検定日本語教育Ⅱ(2) 共生のための日本語演習(2)　書道(2)				
			4単位		
	特別英語（アクティブ・リスニング）(1)　特別英語（ニュース英語Ⅰ）(1)　特別英語（ニュース英語Ⅱ）(1) 特別英語（ロールプレイ）(1)　特別英語（アクティブ・スピーキング）(1)　特別英語（英語プレゼンテーションⅠ）(1) 特別英語（ディベート英語Ⅰ）(1)　特別英語（ディベート英語Ⅱ）(1)　特別英語（メール・ライティングⅠ）(1) 特別英語（アカデミックライティングⅠ）(2)　特別英語（アカデミックライティングⅡ）(2)　特別英語（異文化探検）(1) 特別英語（米国 スタディーズ ）(1)　特別英語（カナダ スタディーズ ）(1)　特別英語（地域スタディーズ・ヨーロッパ）(1) 特別英語（IELTS入門と留学準備）(1)　特別英語（留学英語IELTS Ⅰ）(1)　特別英語（留学英語IELTS Ⅱ）(1)		4単位以上		
	英語科教育法１(2)　英語科教育法２(2)　英語科教育法３(2)　英語科教育法４(2)　中国語科教育法１(2)　中国語科教育法２(2)　中国語科教育法３(2)				

卒業要件単位数欄の※印は、日本語・コミュニケーション専攻に所属する外国人留学生および日本語を母語としない者に適用する

外国語検定試験合格等の
単　位　認　定　制　度

外国語検定試験合格等の単位認定制度（専攻言語の試験等に限る）

この制度は、語学力向上意欲を高め、自ら学修するための指標とするために設けられた制度です。専攻言語における検定試験合格等のための学修に対して、下表の基準をクリアしている場合に外国語学部専門教育科目として単位を認定します。（編転入学生および各言語を母語とする外国人留学生を除く）

※本制度による「英語」の単位認定は英語学科のみが対象となります。

※専攻言語以外の単位認定については、共通教育科目◇英語資格試験等の単位認定制度◇を参照してください。

1．認定基準及び単位数

英語

単位数 / 試験種類	2単位	4単位	6単位	8単位
IELTS	5.5	6	6.5	7
TOEFL ITP（level 1）	530～559点	560～589点	590～619点	620点～
TOEFL iBT	71～82点	83～95点	96～104点	105点～
実用英語技能検定	準１級	－	１級	－
TOEIC L&R[1)]	670～759点	760～849点	850～929点	930点～

1）TOEIC L&R IP（学内受験）またはTOEIC L&R（公開テスト）を認定対象とします。

ドイツ語

単位数 / 試験種類	2単位	4単位	6単位	8単位
ドイツ語技能検定試験（独検）	２級	－	準１級	１級
Goethe Institutの検定試験 Prüfungen im Goethe-Institut	Goethe-Zertifikat B1	Goethe-Zertifikat B2	Goethe-Zertifikat C1	Goethe-Zertifikat C2 : GDS
オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験 Österreichisches Sprachdiplom Deutsch（ÖSD）	Österreichisches Sprachdiplom B1	Österreichisches Sprachdiplom B2	Österreichisches Sprachdiplom C1	Österreichisches Sprachdiplom C2
外国語としてのドイツ語検定試験 Test Deutsch als Fremdsprache	－	TDN3	TDN4	TDN5
大学入学に必要なドイツ語能力検定試験 Prüfungen für Hochschulzugang	－	DSH-1	DSH-2	DSH-3

フランス語

単位数 / 試験種類	2単位	4単位	6単位	8単位
仏検[1)]	準２級	２級	準１級	１級
DELF[2)] DALF[3)]	DELF A2	DELF B1	DELF B2	DALF C1/C2
TCF[4)]	200～299点	300～399点	400～499点	500～699点
TEF[5)]	204～360点	361～540点	541～698点	699～900点

1）実用フランス語技能検定試験
2）Diplôme d'études en langue française
3）Diplôme approfondi de langue française
4）Test de Connaissance du Français
5）Test d'Évaluation du Français

スペイン語

単位数 / 試験種類	2単位	4単位	6単位	8単位
スペイン語技能検定	–	3級	2級	1級
DELE	B 1	B 2	C 1	C 2

イタリア語

単位数 / 試験種類	2単位	4単位	6単位	8単位
実用イタリア語検定	3級	準2級	2級	1級
CILS[1]	–	Livello UNO	Livello DUE	Livello TRE/QUATTRO
CELI[2]	CELI 1	CELI 2	CELI 3	CELI 4/5

1)Certificazione di Italiano come Lingua Straniera　2)Certificato di Conoscenza della Lingua Italiana

ロシア語

単位数 / 試験種類	2単位	4単位	6単位	8単位
ロシア語能力検定試験	3級	–	2級	1級
ТРКИ[1]	Баз. ур.	Iсерт. ур.	IIсерт. ур.	III, IVсерт. ур.
ТРКИ-ИРЯП[2]	Пред. ур.	Порог. ур.	Пост. ур.	–

1)ТРКИ：ロシア連邦教育省認定ロシア語検定試験
Баз.ур.：Базовыйуровень
Iсерт.ур.：Iсертификационныйуровень　IIсерт.ур.：IIсертификационный уровень
IIIсерт. ур.：IIIсертификационный уровень　IVсерт. ур.：IVсертификационный уровень
2)ТРКИ−ИРЯП：ロシア連邦教育省認定のもと国立プーシキン記念ロシア語大学で行われるロシア語検定試験
Пред. ур.：Предпороговый уровень　Порог. ур.：Пороговый уровень
Пост. ур.：Постпороговый уровень

中国語

単位数 / 試験種類	2単位	4単位	6単位	8単位
中国語検定	–	2級	準1級	1級
HSK漢語水平考試	4級	5級	6級	——

韓国語

単位数 / 試験種類	2単位	4単位	6単位	8単位
ハングル能力検定試験	–	準2級	2級	1級
韓国語能力試験（TOPIK）	3級	4級	5級	6級

インドネシア語

単位数 / 試験種類	2単位	4単位	6単位	8単位
インドネシア語技能検定試験	C級	–	B級	A級

2. 認定科目の取扱い

①外国語学部専門教育科目に算入します。科目名は、「資格〇〇語認定科目」（選択科目）とし、成績評価は「N」で表わします。

②同一言語について同一基準での資格・スコアの重複認定はできません。

③上位基準での資格やスコアによる追加認定はできますが、既に認定した単位数は差し引くものとします。

④有効期限が設定されている検定試験等に関しては、申請時以前に失効している場合は認定の対象外とします。

⑤専攻言語以外の単位認定はできません。

3. 申請書類

①外国語検定試験等合格に関する単位認定申請書（用紙はPOSTキャビネットからダウンロード）

②各検定試験等の合格証書及びスコア表の原本と写し

③学業成績表（写し）又は成績証明書（但し、1セメ生は除く）

4. 申請方法

①春学期授業期間内に申請書類を外国語学部事務室に提出してください。（春学期末の認定）

②秋学期授業期間内に申請書類を外国語学部事務室に提出してください。（秋学期末の認定）

グローバルな学び

（GET：Global Studies, Education and Training）

GET（Global Studies, Education and Training）とは

国内外で活躍できる人材の育成を建学の精神に謳う本学は、グローバルな学びを積極的に推進しています。グローバル人材には「国際対話能力」「豊かな教養」「確かな専門性」が求められます。本学では、この３つの資質を体系的に修得できるように、GETと呼ばれるグローバルな教育プログラムを用意しています。

GETは、高度な英語力に加えて豊かな教養と専門知識を同時に修得できる「英語による科目」、「在学留学制度」、「海外インターンシップ制度」などのプログラムを整備しています。卒業後、グローバルに活躍することを希望する学生は、積極的に英語による科目を履修し、在学中に海外留学や海外インターンシップを経験してください。

【GETを構成する教育プログラム】

共通教育の必修英語科目

英語による科目

- **英語講義（人間科学教育科目（共通教育科目）、学部専門教育科目）**
- **特別英語（外国語学部専門教育科目）**

在学留学

海外インターンシップ

共通教育の必修英語科目

グローバル社会の中で活躍し、社会に貢献するためには、実用的な英語運用能力の獲得が必須です。本学の英語教育科目は、従来の「読む」「書く」「話す」「聞く」中心の学習に加えて、より実用的な英語運用能力を向上させる学習手段として、就職活動の入口やビジネスシーンで有用とされるTOEIC対応の学習内容を授業に組み込んでいます。さらに、英語コミュニケーション能力を身に付けるための授業も設け、TOEICと英語コミュニケーションの授業を通して「社会人が必要とする英語運用能力に応えられる人材」を育成するプログラムとなっています。また、英語が苦手な人には基礎から学ぶ授業を開講し、基礎から英語運用能力の向上を図るなど、個々のレベルが上がる環境を整えています。

※外国語学部 英語学科の学生は共通教育の必修英語科目履修対象外となります。

英語による科目

本学は、「**英語を学ぶ**科目」だけではなく「**英語を使って学ぶ**科目」が豊富に開講されており、海外からの交換留学生も英語による科目を多く受講しています。これらの科目を履修し単位を修得するためには、一定水準以上の英語力が必要となります。科目ごとに要求される履修条件を確認し、自らの知的好奇心と英語力に適った授業を積極的に履修してください。

【英語講義（人間科学教育科目（共通教育科目）、学部専門教育科目）】

人間科学教育科目の各領域には、英語で宗教学、歴史、経済、政治学、生態学や科学技術などを学ぶ科目を開講しています。これらの講義では、英語で様々な国の留学生とともに授業を受けることで、英語力を向上させることのみならず、異文化理解も深めることができます。講義によっては頻繁にグループワークが行われ、積極的にディスカッションへの参加が求められます。また、英語による討論、プレゼンテーション、レポート作成などのアカデミックスキルの修得を通して実践的英語運用能力を学ぶ科目も開講しています。これらの科目は海外留学を考えている学生にはその準備として、留学から帰国した学生には語学力のさらなる向上のための機会として活用することができます。また、学部によっては専門教育科目の一部を英語で開講しています。

URL:https://www.kyoto-su.ac.jp/kokusai/get/program/index.html

【特別英語（外国語学部専門教育科目）】

◇目的

「特別英語」の目的は２つあります。第１は、学部で学んでいる専門分野について、基本的な内容を英語で説明したりディスカッションする能力を育成することです。第２の目的は、海外の大学へ短期・長期留学するために必要な英語力を磨いたり、異文化理解を深めること、さらに帰国後の英語力を発展させることです。この２つの目的を本学学生が達成するサポートをするために開講されるのが「特別英語」です。

URL:http://www.kyoto-su.ac.jp/kokusai/get/program/index.html

（☑上記URLの「科目区分別／特別英語プログラム」をクリック）

◇特色

「特別英語」は、在学中に長期留学を考えている学生、大学院へ進学し研究者を目指そうとする学生、専門を活かしグローバル企業で活躍しようと考えている学生などのニーズに応えるために多様な科目を開講し、また、学生の個々の目的・レベルに応じた科目を提供しています。

●対象学生

全学部生

●多様な科目群

専門分野に対応する科目群
スキル（読む・書く・聞く・話す）アップに対応する科目群
各自の英語レベルに対応する科目群　等

●目標

アカデミックイングリッシュのスキルを鍛え、専門分野を海外の大学で学ぶための土台を育成

◇履修条件

「特別英語」は外国語学部の専門教育科目ですが、一部の科目を除き、全学部生が履修できます。ただし、各科目にはレベル（超上級、超中級、準中級）が指定されています。目安となる各種英語検定のスコアは、以下のとおりです。

	IELTS	TOEFL iBT	TOEFL ITP	TOEIC L&R
超上級	5.5以上	54以上	521以上	600以上
超中級	4.5～5	39～54	470～520	500～600
準中級	4	～39	～470	～500

自分の持っている英語検定のスコアが目安に満たない場合、または目安以上の場合は、受講を希望するクラスの初日の授業で、必ず担当教員に相談してください。なお、各科目のレベルや詳しい授業内容は、シラバス等で確認してください。詳細は、特別英語履修説明会で説明します。説明会の開催については、電子掲示板POSTで案内します。

※GJP（グローバル・ジャパン・プログラム）

英語による科目（英語講義、特別英語）のうち、日本の文化、歴史、経済などを学ぶ科目を集めたものをGJPと呼んでいます。GJPの授業には、様々な国の協定校から来た交換留学生も多くいます。海外留学を考えている学生の準備科目として、また、留学から帰国した学生の語学力維持のための科目として活用することができます。

【科目一覧】 ※科目によって履修制限があります。

科目名	単位数	科目区分
GJP Introductory Seminar	2	共通教育科目（総合領域）
Religion in Japan	2	共通教育科目（人文科学領域）
Historical Origins of Modern Japan	2	共通教育科目（人文科学領域）
Japanese Culture in Historical Perspective	2	共通教育科目（人文科学領域）
World Heritage Sites in Japan	2	共通教育科目（人文科学領域）
Introduction to Japanese Literature	2	共通教育科目（人文科学領域）
Modern Japanese Literature	2	共通教育科目（人文科学領域）
Japanese Management and Business	2	共通教育科目（社会科学領域）
Introduction to Japanese Politics	2	共通教育科目（社会科学領域）
Modern Japanese Government	2	共通教育科目（社会科学領域）
Issues in Japanese Society	2	共通教育科目（社会科学領域）
Japanese Science & Technology	2	共通教育科目（自然科学領域）
経済学英語講義	2	経済学部専門教育科目
法学英書講読（日本の法律と司法制度）	2	法学部専門教育科目
日本の法律	2	法学部専門教育科目
Modern Japanese History	2	国際関係学部専門教育科目
英語で京都文化ⅠA	2	文化学部専門教育科目
英語で京都文化ⅠB	2	文化学部専門教育科目
英語で京都文化ⅡA	2	文化学部専門教育科目
英語で京都文化ⅡB	2	文化学部専門教育科目
英語で京都文化実習ⅠA	1	文化学部専門教育科目
英語で京都文化実習ⅠB	1	文化学部専門教育科目
英語で京都文化実習ⅡA	1	文化学部専門教育科目
英語で京都文化実習ⅡB	1	文化学部専門教育科目
英語で読む日本社会（上級）A	1	文化学部専門教育科目
英語で読む日本社会（上級）B	1	文化学部専門教育科目
英語で京都文化ⅢA	2	文化学部専門教育科目
英語で京都文化ⅢB	2	文化学部専門教育科目

在学留学

1．在学留学制度

「在学留学」とは、在学の状態で外国の大学へ留学することを言い、「休学」による留学は該当しません。

2．　留学の種類

在学留学には、次の３種類があります。

(1) 交換留学……本学と交流協定を締結している海外の大学（交流協定校）との間で、留学生を相互に派遣または受け入れることを言います。

(2) 派遣留学……本学の交流協定校へ本学学生を派遣することを言います。

(3) 認定留学……自分で留学したい大学（学位授与権のある大学）の入学許可書を取り寄せ、本学の許可を得て留学することを言います。

本学の交流協定校一覧は、Webサイトから確認できます（31カ国86大学１研究所／2021年２月時点）。

3．在学留学の資格要件

在学留学を申請する場合は、次の条件を満たしていなければなりません。また、留学に際し不適切な危険地帯等への留学は認められません。

(1) 本学に１年以上在学し、かつ外国語学部の定める所定の単位を修得している者

留学（出発）セメ	基　　準	
3セメ～	1セメ終了時	インテンシブ科目もしくは専攻○○語5単位を含む卒業要件単位15単位以上修得している者
4セメ～	2　〃	インテンシブ科目もしくは専攻○○語10単位を含む卒業要件単位30単位以上修得している者
5セメ～	3　〃	インテンシブ科目もしくは専攻○○語15単位を含む卒業要件単位45単位以上修得している者
6セメ～	4　〃	インテンシブ科目もしくは専攻○○語20単位を含む卒業要件単位60単位以上修得している者
7セメ～	5　〃	インテンシブ科目もしくは専攻○○語20単位を含む卒業要件単位75単位以上修得している者
8セメ～	6　〃	インテンシブ科目もしくは専攻○○語20単位を含む卒業要件単位94単位以上修得している者

(2) 心身共に留学に耐え得る健康状態である者

(3) 留学先大学等の要件を満たす者

(4) 保証人の承諾が得られる者

(5) 留学目的および留学計画が明確で適切であること

(6) 留学に必要な経済力を十分に有していること

※交換・派遣留学を希望する場合は、上記に加えて各プログラムで必要とされる学力・語学力要件を満たしていること。詳しくは、該当時期の募集要項を確認してください。

※認定留学の場合は、上記に加えて留学先の入学許可書を取得していること。

4．申請手続

(1) 交換・派遣留学

交換・派遣留学は、毎年４月及び10月に募集します。募集説明会の開催は電子掲示板POSTで案内します。応募希望者は、応募書類の提出期限を厳守のうえ、国際交流センター事務室へ申し込んでください。書類受付後は、面接を実施のうえ、学業成績、語学力等を総合的に判定し、留学生を決定します。

在学留学の資格は、前述（３．在学留学の資格要件）のとおりです。

(2) 認定留学

認定留学は、自分が留学したい大学（学位授与権のある大学）の入学許可書を各自が取り寄せ、本学の許可を得て留学する制度です。まずは留学計画や受講するコース、単位認定等について留学アドバイザーと十分相談したうえで、申請手続を行ってください。申請のためには、「認定留学希望届」を提出した後、留学先の入学許可書を取り寄せ、「認定留学願書」等の必要書類を期日までに提出する必要があります。提出されたすべての書類は、外国語学部の在学留学資格要件等を考慮のうえ、認定留学の可否を決定します。

□　認定留学申請書類
「認定留学希望届」、「認定留学願書」、「入学許可書の写し（和訳添付）」、「誓約書」、「留学届」
提出先：外国語学部事務室

□　提出期限（厳守）
春学期から出発する場合　１月末まで（「認定留学希望届」は、11月末まで）
秋学期から出発する場合　６月末まで（「認定留学希望届」は、４月末まで）

在学留学希望者は、学期始めに行われる外国語学部在学留学説明会に参加して、留学制度をよく理解し、留学アドバイザーから充分指導を受けたうえで申請してください。

5．留学期間の取扱い

(1) 留学期間は１学期間または１年間とし、本学の修業年限及び在学年数に算入します。
(2) 上述の留学期間はあくまでも学籍上の期間であり、実際の留学（渡航）期間を意味するものではありません。原則、春学期末は、７月末までに、秋学期は１月末までに帰国し、単位認定手続を行わねばなりません。（「12．単位認定の手続」参照）なお、留学先での滞在期間は、原則として、１学期間の場合は３ヵ月以上、また、１年間の場合は９ヵ月以上の滞在を要します。
(3) 留学期間を延長する場合は休学扱いとなり、「休学願」及び「渡航計画書」を外国語学部事務室へ提出のうえ許可を得なければなりません。

6．留学期間の始期及び終期

留学期間の始期及び終期は次のとおりですが、留学先での授業の都合上、これらの日付の前後に出国または帰国した場合でも、いずれかの日付に読み替えます。

＜始期　春学期始業日　または　秋学期始業日＞
「留学届」をもって学籍を「在学」から「留学」へ変更します。
＜終期　春学期終了日　または　秋学期終了日＞
「帰学届」をもって学籍を「留学」から「在学」へ変更します。

7．留学終了の手続

留学を終えて帰国した学生は、電子掲示板POSTより「帰学届」を打ち出し、速やかに外国語学部事務室へ提出してください。

8．留学中における本学学費

本学の学費は、在学留学中であっても、学則第43条に定めるとおり全額を納入することになりますが、本学の学費及び留学先の授業料や滞在費用等、かなりの留学費用がかさむことから、留学への経済的支援を後述（9．外国留学支援金）のとおり行っています。

9．外国留学支援金

在学留学する際の経済的支援として、次の外国留学支援金を支給します。なお、支給方法は、本学授業料から外国留学支援金額を差し引くことにより行います。

(1) 交換留学生及び派遣留学生
経済・経営・法・現代社会・国際関係・外国語・文化学部…55万円（年額）
理・情報理工・生命科学部…75万円（年額）

(2) 認定留学生
経済・経営・法・現代社会・国際関係・外国語・文化学部…45万円（年額）
理・情報理工・生命科学部…55万円（年額）

※上記金額は１年間留学した場合の金額です。１学期間の場合は半額となります。
※他の学費減免制度、奨学金制度等の適用を受けている場合は、授業料相当額を限度として併給調整して支給します。
※諸事情により上記金額を変更する場合があります。

10. 継続履修制度

「継続履修」とは、秋学期から翌年度の春学期まで１年間の留学期間の場合、留学前の春学期に履修している学期連結科目および通年科目を帰国後の秋学期に継続して履修することができることをいいます。継続履修を希望する場合は、留学前に必ず外国語学部事務室に「継続履修願」を提出し、承認を得ておかなければなりません。なお、帰国後、承認を得た科目であっても不開講その他の理由により継続履修できない場合があります。

11. 留学許可の取消

次のいずれかに該当した場合は、留学の許可を取り消すことがあります。また、留学が取り消された場合は、外国留学支援金は返還しなければなりません。

(1) 学生査証が認められない者
(2) 法令に違反した者又は学則その他の本学の規程等に違反した者
(3) 本学への学費等の納入を怠った者
(4) 留学先において成業の見込みがないと認められた者
(5) 病気その他やむを得ない事由により留学を続けることができなくなった者
※募集要項記載の条件等の基準を満たすことが出来なかった場合も留学許可が取り消される場合があります。

12. 単位認定の手続

在学留学の場合、留学先の大学で修得した単位の単位認定申請手続をしなければなりません。
留学先の大学で修得した単位のうち、適当と認められたものは、１年間留学した場合、48単位、１学期間留学した場合、24単位を限度として本学の卒業に必要な単位に認定することができます。ただし、１年間留学すれば48単位（１学期間24単位）が修得できるのではなく、あくまでも認定される最大限の単位であって、留学先での学習内容・学習量等によって認定される単位は変わります。なお、この留学での限度単位には後述（13. 夏季短期語学実習及び春季短期語学実習）の短期語学実習で認定された単位を含みます。

専門教育科目として単位認定するものは「外国留学特殊科目」、共通教育科目として単位認定するものは「外国留学科目」の科目名で、それぞれ認定されます。

単位認定に係わる必要書類としては、「単位認定申請書」の他、成績証明書、履修科目の時間数及び単位数を証明する書類、授業細目（シラバス）等の書類が求められますので、留学前に必ず外国語学部の留学アドバイザーまたは外国語学部事務室で確認しておいてください。

なお、単位認定書類は、春学期から１年間留学の場合は翌年１月末までに、秋学期から１年間留学の場合は翌年７月末までに外国語学部事務室に提出してください。春学期から１学期間留学の場合は７月末までに、秋学期から１学期間留学の場合は翌年１月末までに留学アドバイザーの教員に提出してください。

13. 夏季短期語学実習及び春季短期語学実習

夏季・春季短期語学実習は、引率者がつかない「自立型」のプログラムです。学部・年次を問わず参加できます。語学要件はプログラムによって異なりますが、事前の学習経験が必須となります。

募集説明会の開催は電子掲示板POSTで案内します。応募希望者は期間内に申請してください。(「夏季短期語学実習」の公募は４月、「春季短期語学実習」の公募は10月を予定）※春季短期語学実習については、８セメ生は応募できません。

なお、実習終了後、実習大学で交付された修了書等をもって単位認定の申請をした場合は、授業時間数に応じて共通科目の「海外実習科目」として、１～４単位が認定されます。
(定員に満たない場合は、中止することがあります。)

14. 留学相談

留学全般的な相談については国際交流センター事務室が、また、単位認定に関する相談は留学アドバイザー及び外国語学部事務室が担当しています。

なお、留学を希望される方は、在学中の履修計画や将来の進路も熟慮のうえ、早期から十分な計画を立てることが望まれます。また、海外に留学するのですから、日本では当たり前のことがそれぞれの国によって様々な法律、規則や慣習があり異なることが多々ありますので、留学してから戸惑うことのないよう、留学前には必ず留学先の歴史、文化、慣習等を理解しておくことが肝要です。

15. 危機管理

(1) 海外プログラム実施についての基本的な考え方

本学では、海外渡航の準備と海外プログラム実施期間中、学生の安全を守るための配慮と方策、そしてそれに基づく指導を可能な限り行いますが、海外プログラムに参加する学生は、各自が自主的に自覚と責任を持ち、適切な判断と行動をとらなければなりません。

原則として、本学の海外プログラムに参加する学生は、本学からの指示、連絡に従わなければなりません。

(2) 海外プログラム実施の判断基準（中止、延期、継続）

本学の海外プログラムの実施判断は以下３点の基準によって行います。

①渡航先国の事情（危険情報が出た場合等）

②プログラム実施機関等の事情

③個人的事情（病気等）

※上記事情により発生する費用はすべて自己負担となります。

出国までの流れ

交換・派遣留学希望者

↓

交換・派遣留学募集説明会および
外国語学部在学留学説明会に出席

↓

留学先国に関わらず、所属する専攻の
留学アドバイザーに申告する

↓

出願書類を国際交流センター事務室へ提出

↓

面　　接

↓

合　　格

↓

留学アドバイザーの指導を受ける

↓

危機管理説明会に出席

↓

出　　国

認定留学希望者

↓

外国語学部在学留学説明会に出席

↓

留学先国に関わらず、所属する専攻の
留学アドバイザーの指導及び認定留学先の確認を受ける

↓

認定留学希望届を提出（外国語学部事務室）

↓

留学先大学の入学許可書を取り寄せる

↓

※認定留学申請書類（注1）を
外国語学部事務室へ提出

↓

危機管理説明会に出席

↓

教授会承認

↓

留学許可

↓

出　　国

注１）認定留学申請書類
- 認定留学願（所定用紙）
- 留学先大学の入学許可書写し（訳文添付）
- 誓約書（所定用紙）
- 留学届（所定用紙）

※所定用紙は外国語学部事務室にあります。

帰国後の単位認定までの流れ

帰　　国

↓

帰学届を外国語学部事務室へ提出
単位認定申請書類を留学アドバイザーへ提出（注2）

↓

単位認定審査（筆記試験・口頭試問等を実施）

↓

学科・専攻会議（単位認定案を作成）

↓

教授会承認（単位認定）

注２）単位認定申請書類
- 留学科目単位認定申請書（所定用紙）
- 履修報告書（所定用紙）
- 授業時間割（所定用紙）
- 留学先大学での成績証明書・修了書（写し）
- 履修科目の受講時間数及び単位数の証明書（写し）
- 受講した科目の内容を説明した授業細目（シラバス）

※所定用紙は電子掲示板POSTのキャビネットにあります。

海外インターンシップ

■概要

海外インターンシップ（科目名「インターンシップ４」）は、夏期休暇を利用して、海外の企業や団体で約３～４週間の就業体験（インターンシップ）に参加する、正課科目です。プログラムは、インターンシップに加えて、業界研究やマナー講座などの事前授業、実習の振返りや成果報告などの事後授業で構成され、皆さんの実習での学びをサポートするよう、設計されています。

渡航先は、アジア・オセアニア地域が中心です。また就業先は、日本語教師アシスタント、旅行業、コンサルティング業などが用意されています。

インターンシップは、仕事内容や職場の状況を深く知ることができ、自分の適性や今後の進路選択について考えるきっかけになります。特に、海外でのインターンシップは、主体性や異文化コミュニケーションにおいて必要となるスキルを養うことができる絶好の機会です。グローバル化した社会の中で、海外を視野に入れた将来の進路について、実体験をもとに真剣に考えることができます。

■目標

・異文化に対する理解力と適応力を身につけ、効果的にコミュニケーションをとれるようになる。
・世界をフィールドにしている企業や団体に対する知識を深めることで、国際的な視点からキャリアについて考えられるようになる。
・自分の適性をより深く知り、将来のキャリアの方向性をより明確に捉えられるようになる。

■履修方法

配　当　年　次：２年次生、３年次生
対　象　学　部：全学部学科
単　　位　　数：４単位
履　修　方　法：書類選考と面接選考を実施し、履修者を決定します。
※募集説明会を実施しますので、履修希望者は募集説明会に必ず参加してください。（募集説明会の詳細は電子掲示板POST等で告知します。）
履修上の注意：同一年度に履修できるインターンシップ科目は１科目とします。ただし、同一年度でなくても、インターンシップ１、インターンシップ２はいずれかの科目、インターンシップ３、インターンシップ４はいずれかの科目しか履修できません。
※その他の同時履修不可科目については、履修要項別冊ガイドを参照してください。

■参考：過年度の就業先（実績）

国名（または行政区）	都市名	業種等
中国	上海	メーカー（衣料、精密機器）
香港	九龍	大学職員アシスタント
台湾	台北	コンサルタント業
韓国	ソウル	信用調査業、語学堂アシスタント
ベトナム	ダナン	旅行業
オーストラリア	シドニー	旅行業、ホテル業、中学・高等学校
ニュージーランド	オークランド、クライストチャーチ	物流、中学・高等学校、日本語教員アシスタント、メディア＆マーケティング・コミュニケーション

教　職　課　程

教職課程

外国語学部で中学校及び高等学校の教員を志望する人のために、以下に示す教職課程が設けられています。専攻の専門教育科目など卒業に要する単位を修得するとともに、教育職員免許法及び同施行規則で定められている免許状取得に必要な単位を修得した人は、教員免許状を取得できます。また、佛教大学又は聖徳大学の通信教育課程を併修することにより、小学校教諭免許状を取得することも可能です。ただし、計画的に履修しないと教育実習の履修資格を得られず、免許状授与の要件を満たすことができなくなりますので注意してください。

1．取得できる免許状の種類及び教科

学　科	免許状の種類・教科	
	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
英　語　学　科	英　　語	英　　語
ヨーロッパ言語学科	英　　語 ドイツ語 フランス語	英　　語 ドイツ語 フランス語
アジア言語学科	国　　語 英　　語 中国語	国　　語 英　　語 中国語

※英語の教員免許状はすべての学科で取得可能です。ドイツ語・フランス語・中国語の教員免許状については、該当の学科で各言語を専攻している場合に限ります。国語の教員免許状については、日本語・コミュニケーション専攻に限ります。

教職課程に関する相談
教職課程の履修相談及び教員免許状取得に関する質問等がある場合は、教職課程教育センター（10号館１階）へ来室してください。

教職に関する資料
教職課程教育センターの書架に、教員採用試験問題集、中学校及び高等学校の教科書等を置いています（貸出可）。また、図書館の資格・就職コーナー、雑誌コーナーにも教職に関する資料があります。積極的に活用してください。

教職課程に関する掲示
教職課程に関する重要なお知らせは、電子掲示板POST及び教職課程掲示板（10号館１階）にて掲示します。**必ず1日に1回は確認するようにしてください。**

2．免許状取得に必要な基礎資格と最低修得単位数

必要な基礎資格	学士の学位を有すること （学部の履修規定をよく読んで卒業要件単位数を満たすこと）

必要な区分（法定単位）		本学における最低修得単位数		
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法（2）	各免許状共通		2
	体　育（2）			3
	外国語コミュニケーション（2）	英語学科		4
		ヨーロッパ言語学科		2
		アジア言語学科		2
	情報機器の操作（2）	各免許状共通		2
教育の基礎的理解に関する科目等（中学校27）（高校23）		中学校	国語 英語 ドイツ語 フランス語 中国語	33
		高校	国語 英語 ドイツ語 フランス語 中国語	29
教科及び教科の指導法に関する科目（中学校28）（高校24） ＊取得希望教科ごとに修得すること		中学校	国語 英語 ドイツ語 フランス語 中国語	28
		高校	国語 英語 ドイツ語 フランス語 中国語	24
大学が独自に設定する科目（中学校4）（高校12） ＊取得希望教科ごとに修得すること		中学校	国語 英語 ドイツ語 フランス語 中国語	0
		高校	国語 英語 ドイツ語 フランス語 中国語	6

（　）内に示す単位数は、教育職員免許法に定める単位数であり、本学では上記「本学における最低修得単位数」をすべて修得しなければ、卒業と同時に免許状を取得することはできません。

教職課程の詳細は、「教職課程履修要項」で確認してください。

図書館司書課程
学芸員課程
学校図書館司書教諭課程

図書館司書課程

◇目的

図書館法第２条に定められている公立図書館及び私立図書館などに専門的職員として置かれる司書の資格を取得するための課程です。

司書は、地方公共団体が設置する公立図書館などで、図書館資料の選択・発注・受入から、分類・目録作成・貸出業務・レファレンスなどを行う専門的職員です。

司書となる資格については、図書館法第５条第１項第１号に「大学を卒業した者で大学において文部科学省令で定める図書館に関する科目を履修したもの」と定められています。司書資格取得に必要な科目を修得すれば、卒業と同時に資格を得ることができます。ただし、飛び級による大学院進学については、大学卒業の条件を満たしていないと見なされるため、当該資格を取得することはできません。

本課程を履修し、国際化・情報化・生涯学習時代という現代の状況下で活躍できる司書としての能力を身に付けてください。

◇履修条件

図書館で働きたいという、強い意志のある者。

本課程を履修し、資格を取得するには、課程登録をする必要があります。詳細については各学期開始前に開催される課程登録説明会に出席し確認してください。

なお、司書の資格を取れば、図書館の正職員に即採用されるというわけではありません。例えば公立図書館の場合は、各自治体が実施する採用試験に合格し、図書館に配属されることにより、司書として働くことができます。

◇修了証書の発行

卒業要件を満たし、本課程所定の必修科目28単位、選択科目３単位以上、計31単位以上を修得した者には、「図書館司書課程修了証書」を発行します。なお、証書は卒業式当日に授与します。

◇構成

	法令上の科目	
	科　目　名	単位
必修科目	生涯学習概論	2
	図書館概論	2
	図書館制度・経営論	2
	図書館情報技術論	2
	図書館サービス概論	2
	情報サービス論	2
	児童サービス論	2
	情報サービス演習	2
	図書館情報資源概論	2
	情報資源組織論	2
	情報資源組織演習	2
	必修科目の合計単位数	22
選択科目	図書館情報資源特論	1
	図書館基礎特論	1
	図書館サービス特論	1
	図書・図書館史	1
	図書館施設論	1
	図書館総合演習	1
	図書館実習	1
	うち２科目以上	2

	本学における開講科目		配当年次（当該年次以上は履修可能）	科目区分（卒業要件算入等については、各学部の履修規定で確認のこと）	備　考
	科　目　名	単位			
必修科目	生涯学習概論	2	1	文化学部専門教育科目	注）1.
	図書館概論	2	1	文化学部専門教育科目	注）1.
	図書館制度・経営論	2	1	文化学部専門教育科目	注）1.
	図書館情報技術論	2	2	文化学部専門教育科目	注）1.　2.
	図書館サービス概論	2	1	文化学部専門教育科目	注）1.
	情報サービス論	2	2	文化学部専門教育科目	注）1.
	児童サービス論	2	2	文化学部専門教育科目	注）1.
	情報サービス演習Ⅰ	2	2	文化学部専門教育科目	注）1.　3.
	情報サービス演習Ⅱ	2	2	文化学部専門教育科目	注）1.　3.
	図書館情報資源概論	2	1	文化学部専門教育科目	注）1.
	情報資源組織論	2	2	文化学部専門教育科目	注）1.
	情報資源組織演習Ⅰ	2	3	文化学部専門教育科目	注）1.　4.
	情報資源組織演習Ⅱ	2	3	文化学部専門教育科目	注）1.　4.
	図書館情報資源特論	2	1	文化学部専門教育科目	注）1.
	必修科目の合計単位数	28			
選択科目	図書館基礎特論	2	2	文化学部専門教育科目	注）1.
	図書館サービス特論	1	1	文化学部専門教育科目	注）1.
	図書及び図書館史	2	1	文化学部専門教育科目	注）1.
	図書館施設論	1	2	文化学部専門教育科目	注）1.
	うち３単位以上	3			

注）１．本課程登録者のみ履修可能です。
２．「図書館概論」修得済みの者のみ履修可能です。
３．「情報サービス論」修得済みの者のみ履修可能です。
４．「情報資源組織論」修得済みの者のみ履修可能です。
※所属学部により履修登録の方法が異なります。詳細は説明会または所属の学部事務室で確認してください。

◇履修モデル（実状を考えて作った一例です。科目ごとの配当年次と一部異なっています。）

１年次	２年次	３年次	４年次
生涯学習概論 **図書館概論** **図書館制度・経営論** **図書館サービス概論** **図書館情報資源概論**	**情報サービス論★** **児童サービス論** **情報サービス演習Ⅰ** **情報サービス演習Ⅱ** **情報資源組織論◆** **図書館情報資源特論** 図書館サービス特論	**図書館情報技術論** **情報資源組織演習Ⅰ** **情報資源組織演習Ⅱ** 図書館基礎特論 図書及び図書館史	図書館施設論

※太字は必修科目
※★印は「情報サービス演習Ⅰ」及び「情報サービス演習Ⅱ」を履修するための先修要件
※◆印は「情報資源組織演習Ⅰ」及び「情報資源組織演習Ⅱ」を履修するための先修要件
※太字以外の選択科目から３単位以上修得すること

学芸員課程

◇目的

博物館に専門的職員として置かれる学芸員の資格を取得するための課程です。

学芸員は、博物館に置かれる専門的職員で、博物館資料の収集、保管、展示、調査研究及びその他これと関連する事業について専門的な職務に従事します。また、埋蔵文化財などに関わる発掘調査員という進路が考えられます。

学芸員の資格は、博物館法第５条第１項第１号に「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」と定められており、取得に必要な科目を履修し単位を修得すれば、卒業（学士の学位授与）と同時に資格を得ることができます。

国際化・情報化・生涯学習時代という現在の状況で活躍できる学芸員としての能力を身に付けてください。歴史資料・美術品・文化財・伝統文化などを将来に伝える意義のある仕事です。

◇履修条件

博物館で働きたいという強い意志のある者。

大切な文化財・文化遺産を、後世まで守り伝えていこうという強い思いのある者。

本課程を履修し、資格を取得するには、課程登録をする必要があります。詳細については各学期開始前に開催される課程登録説明会に出席し確認してください。

なお、学芸員の資格を取れば、博物館の正職員に即採用されるというわけではありません。学芸員としての採用は、学部を卒業しただけでは厳しく、大学院修士課程修了以上もしくはそれと同等の知識及び経験を有することを求められるのが実状です。

資格取得には実習科目の修得が必要となりますが、真面目に取り組まない者には学外館園で実習を行う「博物館実習Ⅱ」の履修を認めません。実習受け入れ先館園及び資格取得を目指す他の学生に多大な迷惑を掛けることになりますので、十分留意してください。

◇課程運用費

「博物館実習Ⅱ」における館園実習を含め、他科目における学外実習の拝観料及び課程の運用に係るその他費用を、「博物館実習Ⅰ」を履修する年度に納める必要があります。詳細については、「博物館実習Ⅰ」を履修する前年度末（３月末）の在学生対象ガイダンスに出席し確認してください。

◇修了証書の発行

卒業要件を満たし、本課程所定の必修科目21単位、選択科目８単位以上、計29単位以上を修得した者には、「学芸員課程修了証書」を発行します。なお、証書は卒業式当日に授与します。

◇構成

	法令上の科目	
	科　目　名	単位
必修科目	生涯学習概論	2
	博物館概論	2
	博物館経営論	2
	博物館資料論	2
	博物館資料保存論	2
	博物館展示論	2
	博物館教育論	2
	博物館情報・メディア論	2
	博物館実習	3
	必修科目の合計単位数	19

注）１．本課程登録者のみ履修可能です。
２．「博物館概論」、「博物館資料論」及び「博物館教育論」を含む本課程必修科目10単位以上修得した者のみ履修可能です。
３．文化学部生以外の学生は、所定の期間内にWeb履修登録画面から申請してください。
４．同一科目名の、理学部物理科学科開講もしくは理学部宇宙物理・気象学科開講どちらかのみ履修可能です。
※所属学部により履修登録の方法が異なります。課程登録説明会または所属の学部事務室で確認してください。

	本学における開講科目		配当年次（当該年次以上は履修可能）	科目区分（卒業要件算入等については、各学部の履修規定で確認のこと）	備　考
	科　目　名	単位			
必修科目	生涯学習概論	2	1	文化学部専門教育科目	注）１．
	博物館概論	2	1	文化学部専門教育科目	注）１．
	博物館経営・情報論	2	1	文化学部専門教育科目	注）１．
	博物館資料論	2	2	文化学部専門教育科目	注）１．
	博物館資料保存論	2	3	文化学部専門教育科目	注）１．
	博物館展示論	2	2	文化学部専門教育科目	注）１．
	博物館教育論	2	2	文化学部専門教育科目	注）１．
	視聴覚メディア論	2	2	文化学部専門教育科目	注）１．
	博物館実習Ⅰ	2	3	文化学部専門教育科目	注）１．２．
	博物館実習Ⅱ	1	3	文化学部専門教育科目	注）１．２．
	文化財入門	2	1	文化学部専門教育科目	注）３．
	必修科目の合計単位数	21			
選択科目	日本史概論	2	2	文化学部専門教育科目	注）３．
	日本史資料論Ⅰ	2	2	文化学部専門教育科目	注）３．
	日本史講読ⅠA	2	2	文化学部専門教育科目	注）３．
	日本史講読ⅠB	2	2	文化学部専門教育科目	注）３．
	考古学入門	2	1	文化学部専門教育科目	注）３．
	考古学A	2	2	文化学部専門教育科目	注）３．
	考古学B	2	2	文化学部専門教育科目	注）３．
	文化人類学	2	1	文化学部専門教育科目	注）３．
	芸術入門	2	2	文化学部専門教育科目	注）３．
	美術史A	2	2	文化学部専門教育科目	注）３．
	美術史B	2	2	文化学部専門教育科目	注）３．
	工芸デザイン論	2	2	文化学部専門教育科目	注）３．
	京都文化特論Ⅱ	2	3	文化学部専門教育科目	注）３．
	京都の美術工芸史	2	2	文化学部専門教育科目	注）３．
	京都の民俗	2	2	文化学部専門教育科目	注）３．
	民俗学概論	2	1	文化学部専門教育科目	注）３．
	科学史入門	2	1	共通教育科目	
	科学コミュニケーション入門	2	1	共通教育科目	
	力学A	2	1	理学部専門教育科目	注）４．
	力学B	2	1	理学部専門教育科目	注）４．
	電磁気学A	2	2	理学部専門教育科目	注）４．
	電磁気学B	2	2	理学部専門教育科目	注）４．
	天文学概論	2	2	理学部専門教育科目	
	地球惑星科学概論	2	1	理学部専門教育科目	
	うち８単位以上	8			

◇履修モデル（「考古学」をコアに選択科目を履修した一例です。科目ごとの配当年次と一部異なっています。）

１年次	２年次	３年次	４年次
生涯学習概論 **博物館概論★** **博物館経営・情報論** **文化財入門** 考古学入門	**博物館資料論★** **博物館展示論** **博物館教育論★** **視聴覚メディア論** 考古学A 考古学B	**博物館資料保存論** **博物館実習Ⅰ** 工芸デザイン論 京都文化特論Ⅱ	**博物館実習Ⅱ**

※太字は必修科目　※★印は必修科目かつ「博物館実習Ⅰ」及び「博物館実習Ⅱ」を履修するための先修要件　※選択科目から８単位以上修得すること

学校図書館司書教諭課程

◇目的

学校図書館法第２条に定められている学校図書館で専門的業務を行う教員としての資格（司書教諭資格）取得を目指す課程です。

司書教諭とは、小学校（特別支援学校の小学部を含む。）、中学校（中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。）及び高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）の学校図書館で、その運営や読書指導、情報活用能力の育成をはじめ、図書資料などの選択・収集・整理、教員への参考資料案内などの専門的な職務を掌る教員をさします。

現在の学校教育では、児童生徒に自ら学び自ら解決する力をつけることが求められています。また、新学習指導要領においても、児童生徒の言語能力の育成や、各教科における言語活動の充実が盛り込まれており、これらの実践にも本資格は大きく寄与するものと思われます。

◇履修条件

小学校・中学校・高等学校の教員として、さらに学校図書館の運営や読書指導、情報活用能力の育成、各教科における言語能力の育成にも積極的に取り組みたいという意欲のある者。

本課程を履修し、資格を取得するには、課程登録をする必要があります。また、卒業及び教員免許状の取得がないと、結果的にこの資格は取得できないので、まずは学部の授業や教職関係の授業をきちんと履修し、そのうえで計画的にこの課程の科目を履修してください。したがって登録手続は２年次以降となります。詳細については各学期開始前に開催される課程登録説明会に出席し確認してください。

なお、司書教諭の資格をとれば、即学校図書館に就職できるわけではありません。都道府県及び政令指定都市が実施する公立学校教員採用候補者選考試験などに合格し、教員として働くことが前提となります。

◇修了証書の発行

教員免許状を取得し、本課程所定の必修科目10単位を修得した者は、卒業後に本学を通して文部科学省に申請するという手続が必要です。文部科学省が発行した「学校図書館司書教諭講習修了証書」は、卒業から約１年後にみなさんの手元に届きます。詳細については、所定の時期に行われるガイダンスに出席し確認してください。

◇構成

	法令上の科目	
	科　目　名	単位
必修科目	学校経営と学校図書館	2
	学校図書館メディアの構成	2
	学習指導と学校図書館	2
	読書と豊かな人間性	2
	情報メディアの活用	2
	必修科目の合計単位数	10

	本学における開講科目		配当年次（当該年次以上は履修可能）	科目区分（卒業要件算入等については、各学部の履修規定で確認のこと）	備　考
	科　目　名	単位			
必修科目	学校経営と学校図書館	2	2	文化学部専門教育科目	注）1.
	学校図書館メディアの構成	2	2	文化学部専門教育科目	注）1.
	学習指導と学校図書館	2	2	文化学部専門教育科目	注）1.
	読書と豊かな人間性	2	2	文化学部専門教育科目	注）1.
	視聴覚メディア論	2	2	文化学部専門教育科目	注）1.
	必修科目の合計単位数	10			
選択科目	児童サービス論	2	2	文化学部専門教育科目	注）1. 2.
	学校図書館演習	2	3	文化学部専門教育科目	注）1. 2. 3.
	情報サービス論	2	2	文化学部専門教育科目	注）1. 2.

注）１．本課程登録者のみ履修可能です。
２．選択科目は、司書教諭としてのスキルアップのために設けています。未修得の場合でも当該資格の取得は可能です。
３．「学校図書館メディアの構成」修得済みの者のみ履修可能です。
※所属学部により履修登録の方法が異なります。詳細は説明会または所属の学部事務室で確認してください。

◇履修モデル（実状を考えて作った一つのモデルです。科目ごとの配当年次と一部異なっています。）

１年次	２年次	３年次	４年次
	学校経営と学校図書館 **読書と豊かな人間性** **視聴覚メディア論**	**学校図書館メディアの構成** **学習指導と学校図書館** 児童サービス論 情報サービス論	学校図書館演習

※太字は必修科目
※太字以外の選択科目は資格取得要件に含まない